

組合名	事務所所在地	組合區域	事業費	設置年月日
東面水利組合	慶尚南道昌原郡大山面齊洞里	九六町	八五、〇〇〇	一、一〇、六
津南水利組合	京畿道丹陽郡津南面巨谷里	三三九	一〇〇、八七九	一、一〇、三
博川水利組合	平安北道博川郡博川面西谷洞	三、一〇二	一、四八〇、九六九	一、一、一六
江西水利組合	平安南道江西郡江西面德興里	一、九三三	八六、二〇〇	一、一、一六
陽川水利組合	京畿道金浦郡陽東面加陽里	六三三	三三、〇〇〇	一、一、一
穩城水利組合	咸鏡北道穩城郡穩城面西興洞	四三三	三三、〇〇〇	一、一、一
南大水利組合	咸鏡南道端川郡波道面西上里	四九	一〇五、二〇〇	一、一、一
舒川水利組合	忠清南道舒川郡舒川面郡司里	三、三三七	一、四八、九〇〇	一、一、一
富平水利組合	京畿道富川郡桂南面深谷里	三、八七三	二、五二五、〇〇〇	一、一、一
春柳水利組合	咸鏡南道定平郡春柳面靈谷里	一、一三五	三、一五、九〇〇	一、一、一
碧井堤水利組合	忠清南道洪城郡廣川面廣川里	七、七三七	三、八八五、九三三	一、一〇、二
計(五四)				

### 第三節 府郡島臨時恩賜金

併合の際特に下賜せられたる臨時恩賜金三千萬圓の内一千七百三十九萬八千圓は之を

府郡島に配與して永久に保存せしめ其の利子の凡五分の三は投産に其の五分の一・五は教育に、五分の〇・五は凶歉救済の資に充つるの方針を以て事業を計畫し若は適切なる事業に對して補助を與へ治く惠恤撫養の本義に副はしむることゝなし來りしも大正九年一月よりは更に事業の範圍を擴張し從來投産費に充てたる資金の一部を割きて新に社會救済に關する事業を行ふことゝし恩賜金事業をして世情の推移に順應せしめむことを期せり大正九年一月十三日齋藤總督は之に關して左の諭告を發したり

曩ニ併合ノ行ハルルニ際シ 聖旨ニ依リテ特ニ國幣一千七百餘萬圓ヲ府郡島ニ配與シ專ラ士民ノ投産、教育、凶歉救済ノ資源ニ充テシメタリ爾來殆ト十年之ニ依リテ救恤惠養ノ途ヲ開キシコト尠少ニ非ス然ルニ近世歐洲大戰ノ後社會ノ情勢一變シテ中産以下ノ者生活ノ脅威ヲ受クルコト最モ甚シク之カ對策ヲ講スルハ洵ニ刻下ノ急務ニ屬ス此ニ於テ今次從來恩賜金ヲ以テ經營セル事業ノ範圍ヲ擴張シ産業補助ニ充當シタル投産費ノ一部ヲ分チ新ニ社會救済ノ事業ヲ行ヒ以テ聖澤ノ霑被ヲ期セシメムトス一般民衆其レ克ク此ノ意ヲ體シテ救恤ノ本旨ニ違フナク益奉公ノ至誠ヲ竭シテ 聖旨ニ奉答スル所アルヘシ

授産事業に在りては生業を授くるを本旨とし且成るべく普遍的に之を施設し適切に其の惠澤に均霑せしむることを期したるを以て府郡島の實況を参酌して其の事業を選定せり從て其の種類甚だ多様に涉れるも概括すれば養蠶、機業、製絲、製炭、製紙及水産其他に關する傳習事業等其の主要なる事項に屬し實業巡回教師の設置、農蠶業、水産業及各種工業に關する種苗、器具其他材料等の配付亦此の財源に依りて概ね各地方に於て經營せらる傳習事業中比較的長期の養成を目的とする傳習所の數は各道を通じて毎年數十個所其の生徒の數千數百人乃至二千數百人を算し事業開始以來を通計すれば約二萬人に達し短期簡易の傳習に至りては隨時各所に行はれて其の傳習を受くるもの亦數千人に及べり此等の傳習修了者は既に殆ど各方面に普及して巡回教師の指導、種苗器具の配付等と相俟て地方産業の改良を促し又は新なる物産の産出に従事する等著著効績を挙げつゝあり又教育事業に在りては普通教育の普及を圖る爲主として公立普通學校經費を補助し凶歉救濟事業に在りては水旱害其他の災害に際し食糧、種穀、農具、小屋掛材料給與等の方法に依りて救助を行ふも其の必要な年に於ては餘資を蓄積して他日の凶荒に備ふることゝし社會救濟事業に在りては大正九年に於て實

施の端を開きしものなるを以て未だ充分なる成果を收むるに至らざるも各道に於て計畫せる事項を擧ぐれば醫師の配置、貧民の救療及府面又は特志家の事業たる公設市場、労働者宿泊所、浮浪人收容所、公設浴場、人事相談所、職業紹介所、育兒事業、住宅調節費等に對する補助等となす臨時恩賜金配與額左の如し

臨時恩賜金配與額

道	臨時恩賜金額	利一年度分	事業費			
			授産及社會救濟費	教育費	凶災救濟費	別
京畿道	1,140,000	1,111,111	1,111,111	11,110	11,110	11,110
忠清北道	1,140,000	1,111,111	1,111,111	11,110	11,110	11,110
忠清南道	1,140,000	1,111,111	1,111,111	11,110	11,110	11,110
全羅北道	1,140,000	1,111,111	1,111,111	11,110	11,110	11,110
全羅南道	1,140,000	1,111,111	1,111,111	11,110	11,110	11,110
慶尙北道	1,140,000	1,111,111	1,111,111	11,110	11,110	11,110
慶尙南道	1,140,000	1,111,111	1,111,111	11,110	11,110	11,110

道	臨時恩賜金	利一年度分	專 業 費 別	
			會授產及社 救濟費	教育費 救凶濟費
黄 海 道	1,025,000	55,000	33,810	12,180
平 安 南 道	1,966,000	55,000	31,360	15,640
平 安 北 道	1,199,000	55,000	30,000	17,250
江 原 道	1,186,000	55,000	30,000	17,120
咸 鏡 南 道	882,000	55,000	26,000	10,000
咸 鏡 北 道	555,000	55,000	16,640	8,000
總 計	7,728,000	326,000	171,870	86,920

第四節 郷校財産

郷校財産は地方文廟の祭祀及經學を講明する爲主として地方儒林よりの鳩財及政府より特に下附せられたるもの等より成れる公共的性質を有する財産にして殆ど大部分不動産に屬し高麗朝以來約六七百年の歴史を有し併合以來府尹郡守島司をして殆ど大部分に當らしめ其の収入は一部祭祀費に充つる外大部分公立普通學校の經費に充當し來り

しも近年向學心の勃興に伴ひ教育に對する一般の自覺著しきものあり加ふるに學校費令の制定以來其の負擔力亦著しく擴大せられたるを以て大正九年六月該財産管理規程を改正して普通學校經費に充當することを止め専ら文廟の維持と社會教化事業の施設に使用するの途を啓き府尹郡守島司をして管理せしむるは従前に異らざるも其の使途に關しては儒林中より選出する掌議の意見を聽きて之を定めしむることとし儒林をして自ら進んで儒道の本義を闡明し社會教化に努力するの氣運を養ひ以て民風作興の資に供せしめんことを期せり

郷校財産歳入出豫算

大正十二年度

道 名	歳 入		歳 出								
	財産收入	其他	計	祭祀費	教化費	修繕費	雜給費	費用	財產管理費	其他普通學校費	豫備費
京畿道	33,140	16,470	49,610	3,457	3,271	4,859	3,957	1,398	4,959	2,057	19,710
忠清北道	10,855	4,781	15,636	2,381	4,811	1,400	555	1,584	3,311	555	11,299
忠清南道	11,773	6,111	17,884	4,333	3,377	2,777	2,098	1,436	5,145	3,090	11,290
總 計	55,768	27,362	83,130	10,171	11,459	9,036	9,519	4,426	14,225	6,702	42,185

道名	歳入			歳出						計		
	財産収入	其他	計	享祀費	教化費	修繕費	雑給費	費用	財産管理費		其他	
全羅北道	三九、三六三	七、八〇三	三、一六五	五、五九三	八、四四三	三、八五七	三、六五一	一、九九六	八、五〇三	三、〇〇四	三、二一九	三、七、一六五
全羅南道	三八、七五〇	一六、六六五	五、四四五	六、三九八	九、五九七	一、二二三	五、〇八五	一、五五三	三、六六三	二、六四四	五、三六五	五、三六五
慶尙北道	四三、三七八	一四、一八五	五、四四三	六、二四一	一、一〇〇	五、三四九	七、三三九	一、八三六	一、〇七四	七、九六六	二、一五九	六、四三三
慶尙南道	四一、八三六	二八、二八六	七〇、一三四	六、一九八	三、一八〇	七、二八七	四、一八九	三、三九二	九、八七一	二、三五四	四、八六二	四、八六二
黄海道	一四、九九九	九、〇〇四	三、四一四	三、一八六	三、六七〇	一、〇〇〇	一、七三五	一、一五〇	二、四六三	二、〇九九	一、八六六	三、四一四
平安南道	一三、三三三	七、三三四	二、〇六七	二、四四五	九、三四九	—	一、九一七	七、六三三	二、二〇五	五、五一一	一、四〇八	三、〇六三
平安北道	三三、三九九	六、八七二	三、〇一一	四、〇四八	七、一四〇	一、八九七	一、三五二	二、一四三	三、〇一八	九、五四〇	三、〇一八	三、〇一八
江原道	一五、〇五八	五、六四〇	三、〇六八	五、五三〇	四、一九三	一、八三二	二、四一八	四、四〇〇	六、四〇七	一、三〇〇	一、七五五	三、〇六三
咸鏡南道	七、〇六六	二、四六四	九、五三一	一、一七四	二、七九二	六、四〇一	一、二九三	四、八七	一、〇三三	一、三三六	八、六四	九、五三一
咸鏡北道	三、四三五	六、二二四	九、四三九	九、一八	八、六一	三、〇〇九	九、七八	一、七	一、〇三三	二、三二九	一、七八	九、四三九
總計	二八六、二七七	一三二、六九二	四七、七九八	四九、七五九	一、五三	三、〇〇〇	三、七三三	一、六八三	九、九六五	三、七三三	一、七三三	四、七三三
大正元年	一一五、〇三三	三五、六三八	一五〇、六〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二年	一四〇、三三三	四〇、〇六三	一八〇、三九六	四、一七九	—	七、一六二	一、四九六	—	一、〇三三	一〇、三三三	一、〇三三	一、〇三三

書院の濫觴

同三年	一六、一九〇	三三、六〇七	一九五、五二〇	三、九五五	—	五、九八二	一三、〇一八	—	三、七、九三二	一、六〇〇	一、七、一七二	一、九五、五二〇
同四年	一五五、一四九	二、七四九	一七六、八九四	三、三〇八	—	四、四四四	九、〇三三	—	三、三、三四七	—	一、二四一	一、六六、八九四
同五年	一五〇、〇〇〇	一四、五六八	一六四、五六八	三、三〇七	—	五、七三三	八、九八八	—	三、二、三四四	—	一、〇七五	一六四、五六八
同六年	一五二、〇七二	二、二六九	一七四、三四四	三、一八五	—	一〇、三三三	八、九八八	—	三、三、二二二	—	一、〇七五	一七四、三四四
同七年	一六四、七六三	二六、一四〇	一九〇、九〇三	三、五三三	—	一三、五三四	八、七七八	—	三、三、三四四	—	一、二七二	一九〇、九〇三
同八年	三三三、九七九	四三、一四三	三七八、一二二	四、五五三	—	一八、九八二	一、二三四	—	三、六、二二二	—	一、七三三	三三三、九七九
同九年	三三二、〇一〇	三七、九〇六	三六九、九一六	三、〇一〇	—	一八、九八二	一、二三四	—	三、六、二二二	—	一、七三三	三六九、九一六
同十年	三三三、〇三三	一〇〇、四八七	四三三、五二〇	五、三三三	—	三三、八七三	一、八三四	—	四、三、三四四	—	一、二三四	四三三、五二〇
同十一年	三三三、〇三三	一九、六七四	三五二、三五六	五、〇五八	—	三三、八七三	一、八三四	—	四、三、三四四	—	一、二三四	三五二、三五六

書院の濫觴は、中宗朝三十六年、豊基<sup>今慶尙北道内郡守周世鵬といふもの、高麗の名臣文成公の舊基に祠宇を建て、</sup>白雲洞書院と名つけしにありとす、精密にいへば書院と稱せしもの其の以前に二三なきにあらざるも、明宗<sup>第十の時、李滉(退溪)の</sup>上言に基き、

白雲洞書院に紹修書院といふ額を賜ひ、又書冊、奴婢、田結を給したるより書院大に起りしりば、白雲洞書院は最も有名となり、書院の嚆矢と云はるゝに至れりといふ。

## 第五章 社會事業

### 第一節 一般社會事業

社會課の設置 朝鮮に於ける社會事業行政は從來本府内務局第二課内に於て處理し來りたるも大正十年七月事務分掌規程を改めて内務局に社會課の一課を新設し各道亦多くは新に社會事業係若は社會課を置きて此等の事務を取扱はしめたる以來社會事業の面目爲に一新するに至れり

社會事業獎勵補助 感化救済及地方改良等の社會事業に對する本府の補助は大正十年以後に於て其の範圍を擴張し事務の發達を援助せり

巡回講演 社會教化に關しては明治四十五年五月以降朝鮮語及朝鮮の習俗に精通し且社會教化に關し學識經驗を有する專任指導者を内務局に置き隨時地方に派遣して巡回講話を爲さしめ民風の改善、勤務貯蓄、民力涵養乃至生活改善に關する獎勵を行ひつゝあり

青年團の指導 朝鮮人青年團體指導者養成の趣旨を以て各道より青年團幹部三十餘名を選抜し第一回内地視察團を編成して内地に於ける優良農村並青年團體の着實なる活動狀況及都會地に於ける文化的施設を視察せしめたるが朝鮮青年の指導啓發及地方改良上効果を尠なからざりしを以て近く第二第三の視察團派遣の豫定なり

勤儉貯蓄の奨励 農閑期を利用し藁、繩、吠、草鞋の製作及布織又は養蠶、養鶏に従事せしめ或は冠婚葬祭の費用其の他の冗費を節して之を貯蓄せしめたるに好果見るべきものあり全部に亘りて一々數字を以て説明し難きも貯蓄及副業を目的とする稷、組合に就て見るに大正十年末現在に於て稷、組合數九千五百八十一稷、組合員數九十萬八千七百四十人を算し其の貯蓄額四百二十六萬五千圓に達せり

篤志者の表彰 大正三年以降面長、府面吏員、學校組合吏員又は水利組合吏員中成績優良にして他の模範たるべき者及産業、土木、教育、救濟其の他公共事業に功勞を有し地方の儀表たるに足るべき篤行者に就き本府に於て之を表彰すると共に各道知事を以て表彰せしめ以て地方民心の作興に資せしめつゝあり

各種防貧的施設 輓近都會地に於ける住宅拂底の實況に鑑み京城及大邱に於ては府營

住宅を建設し以て住宅難の緩和を圖れる外京城、平壤、大邱、群山及釜山に於ては公設市場を設け又平壤府に於ては公設浴場、理髮場、人事相談所、共同宿泊所及兒童相談所を設置し仁川府に於ては労働者宿泊所、職業紹介所、大邱府に於ては共同洗濯場、新義州府に於ては労働者宿泊所、職業紹介所、簡易食堂及共同洗濯場を經營し又全羅北道に於ては資金と貸與して低利の質素を營みつゝあり

小作問題 近時地主小作人間の爭議漸く複雑となるの傾向あり過般全羅北道及慶尙北道に於ては地主會を開き地主對小作人間の諒解を得しめ相互の推讓に依りて其の爭議を未然に防止することに努めつゝあり

私營社會施設 民間有志者、布教團體、慈善團體に於て經營せる社會事業左の如し

私營社會施設

社會事業連絡研究機關	二	人事相談	三
社會事業經營助成機關	二	簡易食堂	一
委員制度	一	私設住宅	一
隣保事業	三	宿泊救護	一

職業紹介	二	窮民救助	一六
兒童相談	一	罹災救助	一
感化教育	一	老助	一
孤貧兒の養育	二〇	出獄人保護事業	二六
徒弟又は勞働者の教育	七	社會教化事業	一
特殊教育事業	二	計	一一一
施藥救療事業	二三		

### 第二節 濟生院

明治四十四年六月府令を以て濟生院を設立し孤兒の教養、盲啞者の教育及精神病者治療の事業を行ふや京城孤兒院の請願を容れて孤兒全部を濟生院に收容し同年九月一日より其の教養事務を開始し之を養育部と稱し次で翌四十五年二月精神病者治療事業を總督府醫院構内に開始し醫療部と名つけしも同年四月新に朝鮮總督府濟生院官制發布せられて教育部及醫療部の事業全部は其の儘官廳たる朝鮮總督府濟生院に於て繼承し

同年十二月に至り濟生院は盲啞生教育事務を開始し翌年四月より新學期の授業を開始せり既にして大正二年四月に至り同一目的を有する二個の機關存置の必要なきを認め舊濟生院は其の有する資金全部を特別會計に寄附して解散し之と同時に總督府濟生院は舊濟生院より引繼經營し來れる醫療部の事業を更に總督府醫院に附屬したるを以て爾來總督府濟生院は専ら孤兒及盲啞者の教養のみを掌れり  
大正十二年十月末日現在狀況左の如し

#### 院 兒

養育部内現在の者	七三人	被 傭 中 の 者	五人
里 預 け 中 の 者	二八	部 外 入 學 中 の 者	二
農場收容中の者	二一	總 計	一二九
イ教育部	京城府の北部新橋洞に在り舊宣禧宮の建物を改造して之に充て北方には綠樹繁茂せる丘陵を負ひ南面して高燥の地域を占む敷地一萬五百十四坪餘建坪六百坪餘、講堂、大神宮奉祀殿、事務室、教室、作業室、倉庫、炊事場、浴室、衛生室及院兒宿舍並職員官舎等あり院兒宿舍は全部在來の溫突室を以て之に充て男女別に		

區分せり

部内施設の學校は普通學校の教科課程に準じ實科教育を主とする方針を執り修業年限を六箇年と定め學齡に達せる者に對して教育を施せり又就學年齡未滿の者には幼稚園教育を爲し盲啞者は濟生部盲啞部に、内地人は府内公立小學校に入學せしむ

學年別	就學者		計	摘要
	男	女		
第一學年	三	八	三	第三年生二人
第二學年	八	一	九	
第三學年	七	一	八	
第四學年	六	二	八	
第五學年	七	二	九	
第六學年	六	一	七	
盲啞部入學者	二	一	三	

公立小學校入學者	一	一	二	第六年生一人
總計	三〇	一四	四四	

作業は主として簡易なるものを選定し藥仕事、園藝乃至家事の手傳、特に掃除、炊事補助、被服類の洗濯等を爲さしめ努めて自助の精神並勤勞の習慣に導かむことを期せり

宿舍は一名乃至二名の保母を配屬し直接院兒と起居を共にせしめ彼等兒童を寂寞の境地より救ひ家庭的情味中に保育薰陶を加へつゝあり又院兒の精神的訓育の效果を以て一層切實ならしむる必要より部内に天照皇太神を奉祀し早朝神前に參集禮拜を行はしむ

院兒中幼少なる者は成るべく人乳哺育に依るを便とし幼弱者の全部二十八名は目下里預けと爲せり院兒の體質健康は一般兒童に比し稍劣れるを免れず特に新に收容する院兒の多數は最も不良の状態に在るを常とし之が收容に際しては假隔離室を設けて其の異常なきを認めたる上混合收容するを例とせり又部内には衛生室を設けて患



者ありたるときは之に移し囑託醫竝看護に従事すべき専任保母を置きて其の治療を擔任せしむ

○農場 京城に距ること約三里京畿道楊州郡蘆海面に在り大正二年十一月の開始にして附屬用地として國有未墾地及同林野地の交附引繼を受けたるもの面積總計百七十餘町歩あり大正二年度及同三年に於て未墾地の一部に開墾工事を加へ溝渠、堤防を築造し墾田の施設を爲せり

院兒の職業は朝鮮の現狀に鑑み主として農民たらしむるを將來生計上の便宜と認め農場を設置し養育部の學科修了者中身體健康にして勞働に適する者は全部農作に従事せしめつゝあり大正十二年十月末日現在の農場收容兒數左の如し

十五歳以上 一 十九歳以下 十二 總計 二一  
 十七歳以下 三 二十歳以上 六 總計 九

農場に於ける從業院兒には作業の奨励及將來彼等が自營資金の一部を蓄積せしむるの趣旨を以て勞作に依り生産したる收入を限度として從業給與金を支給するとし大正三年度より之を實施し同十二年十月末日現在給與せし累計總額五千四百五圓八十

九錢に上り其の一人別最高額二百五十七圓三十七錢最低者は六十二圓六十六錢となれり

ハ盲啞部 盲啞者に對する特種教育は從來全然等閑に附せられしも大正二年本院は當初の事業目的たる盲啞教育事務の開始と共に生徒の募集を爲し同二年四月より新學期の教授を開始せり左の如し

科別	學年	給費		自費		合計	
		男	女	男	女	男	女
		計	計	計	計	計	計
盲本科 (修業年限三ヶ年)	一年	七	一	二	一	九	一
	二年	八	一	三	一	二	二
	三年	四	一	三	一	七	二
	計	一九	三	九	三	二八	五
	一年	二	一	八	一	一〇	二
	二年	二	一	一	一	三	二
	計	四	二	九	二	一六	四
	合計	二三	五	一八	五	二三	八

大正十二年十月末日現在

科別	學年	給費		合計	
		男	女	男	女
嚔 本 科 (修業年限五ヶ年)	三年	1	1	1	1
	四年	1	1	1	1
	五年	1	1	1	1
總計	計	3	3	3	3
卒業生合計		八四人			
盲	男	3	0	3	0
	女	0	3	0	3
嚔	男	1	1	2	0
	女	0	0	0	0
合計		4	4	8	4

給費生は男女共全部寄宿舎に入らしめ食事及學用品一切を官給し卒業後に於ける何等の制限又は義務を附することなく全然救恤方針の下に之を收容せり又其の教育は専ら

實用的方面に重きを置き盲生には鍼治及按摩を嚔生には裁縫を課せり今日に至るまで盲兒速成科及盲本科を卒業せる者合計六十八名嚔生の卒業生合計十六名ありて各相當の職に就けり

### 第三節 救療機關

總督府の施設に係る慈惠救療の機關は現在總督府醫院一、道慈惠醫院二十五(外に出張所二)を設けられ尙大正十七年度迄に更に七個所に新設することゝなれり朝鮮總督府醫院は現在敷地總坪數五萬五千六百四十二坪餘、建坪四千九百六十坪餘患者約四百人を收容することを得べく建物宏壯にして設備完く京城の東方綠樹鬱葱の丘上に在り

道慈惠醫院は各道廳(京畿道を除く)所在地及水原、群山、順天、安東、濟州、小島、楚山、江界、江陵、惠山鎮、城津、會寧、間島の各地に設けられ更に南原、馬山に出張所を置けり大正十年以前に開設せられたる醫院は開院の始め概ね舊式建物を利用して當面の所要に應じたりしも爾來逐次新營又は改築を行ふて舊時の面目を改め同

年以降の新設に屬するものは總て宏壯完備せり又國境對岸地方に於ては東間島に在る鮮人の救療を目的とせる在龍井村間島慈惠醫院の外局子街、頭道溝及百草溝等には信用ある開業醫に救療を委託し僻陬地在住鮮人及鴨綠江對岸地方に於ける鮮人に對しては慈惠醫院巡回診療を施行し琿春地方に於ても亦同地の信用ある開業醫に救療を委託し以て鮮人救療の途を講ぜり

以上の各慈惠醫院に於ける入院患者總數收容力約千六百人其の敷地總坪數四十一萬七百餘坪、建坪一萬二千七百坪を算す

イ診療の成績 併合以來大正十一年十二月末日迄各醫院に於て取扱ひたる總患者數は千三百七十五萬三千四百人にして其の延人員實に三千八十一萬六千七百人の多きに達せり

種別		大正十一年朝鮮總督府醫院取扱患者		同上延人員		一日平均患者數	
内地人	朝鮮人	外國人	計	内地人	朝鮮人	外國人	計
一、九一〇	五、九一〇	八六、三三五	九三、一五五	二、一八〇	三、三九三	二一八、六一四	三、九九一
三、〇一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	七、九二〇	三、〇一〇	三、三九三	三、〇一〇	九、七一三
三、九一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	八、八二〇	三、九一〇	三、三九三	三、〇一〇	一〇、三一三
三、九一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	八、八二〇	三、九一〇	三、三九三	三、〇一〇	一〇、三一三
三、九一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	八、八二〇	三、九一〇	三、三九三	三、〇一〇	一〇、三一三
三、九一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	八、八二〇	三、九一〇	三、三九三	三、〇一〇	一〇、三一三
三、九一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	八、八二〇	三、九一〇	三、三九三	三、〇一〇	一〇、三一三
三、九一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	八、八二〇	三、九一〇	三、三九三	三、〇一〇	一〇、三一三
三、九一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	八、八二〇	三、九一〇	三、三九三	三、〇一〇	一〇、三一三
三、九一〇	三、九一〇	一、〇〇〇	八、八二〇	三、九一〇	三、三九三	三、〇一〇	一〇、三一三

總督府醫院		道慈惠醫院		計	
施	普	施	普	施	普
一、九一〇	五、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	五、八二〇	九、八二〇
三、〇一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	六、九二〇	七、八二〇
三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	七、八二〇	八、七二〇
三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	七、八二〇	八、七二〇
三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	七、八二〇	八、七二〇
三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	七、八二〇	八、七二〇
三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	七、八二〇	八、七二〇
三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	七、八二〇	八、七二〇
三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	七、八二〇	八、七二〇
三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	三、九一〇	七、八二〇	八、七二〇

○巡回診療 巡回診療は大正元年度中始めて之を實施し爾來各道慈惠醫院をして専ら之に當らしめつゝありしも大正四年度よりは濟州、楚山、會寧の三院大正七年度よりは間島慈惠醫院を之に加へて其の施行に當らしめつゝあり本診療は始め出張診療なる名稱の下に地方往診の途次又は隨時出張の際便宜診療に従事せしめ著大の効果を收めたれども普く各地に之を實施する能はざりしか偶々鮮人救療の爲巨額なる臨時恩賜金の下附ありしを以て從來の方法を改めて組織的巡回の方法を講じ醫員及

補助員各一名を以て常時各郡を遍歴せしむることとせし以來其の成績極めて良好にして開始後大正十一年迄の總患者數人員九十五萬一千二百二十一、延人員四百二十九萬六千八百二十二人に達せり

大正十一年道慈惠醫院巡回療診取扱患者

年	患者數			同上延人員	一日平均患者數
	内地人	朝鮮人	外國人		
大正十一年	一四、三〇〇	一、一八〇	一	一、〇〇〇	一、四
普通	一四、三〇〇	一、一八〇	一	一、〇〇〇	一、四
療	一四、三〇〇	一、一八〇	一	一、〇〇〇	一、四
計	一四、三〇〇	一、一八〇	一	一、〇〇〇	一、四

備考 診療日數百四十三日

尙朝鮮總督府醫院に於ては内鮮人助産婦、看護婦を養成し開始以來卒業業者二百四十一名を出し其の大多數は官公立醫院等に就職し皆相當の信頼を受けつゝあり其の他各道廳所在地の慈惠醫院に於ても亦從來助産婦及看護婦を養成し其の卒業業者四百

四十名を算せしも大正九年よりは光州(大正十一年度限廢止)大邱、平壤、咸興慈惠醫院の四院に於て之を養成することに改め其卒業業者亦既に五十七人を出せり入學者の資格は小學校卒業程度となし内鮮人を共收し教育期間は一箇年六箇月其期間中毎月金二十圓の手當を支給せり又總督府醫院、大邱慈惠醫院及平壤慈惠醫院に在りては大正六年度より日本赤十字社朝鮮本部の委託に係る救護看護婦の養成に従事せり朝鮮總督府醫院及道慈惠醫院に關する經費は朝鮮總督府濟生院の經費と共に朝鮮醫院及濟生院特別會計の支辨に屬し政府支出金、資金利子、院收入並寄附金等の收入を以て之に充て現在資金中有價證券並現金總計四百五十五萬五千九百一圓に上り其の大部分は恩賜金に屬せり

種別	公債(額面)	現金	合計
總督府醫院	三、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇	七、〇〇〇,〇〇〇
道慈惠醫院	三、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇	七、〇〇〇,〇〇〇

種別	公債 (額面)	現金	合計
濟生院	三九、一〇〇	一四、〇〇〇	四、三、〇〇〇
總計	四、五八、一五〇	一五、〇〇〇	四、七三、一五〇

濟生院には特別資金なし

## 第六章 教育

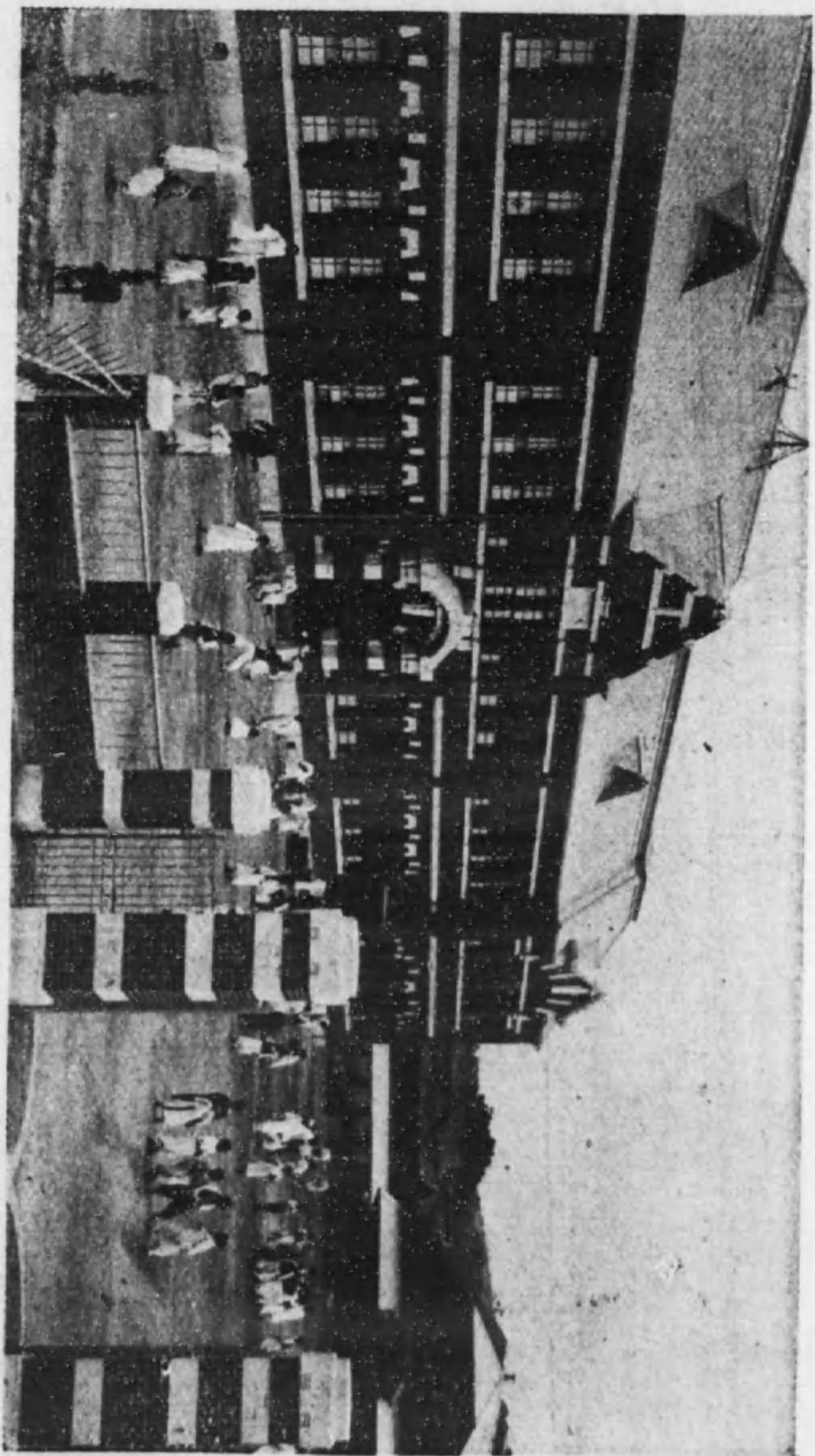
從來朝鮮に於ける内地人教育と朝鮮人教育とは全然其の系統を異にし明治四十四年に於て朝鮮教育令の發布を見たるも該令は全く朝鮮人教育の爲に制定せられたるものにして内地人の教育に關しては内地に於ける當該教育に準據して之を行ひたり然ども近來時勢の進歩と共に兩者の間に差別を設くるの必要なきに至り且朝鮮文化の向上に鑑みて朝鮮に於ける教育を統一するの必要上大正十一年新教育令の發布と同時に普通教育に在りては國語を常用する者(主として内地人)と國語を常用せざる者(主として朝鮮人)との二種に分つも特別の事情ある場合は相互に其の入學を認むるの途を開き實業教育、専門教育、大學教育及師範教育に在りては内鮮人の共學を原則として新に教育系統を立て之を一令の下に統一するに至れり(大正十一年二月發布朝鮮教育令參照)

### 第一節 普通教育 附書堂及幼稚園

一 國語を常用する者の教育 朝鮮に於て國語を常用する者(主として内地人)の教

育は明治十年釜山に於て共立學校なる小學教育程度の學校を設立したるを嚆矢となし其の後各地に學校の増設を見明治四十三年總督府設置當時に於ては其の數既に百二十に達したり是より先き明治四十二年統監府は始めて統監府令を以て小學校規則を發布し次で同四十三年三月統監府中學校官制及中學校規則を發布し併合の後總督府は更に同四十五年三月に於て朝鮮公立小學校、同高等女學校、同實業專修學校及簡易實業專修學校官制並此等諸學校規則を發布し爾來之に準據して教育機關の擴張充實を講じ來たりしも大正十一年二月に至り時勢の進運に鑑て新に朝鮮教育令の制定發布を見ると共に國語を常用する者の普通教育は小學校令、中學校令及高等女學校令に依るを原則とし内地に於ける教育と何等の差別なく修業年限、教科課程及編制等も亦略内地と同一にして互に入學轉學の聯絡を保たしめ又特別の事情ある場合には國語を常用せざる者(主として朝鮮人)の入學を認むることになしたり。

小學校は學校組合又は私人に於て設立するを本則とし總督府設置當時に於ては其の數僅に百二十に過ぎざりしも其の後内地人の増加と共に漸次増設を見大正十一年五月末に於ては四百十八校五萬一千六百四十一人の兒童を有するに至り且京城、木浦、群



(東京) 校學通普立公洞校

山、平壤、義州、會寧、元山等樞要の地には教育會若は學校組合の事業として兒童學寮を設置し以て未だ學校の設あらざる僻地の學童を收容して其の地の小學校に通學せしむるの便を開けり又中等教育機關は現在京城に二、平壤、釜山、大邱、大田元山、光州に各一の官立中學校と群山學校組合の設立に係る一公立中學校あり女子中等教育機關は京城に二、釜山、仁川、平壤、大邱、鎮南浦、羅南、木浦、大田、群山、馬山、元山、咸興、清州、全州、光州、鎮海、海州に各一の公立高等女學校あり此等の公立學校に對しては年々國庫補助金を給して其の施設を資けつゝあり

小學校一覽

大正十二年五月末日

道名	學校數	學級數	教員數		計數	生徒數		計數
			男	女		男	女	
師範學校附屬小學校	一	一三	一五	三	一九	三〇七	一八一	三八八
京畿道	六	一九四	三三	六	三三	七、三五四	六、四〇六	一三、七六〇
忠清北道	三	三	四	一五	一九	四七九	四〇三	八八二
忠清南道	三	八五	六五	三五	一〇〇	一、四八六	一、三六五	二、八五二

道別	學校數	學級數	教員數		計數	生徒數	
			男	女		男	女
全羅北道	三	一〇	八	九	一八	一,八七七	三,九七二
全羅南道	五	一三	一〇	九	一九	二,四〇〇	四,九三七
慶尚北道	五	一七	一四	九	二三	三,六一八	二,一三七
慶尚南道	七	二五	一七	一〇	二七	五,七二五	三,三七五
黃海道	二	六	八	七	一五	一,〇〇〇	九〇〇
平安南道	二	六	九	七	一六	一,七九五	一,五四五
平安北道	二	六	六	六	一二	一,〇〇〇	九〇〇
江原道	三	八	五	五	一〇	一,七九五	一,五四五
咸鏡南道	三	七	三	三	六	一,三三三	一,三三七
咸鏡北道	一	三	四	三	七	一,一〇六	一,〇三五
合計	四〇	一三六	一三〇	一三〇	二六〇	一八,三六六	一五,六三一

本表教員中には兼務者を包含す以下教育に關する所表皆同し

中學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	設立年月	學級數	職員數	生徒數
京城中等學校	明治四十三年四月	一七	一七	八二五
釜山中等學校	大正二年四月	一〇	一〇	四〇〇
平壤中等學校	同 五年四月	一〇	一〇	四〇〇
龍山中等學校	同 七年四月	三	三	一〇六
大田中等學校	同 七年四月	三	三	一〇六
大邱中等學校	同 十年四月	八	八	三九三
元山中等學校	同 十年四月	六	六	三三五
光州中等學校	同 十二年五月	一	一	三六〇
蔚山中等學校	同 十二年五月	一	一	三六〇
合計		八〇	八〇	三,三〇八

高等女學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	設立年月	學級數	職員數	生徒數	設立者
京城第一公立高等女學校	京城	明治四十一年四月	一	一〇	八〇	京城學校組合



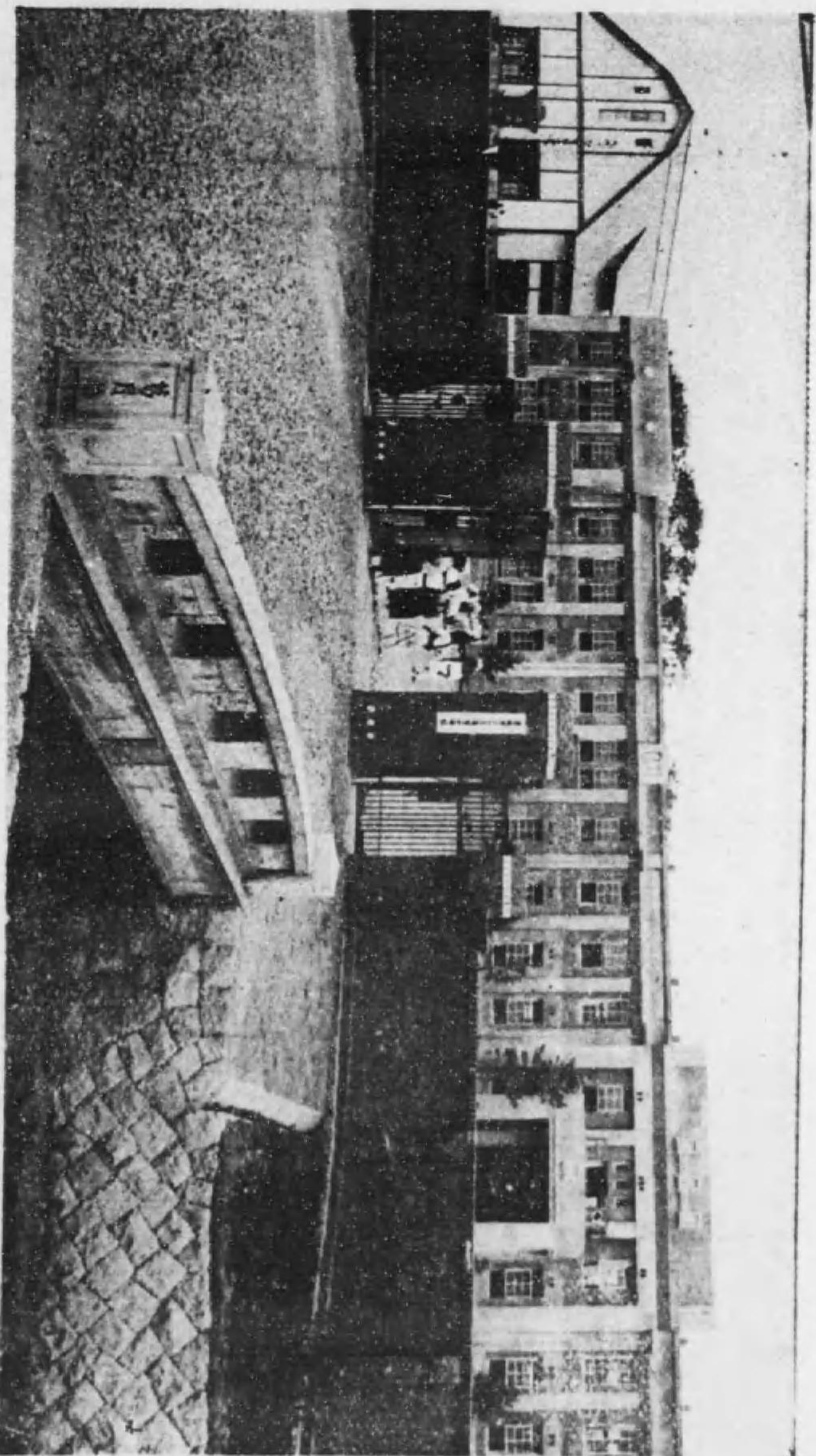
學校名	所在地	設立年月	學級數	職員數	生徒數	設立者
京城第二公立高等女學校	京城	大正十一年五月	一四	三	六三	京城學校組合
仁川公立高等女學校	仁川	大正二年四月	四	八	一〇	仁川學校組合
大邱公立高等女學校	大邱	大正五年四月	八	一六	二四	大邱學校組合
釜山公立高等女學校	釜山	明治三十九年四月	一三	三三	五二	釜山學校組合
平壤公立高等女學校	平壤	大正二年四月	七	一四	三六	平壤學校組合
鎮南浦公立高等女學校	鎮南浦	同	四	八	一四	鎮南浦學校組合
木浦公立高等女學校	木浦	同	四	九	一七	木浦學校組合
大田公立高等女學校	大田	同	三	八	一六	大田學校組合
群山公立高等女學校	群山	同	三	六	一〇	群山學校組合
馬山公立高等女學校	馬山	同	三	六	一〇	馬山學校組合
元山公立高等女學校	元山	同	三	六	一〇	元山學校組合
羅南公立高等女學校	羅南	同	三	七	一四	羅南學校組合
鎮海公立高等女學校	鎮海	同	三	六	一〇	鎮海學校組合
清州公立高等女學校	清州	同	三	七	一四	清州學校組合
光州公立高等女學校	光州	同	三	七	一四	光州學校組合
咸興公立實科高等女學校	咸興	同	三	七	一四	咸興學校組合

全州公立實科高等女學校	全州	大正十二年五月	一	三	三	全州學校組合
海州公立實科高等女學校	海州	大正十二年四月	一	三	三	海州學校組合
計			九	二三	四、四六六	

備考 大田、群山、馬山、元山は大正十年四月實科高等女學校より高等女學校に組織を變更す

二 國語を常用せざる者の教育 古來朝鮮には京城に成均館及東西南中の四學ありて一國の最高學府となり各府郡に郷校あり各面洞に書堂ありて子弟の教育を施し書堂より郷校に郷校より四學に四學より成均館に進みしも此等の教育機關は一般日常必須の知識を授くるものにあらずして只儒學を教ふるに止まり後明治二十七年の頃科擧の制廢せらるゝに及びて四學隨て休み郷校亦文廟の祭祀に其の舊態を存するに過ぎざるに至れり次で明治二十八年韓國政府は庶政の改善を行ふと同時に新に教育制度を定めて小學校及中學校に關する規定を設け又師範學校及外國語學校を設置したりしも此等は悉く日本の制度を模倣したるものにして當時の民度に適合せざりしのみならず其の運用亦宜きを得ざりしを以て效果の見るに足るものなかりき既にして明治三十七年日韓協約の結果顧問政治の開始せらるゝや學部に内地人參與官を置きて教育の刷新を講

じ統監府の開かるゝや其の指導の下に法令の改廢を行ひ普通學校、高等學校、高等女學校を増設して内地人教員を配置し新に教科書を編纂して教育上の新生面を開き併合と同時に總督府に於ては各般に亘りて制度の改革を行ひしも教育事業は國家百年の大計なるを以て時世の趨嚮民度の實際を考察して慎重の研究を重ねるの必要上暫く從來の制度を存續し其の間約一箇年を費して明治四十四年八月に至り初て朝鮮教育令を發布し同十月各學校官制及規則を發布し十一月より之を實施したり爾來十年之に據りて朝鮮人教育を行ひしも時世の進歩と向學心の旺盛とは近來特に著るしく再び其の改正を要するに至り大正九年十一月九日一部の改正を行ひて普通學校の修業年限は六箇年を以て原則となし高等普通學校に二箇年以内の補習科を置くことを得しめ更に教育調査會の決議に基き大正十一年二月四日朝鮮教育令を發布して學制全般に亘りて大刷新を行ふと共に新に朝鮮總督府諸學校官制、朝鮮公立學校官制並普通學校、高等普通學校、女子高等普通學校の各規程を制定し又特別の事情ある場合に於ては朝鮮人にして小學校、中學校、高等女學校に入學し得ると同じく内地人にして普通學校、高等普通學校、女子高等普通學校に入學するを得しめ一視同仁の聖旨に依りて内鮮人の差



京城第二高等女學校

別教育を撤廢し内地と同一制度に據りて朝鮮人教育を行ふを本旨とせり然ども内地人と朝鮮人とは風俗習慣自ら其の趣を異にするものあるを以て國語を常用せざる者(主として朝鮮人)の教育に於ては此等の事情に鑑みて教科目其の他に若干の特例を設け大に教育機關の擴張を圖りたる結果併合當時に於ては公立普通學校の數僅に一百に過ぎざりしも今や九百五十五校に上り約三十萬五千の生徒を有するに至れり而して此等の學校は從來併合の際下賜せられたる臨時恩賜金利子を基礎として國庫及地方費の補助、基本財産收入、授業料等を以て其の維持に充當せられ尙必要ある場合は設立區域内に於ける朝鮮人に經費の負擔をなさしめしも學校の増設及修業年限の延長に伴ふ負擔關係を整理するの必要を認め學制の一部改正と共に朝鮮學校費令を制定して大正九年十月より之を施行せり

又官立高等普通學校は現在京城に二、平壤、大邱、咸興、全州、新義州、光州、東萊海州、鏡城、公州に各一あり官立女子高等普通學校は京城及平壤に各一校を設けられ此他全鮮に於て私立高等普通學校九、私立女子高等普通學校五あり

公立普通學校一覽

大正十二年五月末日

道名	學校數	學級數	教員數		計數	生徒數	
			內地人	朝鮮人		男	女
京畿道	一一	六七七	三四	五二二	七四六	三三、二六	五、一三四
忠清道	八	三三一	七三	一七三	三四四	一一、二六八	一、四三〇
忠清道	八	四一五	一三五	二四	四三九	三三、四八六	二、四三〇
全羅道	六	三六〇	一〇七	三六	三七五	一九、〇一九	二、八四一
全羅道	九	四八二	一四四	三六	五〇二	二五、三八九	三、八二三
慶尚道	七	四五六	一四四	三六	五二二	二四、四九一	四、三六三
慶尚道	九	三七八	一六九	三六	五五	二八、三八三	五、四二二
黃海道	七	三三七	一三三	二四九	三七二	一七、五三〇	三、一九五
平安道	六	三三八	六六	三三五	四〇一	一九、〇八九	三、〇一八
平安道	七	四〇五	一三三	三三九	四四三	三三、四五六	三、九九九
江原道	五	三二〇	九五	三三〇	三五一	一三、六八三	二、一九九
咸鏡道	三	三三一	八三	三六三	三四四	一六、四八七	二、九二〇
咸鏡道	三	一九九	六八	一六六	二三四	九、八〇五	二、一六四
合計	九五	四、七五	一、五八一	三、八六九	五、四九〇	三六三、一九二	四二、八六八
							三〇五、〇九九

官立高等普通學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員數		生徒數
				內地人	朝鮮人	
京城第一高等普通學校	京城	明治三十一年十一月	二	三七	四	七五
本補習科			一			一三
師範科			一			一九
平壤高等普通學校	平壤	明治四十四年十一月	四	三八	外 一七	五三
本師範科			一			五一
大邱高等普通學校	大邱	大正五年五月	二	三	外 一	三三
本師範科			一			三九
成興高等普通學校	成興	大正七年四月	一〇	二七	外 二	三七
師範科			一			三五
合計			二〇	一〇七	外 三	二〇七

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員		生徒數
				内地人	朝鮮人	
本師範	全州	大正八年四月	一九	一	八	四九
全州高等普通學校	全州	大正十年五月	九	三	二	二二
京城第一高等普通學校	京城	大正十年五月	九	三	二	二二
新義州高等普通學校	新義州	大正十年四月	六	三	二	二二
光州高等普通學校	光州	大正十一年四月	八	一	二	二二
東萊高等普通學校	東萊	大正十一年四月	七	一	二	二二
鎭城高等普通學校	鎭城	大正十一年四月	四	一	一	二二
海州高等普通學校	海州	大正十一年四月	四	一	一	二二
公州高等普通學校	公州	大正十一年四月	五	一	一	二二
合計			一〇五	二五	一三	四三〇

備考 公州高等普通學校は大正十二年四月公立高等普通學校より昇格したるものとす

官立女子高等普通學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員		生徒數
				内地人	朝鮮人	
京城女子高等普通學校	京城	明治四十一年四月	九	一	八	三七二
本師範	平壤	大正三年五月	一七	一	四	三〇二
師範學校第二部女子演習科			一	一	一	四
平壤女子高等普通學校			八	一	三	三三
合計			二七	三	一六	六八三

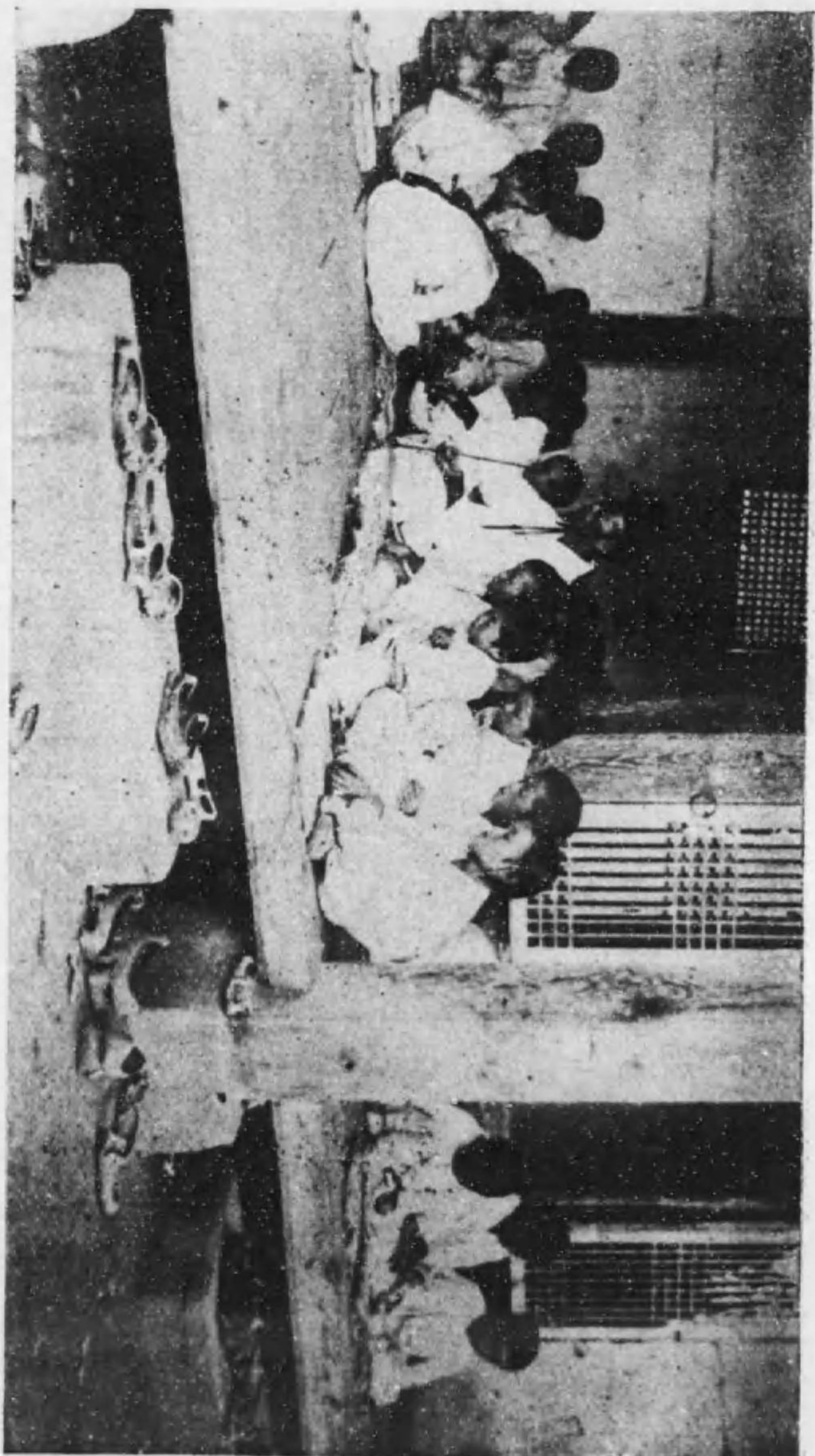
私立高等普通學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員		生徒數
				内地人	朝鮮人	
私立養正高等普通學校	京城	大正二年四月	七	九	九	三七五



道名	書堂數	教員數	生徒		計數
			男	女	
忠清道	八七六	八九六	八,一四一	一,〇一四	九,一五五
全羅北道	一,二九一	一,五五五	一五,〇一一	一,〇一一	一六,〇二二
全羅南道	一,〇一一	一,〇九六	一〇,八八一	一,二二〇	一二,〇〇一
慶尚北道	一,二六九	一,八二七	一五,九一〇	一,九六九	一七,八七九
慶尚南道	一,三三八	一,九二一	一五,八〇九	一,九六九	一七,七七八
黃海道	一,〇三三	一,〇九一	一三,四九〇	一,三三三	一四,八二三
平安南道	二,一七九	二,八七三	二六,三六六	一,三三三	二七,七〇〇
平安北道	二,一三九	二,一三三	二〇,九〇一	一,二八八	二二,一八九
江原道	二,四三三	三,四〇〇	三八,五六一	一,四一七	四〇,九七八
鎭鏡南道	二,二五五	二,三〇〇	二二,九七九	一,〇〇八	二四,〇八七
鎭鏡北道	一,六三七	一,五一一	一三,九三九	一,〇三九	一五,〇〇八
合 計	二一,〇五七	二一,六三三	二七五,九三三	四〇,九二二	三一六,八五五



學

景

園名	所在地	創立年月	組數	職員數	大正十二年五月末現在		計數
					男	女	
私立京城幼稚園	京城	大正二年四月	二	六	五〇	五〇	一〇〇
私立培花幼稚園	同	同	二	八	一〇〇	四〇	一四〇
私立中央幼稚園	同	同	四	二	三〇	三〇	六〇
私立梨花幼稚園	同	同	二	二	三〇	三〇	六〇
私立聖光幼稚園	同	同	一	二	三〇	三〇	六〇
私立南大門幼稚園	同	同	二	三	三〇	三〇	六〇
私立安國幼稚園	同	同	一	四	三〇	三〇	六〇
私立泰和幼稚園	同	同	一	一	三〇	三〇	六〇
私立好善教東幼稚園	開城	同	二	二	三〇	三〇	六〇
私立南郡幼稚園	同	同	二	二	三〇	三〇	六〇
私立北郡幼稚園	同	同	二	二	三〇	三〇	六〇
私立公州幼稚園	同	同	二	二	三〇	三〇	六〇
私立洪城幼稚園	同	同	一	二	三〇	三〇	六〇
私立天安幼稚園	同	同	一	二	三〇	三〇	六〇

幼稚園 (朝鮮人)

大正十二年五月末現在



園名	所在地	創立年月	組數	職員數	男	女	計
私立錦町幼稚園	光州	大正九年九月	二	二	一五	一五	三〇
私立樓門里幼稚園	光州	十一年九月	二	二	一六	一六	三二
私立咸平幼稚園	咸平	十一年四月	二	二	一六	一六	三二
私立長城幼稚園	長城	十一年二月	二	二	一六	一六	三二
私立浦項幼稚園	浦項	十一年五月	二	二	一六	一六	三二
私立金泉二進幼稚園	金泉	十二年四月	二	二	一六	一六	三二
私立統營基督教幼稚園	統營	九年六月	二	二	一六	一六	三二
私立新明幼稚園	鎮海	十一年四月	二	二	一六	一六	三二
私立海州幼稚園	海州	八年六月	二	二	一六	一六	三二
私立白川幼稚園	銀川	十年四月	二	二	一六	一六	三二
私立歌愛幼稚園	長淵	十一年四月	二	二	一六	一六	三二
私立義宗幼稚園	江陵	八年十一月	二	二	一六	一六	三二
私立貞新幼稚園	原州	七年十二月	二	二	一六	一六	三二
私立光城幼稚園	橫城	九年四月	二	二	一六	一六	三二
私立培英幼稚園	平康	目下休園中	一	一	一五	一五	三〇
私立咸山幼稚園	咸興	十年五月	二	二	一六	一六	三二

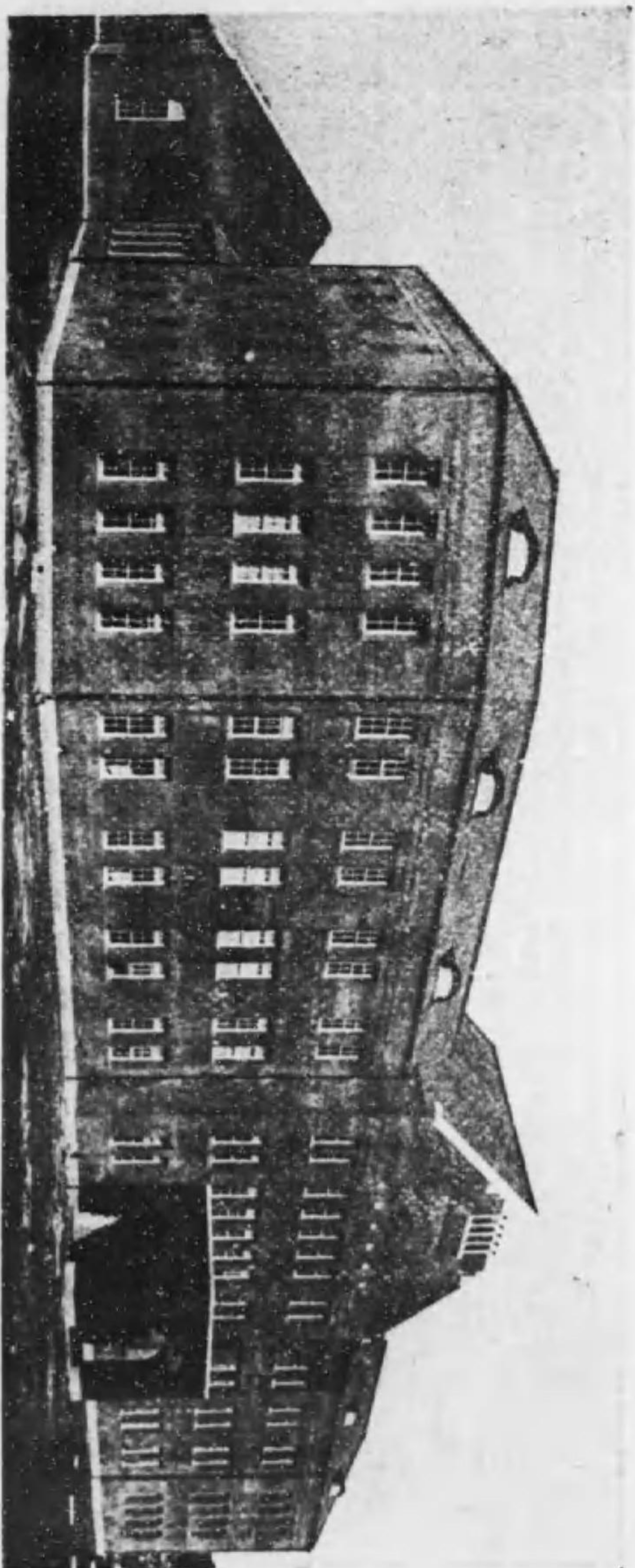
幼稚園 (内地人)

大正十二年五月末現在

私立進城幼稚園	元山府	十年九月	二	二	一五	一五	三〇
私立海星幼稚園	元山府	十年十月	二	二	一五	一五	三〇
私立龍灣幼稚園	義州	九年十二月	二	二	一五	一五	三〇
私立青山幼稚園	同	九年十一月	二	二	一五	一五	三〇
私立車轆館幼稚園	同	九年二月	二	二	一五	一五	三〇
計			14	14	141	141	282

園名	所在地	創立年月	組數	職員數	男	女	計
公立庚子記念幼稚園	京城	明治三十三年十月	三	四	一六	一六	三二
私立彰徳幼稚園	同	大正四年五月	二	三	一五	一五	三〇
私立龍山幼稚園	同	四年十二月	二	三	一五	一五	三〇
私立愛國婦人會城幼稚園	同	十一年四月	二	三	一五	一五	三〇
私立大田幼稚園	大田	十二年十一月	二	三	一五	一五	三〇
計			11	17	110	110	220

園名	所在地	創立年月	組數	職員數	児童數		計數
					男	女	
私立群山幼稚園	群山	同七年四月	二	三	四〇	四〇	二三
私立明照幼稚園	木浦	同十年九月	二	三	三〇	三〇	六〇
私立光州保育園	九州	同十一年十月	二	三	四〇	四〇	八〇
公立大邱幼稚園	大邱	明治四十三年五月	二	三	四〇	四〇	八〇
公立釜山幼稚園	釜山	大正四年四月	二	三	四〇	四〇	八〇
私立釜山幼稚園	釜山	明治三十年二月	二	三	四〇	四〇	八〇
私立鎮海幼稚園	鎮海	大正四年七月	二	三	四〇	四〇	八〇
私立統營幼稚園	統營	同五年六月	二	三	四〇	四〇	八〇
私立平壤幼稚園	平壤	同二年九月	二	三	四〇	四〇	八〇
公立鎮南浦幼稚園	鎮南浦	明治四十一年四月	二	三	四〇	四〇	八〇
私立宣川本願寺幼稚園	宣川	大正十年七月	二	三	四〇	四〇	八〇
私立元山幼稚園	元山	明治四十一年十二月	二	三	四〇	四〇	八〇
私立咸興幼稚園	咸興	大正八年十一月	二	三	四〇	四〇	八〇
私立新義州幼稚園	新義州		二	三	四〇	四〇	八〇
計			四六	五八	詳次	詳次	詳一



(里京清郡場高道畿京) 部一の舎校科豫學大國帝鮮朝

## 第二節 實業教育及專門教育

實業及專門教育は併合以前既に二三の商業學校並公州、全州、群山、光州、大邱、平壤、春川に於ける農業學校等あり其の公立に屬するものは内地に於ける同程度の學校に準據して別に法令の規定なかりしも明治四十四年十月始めて朝鮮人教育に關する實業學校規則及朝鮮公立實業學校官制を發布し次で四十五年三月内地人教育の爲め朝鮮公立實業學校官制並朝鮮公立實業專修學校及朝鮮公立簡易實業專修學校規則の發布を見大正十一年二月新教育令の發布と共に實業教育、專門教育、大學教育並其豫備教育は内鮮人の共學を原則とし實業學校は實業學校令及文部省令の當該規程に準據し專門教育及大學教育並其豫備教育は專門學校令又は大學令に依ることゝ爲したるも大學に在りては先づ其の豫科を設置し高等學校の制度は當分之を採用せざることゝ定めたり近來普通教育の普及に伴ふて實業及專門の教育亦隨ふて勃興し現在實業教育機關としては私立商業學校三、官立農林學校一、同工業學校一、公立農業學校十九、同商業學校十五、同商工學校一、同水産學校三及簡易卑近の實業教育を施す公立農業補習

學校八、同商業補習學校八、同工業補習學校七、同水産補習學校一あり又専門教育機關としては京城法學専門學校、京城醫學専門學校、京城高等工業學校、水原高等農林學校、京城高等商業學校の五官立學校の外セブランス聯合醫學専門學校、延禧専門學校及普成専門學校の三私立學校あり此等は、大正十一年四月新教育令の實施以來入學資格、修業年限、學科程度等全く内地に於ける専門學校と異なる所なし又大學設置に關しては之が準備として前年度及本年度に於ては先づ大學豫科の敷地買収と校舎の建築とを決定し大正十三年度に於て其授業を開始するの豫定なり

官立専門學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員數		生徒數
				内地人	朝鮮人	
京城法學専門學校	京城	大正十一年四月	三	二	一	二二
京城醫學専門學校	同	同 五年四月	八	五	三	二六
京城高等工業學校	同	同 五年四月	五	三	一	二二
合計			一六	一〇	五	七〇

京城高等商業學校	同	同 十一年四月	六	三	一	二六
水原高等農林學校	水原	同 十一年四月	三	一	三	二〇
合計			九	四	四	四六

私立専門學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員數	生徒數
セブランス聯合醫學専門學校	京城	大正六年五月	四	三	空
延禧専門學校	京城	同 六年五月	一〇	三	二六〇
普成専門學校	京城	同 十一年四月	六	三	二六〇
合計			二〇	九	五二〇

備考 右の外舊令に依り存続する私立延禧専門學校あり

官立實業學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員數	生徒數
京城工業學校	京城	大正十一年四月	一五	元	鮮內 一〇三
裡里農林學校	裡里	同	四	三	鮮內 七六
合計			一九	四	鮮內 一七八

公立農業學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員數		生徒數
				內地人	朝鮮人	
京城公立農業學校	高陽	大正七年五月	四	一〇	三	鮮內 一四六
清州公立農業學校	清州	明治四十四年六月	三	六	三	鮮內 一五
忠清南道公立農業學校	公州	大正九年四月	三	三	三	鮮內 二八
全州公立農業學校	全州	明治四十三年五月	三	六	二	鮮內 一三

群山公立農業學校	沃溝	明治四十三年五月	三	六	二	鮮內 一三
光州公立農業學校	光州	同四十二年六月	三	五	一	鮮內 一一
濟州公立農業學校	濟州	大正九年十一月	三	五	一	鮮內 一一〇
大邱公立農業學校	大邱	明治四十三年五月	六	一〇	一	鮮內 一五五
尙州公立農業學校	尙州	大正十年四月	三	五	二	鮮內 一五
晉州公立農業學校	晉州	明治四十三年四月	三	六	三	鮮內 一元
海州公立農業學校	海州	同四十四年四月	三	七	一	鮮內 一三
平壤公立農業學校	大同	同四十四年四月	二	七	一	鮮內 一三
安州公立農業學校	安州	同四十四年四月	三	八	一	鮮內 一三
義州公立農業學校	義州	大正三年四月	三	四	一	鮮內 一三
寧邊公立農業學校	寧邊	明治四十四年七月	三	八	一	鮮內 一三
春川公立農業學校	春川	同四十四年五月	三	六	一	鮮內 一三
咸興公立農業學校	咸興	同四十四年三月	三	六	一	鮮內 一三
北青公立農業學校	北青	同四十四年十一月	三	五	一	鮮內 一三
鎭城公立農業學校	鎭城	同四十四年十一月	三	五	一	鮮內 一三

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員數		生徒數
				內地人	朝鮮人	
仁川公立商業學校	仁川	明治四十五年四月	三	七	二	鮮內 二二四
仁川南公立商業學校	同	同 四十四年四月	七	一	一	鮮內 二二四
京城公立商業學校	京城	大正十年四月	一〇	一	一	鮮內 二二四
開城公立商業學校	開城	同 八年四月	三	一	一	鮮內 二二四
江景公立商業學校	論山	同 九年五月	三	一	一	鮮內 二二四
木浦公立商業學校	木浦	同 九年六月	三	一	一	鮮內 二二四
合計	一九		六〇	一三三	三七	鮮內 二、五九〇

公立商業(商工)學校一覽

大正十二年五月末日

釜山第一公立商業學校	釜山	明治四十二年四月	一〇	一九	一	鮮內 四九四
釜山第二公立商業學校	同	同 四十二年四月	六	一〇	一	鮮內 一、五二六
咸興公立商業學校	咸興	大正九年四月	三	八	一	鮮內 一、五二六
馬山公立商業學校	馬山	同 十一年四月	二	四	一	鮮內 一、五二六
元山公立商業學校	元山	同 上	三	五	一	鮮內 一、五二六
會寧公立商業學校	會寧	同 九年四月	三	六	一	鮮內 一、五二六
鎮南浦公立商工學校	鎮南浦	同 五年四月	一〇	三〇	一	鮮內 三、七六六
京畿公立商業學校	京畿道	同 十二年五月	二	七	一	鮮內 三、七六六
大邱公立商業學校	大邱	同 十年二月	二	四	一	鮮內 三、七六六
新義州公立商業學校	新義州	同 十年四月	三	八	一	鮮內 三、七六六
合計	九		六	一四	一	鮮內 一、五二六

私立商業學校一覽

學校名	所在地	創立年月日	學級數	職員數	生徒數
善隣商業學校第二部	京 城	明治四十年四月	八	三	內鮮 二五
開城學堂商業學校	開 城	大正九年五月	三	七	鮮 一六
南大門商業學校	京 城	同 十一年四月	四	三	內鮮 一六
合計			一五	一〇	內鮮 五七

大正十二年五月末日

公立水產學校一覽

學校名	所在地	創立年月	學級數	職員數	生徒數
麗水公立水產學校	麗 水	大正十年四月	二	二	六
群山公立水產學校	群 山	同 十一年四月	二	四	四
統營公立水產學校	統 營	同 十二年四月	二	一〇	五
合計			六	一六	一五

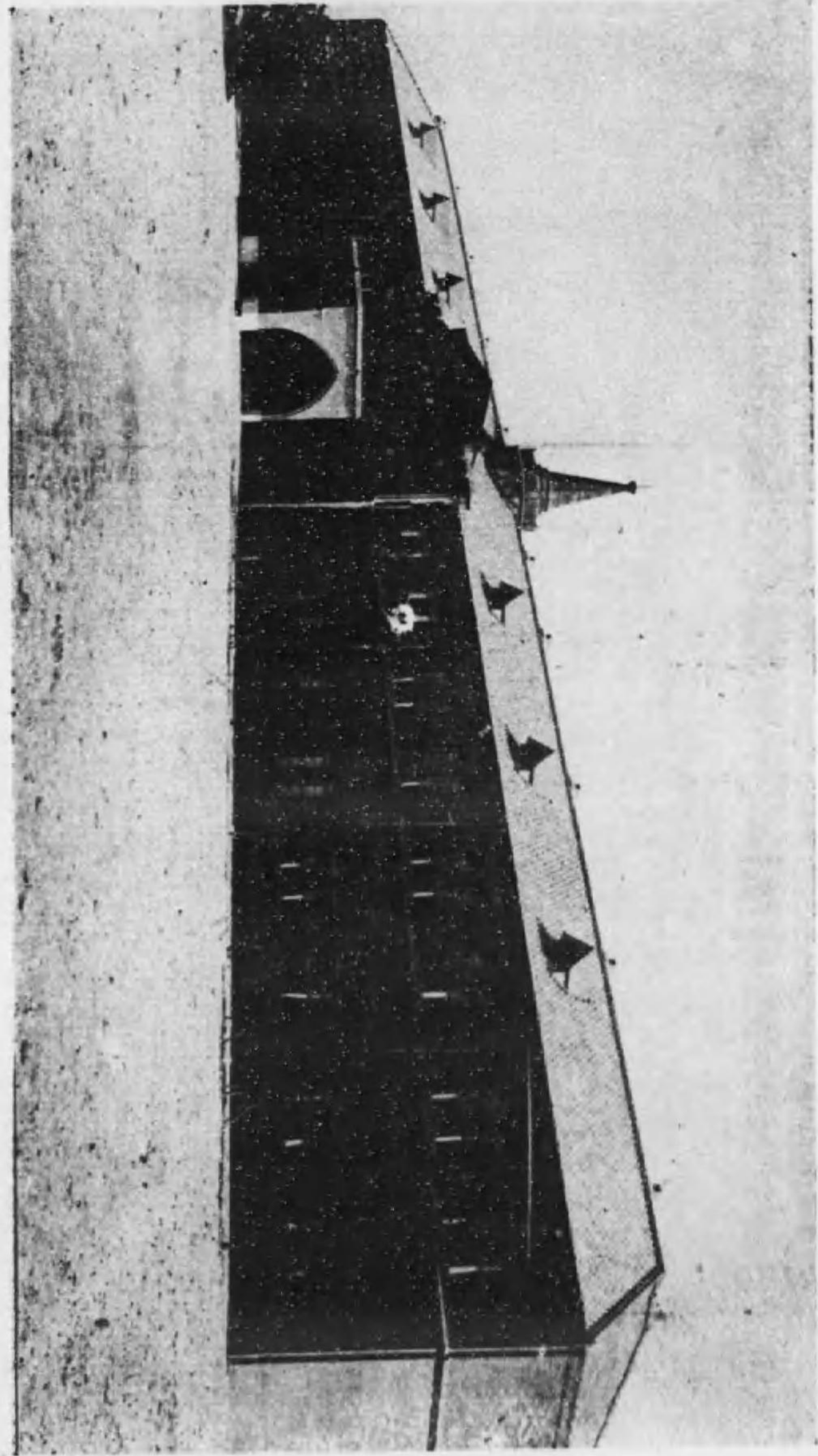
大正十二年五月末日

公立實業補習學校

種別	道名	學校數	學級數	職員數		生徒數
				內地人	朝鮮人	
農 業	京 畿	一	七	二	一	三
	黃 海	一	一	二	一	四
商 業	京 畿	一	一	三	一	六
	忠 清	一	一	二	一	三
合計	京 畿	二	八	五	二	九
	忠 清	一	一	四	一	六
合計		三	九	九	三	一五

大正十二年五月末日

京 城 師 範 學 校



師範教育は京城第一、平壤、大邱、咸興の各高等普通學校及京城、平壤の各女子高等

### 第三節 師範教育

合 計	水 産	業 工					種 別
		平 安 北 道	平 安 北 道	黃 海 北 道	慶 尙 南 道	全 羅 北 道	
三	一	七	二	一	一	一	道 名
興	二	一	五	三	四	四	學 校 數
員	三	六	五	二	一	四	學 級 數
元	一	二	三	三	一	一	職 員 數
三	三	六	八	五	二	四	內 地 人 數
內 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	三	六	八	五	二	四	朝 鮮 人 數
內 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	三	六	八	五	二	四	計 數
內 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	三	六	八	五	二	四	生 徒 數



普通學校に修業年限一箇年の師範科を置くの外京城女子高等普通學校に師範學校第二部女子演習科を附設して普通學校の教員たるべき者を養成し又京城師範學校を特設して普通學校又は小學校の教員たるべき者を養成せり師範科は元來朝鮮人教員養成機關として特設したるものなるも師範學校及師範學校女子演習科は共學を本體とし朝鮮人にして相當の資格を有し入學試験に合格したる者には其の入學を許すことゝなれり本教育は他の教育機關の努めて内地に於ける同種機關と同一ならしむるを期せしに拘らず朝鮮の現狀に鑑みて内地に比し少しく入學資格を低下し修業年限を延長する等特種の施設をなし又他の教育機關に於ては公共團體及私人の設立經營を認むるも師範學校は官立の外道地方費の經營に限りて之が設立を認むることゝなし現に各道に各一公立師範學校の設あるのみ

官立師範學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	設立年月	學級數	職員數	生徒數
京城師範學校	京城	大正十年四月	九	吳	內 三六 外 三〇

公立師範學校一覽

大正十二年五月末日

學校名	所在地	設立年月	學級數	職員數	生徒數
京畿道公立師範學校	京城	大正十二年五月	特講 一一三	10	內 五三六九
忠清北道公立師範學校	清州	同 十二年四月	特講 一一三	九	內 三一九六
忠清南道公立師範學校	公州	同 十一年四月	一一三	三	內 五二五
全羅北道公立師範學校	全州	同 十二年四月	一一三	五	內 一〇五〇
全羅南道公立師範學校	光州	同 十二年四月	一一三	七	內 一〇〇〇

慶尙北道公立師範學校	大邱	大正十二年三月	一一三	七	內 八三三
慶尙南道公立師範學校	晉州	同 十二年四月	一一三	七	內 一〇二〇
黃海道公立師範學校	海州	同 十二年五月	一一三	八	內 一〇〇〇
平安南道公立師範學校	平壤	同 十二年四月	一一三	七	內 四四四
平安北道公立師範學校	新義州	同 十二年四月	一一三	七	內 四四四
江原道公立師範學校	春川	同 十二年四月	一一三	二	內 三三三
咸鏡南道公立師範學校	興興	同 十二年四月	一一三	六	內 三三三



額は物價の昂騰に隨ひ年々増加し來り現在一人に對する給與額は一年六百五十圓以内とし此の外尙ほ旅費、治療費等をも給し來りしも大正十一年度よりは一人に對する給與額を年額三百六十圓以内に減じ人員を増加派遣することゝせり此等學生の保護監督に關しては從來東京に朝鮮留學生監督を置き之に當らしめたりしも大正九年度よりは擧げて東洋協會に委託し同會に於ては朝鮮學生督學部を設け寄宿舎を置き彼等の止宿に便せり又従前の留學生規程は煩瑣にして往々朝鮮學生の内地渡航を束縛するの虞なきにあらざりしを以て大正九年十一月之を廢止して内地遊學を全然自由ならしめ且留學生なる名稱を改めて在内地朝鮮學生と稱し其の歸還者の就職に關しては可及的便宜を與へ官公吏、教員等に採用し又は銀行會社等に斡旋就職せしむる等以て無爲徒食の者なからしめむことを期せり

### 第五節 經 學 院

經學院は明治四十四年九月舊成均館の組織を變更したるものにして朝鮮總督監督の下に經學を講究し風教徳化を裨補するを目的とする機關にして曩に下賜せられたる臨時

恩賜金二十五萬圓を基金とし其の利子年額一萬二千餘圓を以て之が維持費に充當するの外毎年本府より六千餘圓を補助することゝせり本院には大提學、副提學、祭酒、司成等の職員を置き院務を處理せしめ又各道より碩學高德の耆宿を擧げて講士となし毎年春秋二回文廟の釋奠を嚴修し尙昨年度より東西兩廡及啓聖祠の祭典を復活せり本院の事業は月次講筵を開き或は職員を地方に派遣して臨時講演を催し毎年數回經學院雜誌を發刊して汎く之を頒布し各道に於ける講士は時々道内各地を巡講する等常に施政の方針に獎順し羣倫の扶持人心の啓發に努めつゝあり

### 第六節 教科用圖書

本府に於て朝鮮人教養の目的を以て普通學校、高等普通學校、女子高等普通學校、實業學校等の教科書を編纂し教育に關する勅語の御旨趣に依り國民性格を養成し兼ねて國語に習熟せしめ實用の知識技能を與ふると共に朝鮮の事情に鑑みて其の適應を期せり又學校教育以外社會教育の一助として大正六年度より通俗讀物を編纂して普く之を配付せり

普通學校教科書は國語學習の便を計り第一學年より第四學年までは第四學年用國語讀本の外總て表音的假名遣を用ひ第五、六學年に在りては尋常小學校第五六學年用の教科書を其の儘使用せしめて内地と同一にし地理、歴史に限り別に本府に於て補充教材を出版して併用せしめたり又朝鮮語科に對しては本府に於て普通學校及高等普通學校とも朝鮮語及漢文讀本を編纂して之を使用せしむるは勿論別に普通學校修身書、同農業書の朝鮮譯文を作りて之を使用せしめつゝあり而して之が材料は修身書、國語讀本等に於ては内地人例話内地事物を採りて國民性の陶冶に資するも又務めて朝鮮に於ける模範的人物に關する例話を掲げ且理科書、農業書等に於ては努めて朝鮮に關する事項を撰びて實用に便せむことを期せり

専ら内地人の教養を目的とする小學校用教科書は文部省編纂の國定教科書を使用せるも朝鮮は内地と事情を異にするものあるを以て其の教材に就き別に補充教授を爲すの必要を認め目下該教科書の編纂中に在り同書は尋常小學校補充教本と題し大正九年度に於て已に其の第一、二卷同十年度に於て第三卷を出版せり又尋常小學校に農業科を課するの規定なるを以て大正六年三月尋常小學校農業書を出版し同年四月より之を使用

せしめ翌七年三月更に高等小學校農業書を出版し同年四月より之を使用せしめたり教科書の調査に關しては大正九年十一月教科書調査委員會を設け朝鮮總督の諮問に應ずることとし政務總監を以て委員長となし委員は總督府及所屬官署の官吏及學識經驗ある者より選任せり

漢四郡の沿革——漢の武帝朝鮮を取り其地に眞蕃、玄菟、樂浪、臨屯の四郡を置きしは元封三年開化天皇なり。其の後二十七年にして、昭帝の始元九年に廢合せられて、樂浪、玄菟の二郡となり、二百八十餘年を経て、後漢末に至り、建安年中に、樂浪の南部を割きて、帶方郡を置き、三郡となし、後漢亡びて後、三郡は魏に歸し、次いで晉起りて、三郡亦之に屬し、晉末に至り、高麗、百濟二國の爲に賈食せられて、遂に其の領する所となれり。

## 第七章 財政及經濟

### 第一節 財政

#### 一 歲計

韓國政府時代に在りては財政の紊亂其の極に達して歲計の如き正確なる計數を知るに由なく明治卅七年十月財政顧問の設置ありて始めて其の整理に著手し會計法の勵行徴稅機關の統一貨幣の整理金融機關の設備等諸般の施設を講じ銳意稅制財政の刷新を圖りしも積弊の由つて來たる所一朝一夕を以て其の目的を達する能はざりき其の後統監府の設置せらるゝに及びて明治四十年に於ては日韓協約の結果、行政各部の擴張、裁判所の構成、産業上の施設、土木營繕等各種事業の發展に伴ひ歲出著しき増加の傾向を示し到底其の支出を辨じ難きを以て帝國政府は同年度以降同四十五年度に至るまで六箇年度内に總計一千九百六十八萬二千六百廿三圓を無利子無期限を以て貸附することを約定し明治四十年度に一百七十六萬九千五百三圓、同四十一年度に五百廿五萬九千五百八十圓、同四十二年度に四百六十五萬三千五百四十圓、同四十三年度に一千四百二十

八萬二千六百二十三圓を貸附したり然ども併合當時に於ては經常の歳入を以て豫期の施設經營を實行すること能はざるに依り明治四十四年以降中央政府の一般會計より一千二百三十五萬圓の補充を仰ぎて應急の策を講じ爾後諸般の事業を整理して經費を節約し大正二年度には該補充金中より二百三十五萬圓を減じ更に大正三年度以降五箇年を期して全然朝鮮に於ける收入を以て其の支出に應ずべき計畫を樹て已に同年度及四年度に於て各一百萬圓を遞減せり斯して朝鮮特別會計の獨立計畫を實行せむが爲には一方に於て諸般制度の整理を行ひ行政費を節約し他方に於ては産業獎勵の必要上確實なる財源を求むるの必要を認め地稅の増徴並市街地稅及煙草消費稅の新設を企劃し大正三年より之を實施して大正八年度に於ては全く中央政府の補充を仰がざることとしたるも警察制度の改革其の他諸般行政の刷新に伴ひ再び補充金を要するに至り大正九年度に於て一千萬圓同十年度に於て千五百萬圓同十一年度に於て千五百九十一萬七千八百二十五圓同十二年度に於て千五百拾貳萬參千九百拾四圓の補充を受くるに至れり

朝鮮總督府特別會計歳入歳出

年 度	歳 入		歳 出	
	經 常	臨 時	經 常	臨 時
明治四十三年度	二一、九五五、七七一圓	一〇、三六六、四七五圓	九、九二六、八五五圓	一八、三三三、〇九〇圓
明治四十三年度	七七、八、四四四圓	一、一三〇、一五五圓	一、五三〇、〇〇〇圓	一、六三三、三三三圓
大正十年度	九六、一三、〇三九圓	六六、三五、一七九圓	一〇、九七、七〇〇圓	一〇、九七、七〇〇圓
大正十一年度	一〇、五五七、一八四圓	五七、四四六、二九元	一〇、八八九、九九七圓	五、一六、三三六圓
大正十二年度	九、九四、二八八圓	四六、〇九三、九七七圓	一四、〇〇七、三三五圓	四、九四六、四七六圓

決算(明治四十三年度)特別會計歳入歳出(費用總算)  
 大正十年度 九六、一三、〇三九圓  
 大正十一年度 一〇、五五七、一八四圓  
 大正十二年度 九、九四、二八八圓

本表明治四十三年度は同年十月一日朝鮮總督府特別會計設置以後にして本境鑛業所特別會計歳入歳出を併算せり、費用總算は八月二十九日より九月三十迄の歳入歳出なり

朝鮮總督府特別會計歳入歳出豫算科目別

(大正十一、十二兩年度比較)

科 目	(一) 歳 入	
	大正十二年度	大正十一年度
一、朝鮮歳入	九、九四、二八八圓	一〇、五五七、一八四圓

第七章 財政及經濟

一一四

科	目	大正十二年度	大正十一年度
經	一、租	1,450,000	1,450,000
	二、所得	212,000	212,000
	三、取引	1,150,000	1,150,000
	四、鑛	1,150,000	1,150,000
	五、酒	1,150,000	1,150,000
	六、煙草耕作	1,150,000	1,150,000
	七、砂糖消費	1,150,000	1,150,000
	八、關	1,150,000	1,150,000
	九、噸	1,150,000	1,150,000
	一〇、出港	1,150,000	1,150,000
常	一一、朝鮮銀行發發行稅	1,150,000	1,150,000
	一二、印紙	1,150,000	1,150,000
	一三、驛屯	1,150,000	1,150,000
	一四、官業及官有財產收入	1,150,000	1,150,000
臨時	一、教科書	1,150,000	1,150,000
	二、印刷	1,150,000	1,150,000
	三、雜	1,150,000	1,150,000
	四、其他	1,150,000	1,150,000

科	目	大正十二年度	大正十一年度
經	一、地	1,450,000	1,450,000
	二、所得	212,000	212,000
	三、取引	1,150,000	1,150,000
	四、鑛	1,150,000	1,150,000
	五、酒	1,150,000	1,150,000
	六、煙草耕作	1,150,000	1,150,000
	七、砂糖消費	1,150,000	1,150,000
	八、關	1,150,000	1,150,000
	九、噸	1,150,000	1,150,000
	一〇、出港	1,150,000	1,150,000
常	一一、朝鮮銀行發發行稅	1,150,000	1,150,000
	一二、印紙	1,150,000	1,150,000
	一三、驛屯	1,150,000	1,150,000
	一四、官業及官有財產收入	1,150,000	1,150,000
臨時	一、教科書	1,150,000	1,150,000
	二、印刷	1,150,000	1,150,000
	三、雜	1,150,000	1,150,000
	四、其他	1,150,000	1,150,000

第七章 財政及經濟

一一五



科	(二) 歲出	
	大正十一年度	大正十二年度
科 目	大正十一年度	大正十二年度
合 計	五七、四四六、一三九円	四六、〇九三、九三七円
歲 入 總 計	一八、九三三、三三三	一四、〇〇二、二二五
一、李王家歳費	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円
二、總督府費	五、一三一、三〇〇	五、一三一、三〇〇
三、裁判廳及供託費	四、四四四、一〇〇	四、四四四、一〇〇
四、地方廳	三、二九二、一〇〇	三、二九二、一〇〇
五、諸學校	五、六八三、三四六	五、六八三、三四六
六、圖書館	四〇、六六一	四〇、六六一
七、警察官講習所	三、七二七、七八八	三、七二七、七八八
八、稅關	一、〇八六、〇四五	一、〇八六、〇四五

臨	常 部	
	大正十一年度	大正十二年度
一、朝鮮部 除費	二、四〇、八二五	二、四〇、八二五
二、高等土地調査委員會費	一、九、五九一	一、九、五九一
九、勸業模範場	八、四三、九四三	八、四三、九四三
十、獸疫血清製造所	三、三三、一三三	三、三三、一三三
十一、中央試驗所	三、三三、一三三	三、三三、一三三
十二、水産試驗場	一、〇〇、九三三	一、〇〇、九三三
十三、林業試驗場	一、〇〇、九三三	一、〇〇、九三三
十四、專賣局	一、七、七二七、六二七	一、七、七二七、六二七
十五、營林廠	三、一〇、二〇二	三、一〇、二〇二
十六、遞信院	一〇、七、一四一、四一四	一〇、七、一四一、四一四
十七、威化院	〇	〇
十八、諸修繕費	五、七、八一五	五、七、八一五
十九、國債整理基金特別會	九、六、九四七	九、六、九四七
二十、朝鮮醫院濟生院支出	一、七〇、〇〇〇	一、七〇、〇〇〇
二十一、豫備金	二、五九〇、〇〇〇	二、五九〇、〇〇〇
合 計	一〇、八三九、九七九	一〇、八三九、九七九

科	目	大正十二年度	大正十一年度
時	三、林野調査委員會費	六六、四九〇	一、三七八、六六三
	四、調査及試験費	八、九六五、三〇〇	一〇、〇七六、七七七
	五、補助費	六、一三七、九六三	七、一八〇、〇八八
	六、營繕費	四、三三九、三〇八	六、六四一、一一九
	七、土木費	一五、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
	八、鐵道建設及改良費	五〇、〇〇〇	九、六六、六六六
	九、鹽田擴張費	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
	十、砂防事業費	〇	一〇〇、〇〇〇
	臨時外國行諸費	八、一五七、七	六、一〇〇、〇〇〇
	十一、軍用地買收費	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇
	十二、金融組合費	五五、四一七	三三、〇〇〇
	十三、地籍整理及國庫地籍處理費	一五九、〇〇〇	一五九、〇〇〇
	十四、教員學生海外派遣費	一四〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
	十五、臨時朝鮮語獎勵費	一、七六、七	三、四九〇、〇〇一
	十六、耕地改良及擴張費	五、四七、一四〇	五、四七、一四〇
	十七、臨時特別手當		

部	出	總計
面公金被害補填補助	〇	一〇、〇〇〇
十九、臨時警防費	三五、四七六	五〇、九三三
十八、對在外韓人施設費	七八三、〇九五	六、一八、〇七四
二十、煙草專賣創業費	一、〇〇〇、〇〇〇	一、五三三、〇〇〇
廿一、災害費	八八九、六六〇	一、八七、三三三
覽和會紀念博覽會出品費	〇	五〇、〇〇〇
廿二、民籍副本調製費	八三、四六四	八六、八〇〇
廿三、朝鮮史編纂費	一、四、〇〇〇	一、四、〇〇〇
廿四、露國避難民救護費	一、四、〇〇〇	一、四、〇〇〇
退職特別金及歸郷特別費	〇	七、七、〇〇〇
合計	四、九四六、四九七	五、六一、六三三
合計	一、四六、〇〇〇、三三三	一、五八、九三三、三三三

經 績 費 表 其 の 一

費 目	總 費 額	支 出	年 額
調査及試験費發電力調査費	一四、〇〇一	大正十一年度以前 四七、九四三	大正十二年度 四、七三〇
		大正十三年度	四、六六三

費目	總費額	支出年割額				
		大正十一年度以前	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度
朝鮮神社造營費	一、四八七、五〇〇	七六八、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	〇	〇
總督府廳舍新營費	六、三三六、三三三	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇
平安北道廳舍新營費	六五〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	〇	〇	〇
醫院新營費	七、三三三、一三三	三、一五〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇
京城電話擴張費	八八三、四七三	六六〇、〇七六	一〇三、三九五	〇	〇	〇
京城電話整備費	五、八三三、八〇四	一、〇〇〇、〇〇〇	六七〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇
電信電話整備費	三九、一四〇、〇〇〇	一〇、八七〇、〇〇〇	一、六四〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	〇	〇
道路修築改良費	三八、六六八、〇九三	三、七四〇、〇四九	八七〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	〇	〇
海關工事費	五〇〇、〇〇〇	〇	一〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇
京城裁判所廳舍新營費	〇	〇	〇	〇	〇	〇
應急治水工事費	八、七三〇、〇〇〇	〇	四一五、〇〇〇	四一五、〇〇〇	〇	〇
支	四六、四九九	〇	〇	〇	〇	〇
大正十四年度	四六、四九九	〇	〇	〇	〇	〇
大正十五年度	四六、四九九	〇	〇	〇	〇	〇
大正十六年度	八、七三七	〇	〇	〇	〇	〇
大正十七年度	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大正十八年度	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大正十九年度	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大正二十年度	〇	〇	〇	〇	〇	〇

其の二

費目	總費額	支出年割額				
		大正十一年度以前	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度
龍山防事費	一三九、六〇〇	一三九、六〇〇	〇	〇	〇	〇
築港工事費	一、二六八、八四〇	一、二六八、八四〇	〇	〇	〇	〇
水道擴張工事費	〇	〇	〇	〇	〇	〇
支	一、四〇八、四四〇	一、四〇八、四四〇	〇	〇	〇	〇
大正十一年度以前	一、四〇八、四四〇	一、四〇八、四四〇	〇	〇	〇	〇
大正十二年度	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大正十三年度	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大正十四年度	〇	〇	〇	〇	〇	〇
大正十五年度	〇	〇	〇	〇	〇	〇

其の三



支		出		額	
大正廿一年度	大正廿二年度	大正廿一年度	大正廿二年度	大正廿一年度	大正廿二年度
1,000,000	1,733,861	1	1	1	1

二 朝鮮總督府特別會計所屬國債

大正十二年九月末日現在國債額は二億三千九十九萬六千七百六十九圓四十二錢六厘にして内起業資金公債及第一回四分利公債千四百一萬六千餘圓は舊韓國政府の起債に係り道路修築、海關工事、水道工事、金融及官業の資金、土地調査、教育及衛生設備等に使用し旱害救済費一時借入金五百萬圓を除く其の他の國庫債券及借入金二億千九百九十五萬餘圓は朝鮮總督府特別會計設定後朝鮮事業公債法に依り起債したるものにして鐵道の建設及改良、道路の修築、海關工事等の諸費を支辨し大正九年度に於ては醫院新營、警察官署新營、警備電話擴張、監獄新營、鹽田擴張及平壤鑛業所擴張等の諸費に使用するものなりしも大正十年度に於ては更に煙草專賣創業費をも支辨し大正十一年度及大正十二年度に於ては電信電話整備費及砂防事業費をも支辨することゝなれり

國債現在高

大正十二年九月末日

種別	發行及借入年月	發行及借入額	利子歩合	据置年限	償還年限
起業資金公債	明治四十二年十二月	一三、九六、九三〇	六分五厘九毛八	十箇年	大正二十二年十二月
第一回四分利公債	大正二年三月	一、〇五、六五〇	四分	同	大正五十九年二月
事業費借入金	自大正十一年	三、〇八、一一〇	五分五厘		借入の日より三箇年以内の臨時償還
同	自大正十一年	一〇、八八、〇〇〇	五分五厘		借入の日より五箇年以内の臨時償還
同	自大正十二年	一九、九六、四七三	五分		大正十七年十二月
同	自大正十一年四月	八、三六、九〇一	五分		大正十六年九月
同	自大正十一年三月	六、七〇、三〇〇	五分	五箇年	大正十六年十二月
同	自大正十一年	一、五七、九五〇	五分		同 六十五年
同	自大正十一年	三〇、八〇、九三五	五分		大正十六年十二月
同	自大正十一年八月	四、九四、四七五	五分		大正十四年九月
同	自大正十一年九月	一、五〇、二七五	五分		大正十七年三月
同	自大正十一年十一月	一、五〇、二七五	五分		大正十三年三月
同	自大正十二年三月	五、三三、四九〇	五分		大正十八年九月
同	自大正十二年五月	一四、四七、一七八	五分		大正十九年三月
同	自大正十二年八月	三、五〇、〇三三	五分		大正十九年九月

種別	發行及借入年月	發行及借入額	利子歩合	据置年限	償還年限
早害救済費一時借入金	大正十一年九月	五,000,000	五分五厘		大正十四年九月
總計		五,000,000			

内國稅

三租稅

イ地稅 地稅は朝鮮現行内國稅の首位を占め大正十二年度收入豫算額千四百七十三萬七千六百八十四圓を算し内國稅收入豫算額二千七百六十萬五千六百二十九圓の約五割に當れり

本稅は大正三年制令第一號地稅令(大正七年制令第九號)に據り田(畑)畚(田)埜(宅地)池沼、雜種地及有料借地たる社寺地に之を課し土地調查令に據る土地調查施行地域には土地臺帳、山間部、離島等土地調査不施行地域には地稅臺帳(土地臺帳に當る)に登録したる土地所有者、質權者、質の性質を有する典當權者(質權者に當る)又は地上權者より徵收し土地の收益を標準としたる地價を課稅標準として其の千分の十

七を課し納期は第一期を十二月一日より同二十八日限第二期を翌年二月一日より同月末日限とす但し一面(面は町村に當る)に於ける同一納稅義務者の地稅納額二圓未満なるときは第一期に於て其の全額を徵收せり  
今道別に課稅地段別、地價及地稅額を表示すれば左の如し

道別課稅地段別地價及地稅額

大正十二年一月一日現在

道名	段別					合計	地價	地稅	納稅人員
	田(畑)	畚(田)	埜(宅地)	池沼	雜種地				
京畿道	一七,五三三	一八,一〇四	一三,一〇四	六〇	三,六九六	三三,五七〇	一,五〇四,七五七	二六五,一三〇	二六五,一三〇
忠清北道	八六,八〇〇	六六,七九二	五,八八八	二二	三三	一五,五五六	九〇,三六九,三三三	七,五九,九九九	一六〇,七三七
忠清南道	八二,三七八	一五七,〇〇〇	九,八六一	四四	三〇,〇三六	三三,二〇三	四六,八八,五八四	一,六四六,六六六	三三一,四四四
全羅北道	六六,五三三	一三三,六四三	九,〇三九	二四	三,一六四	四三,五九三	八七,四七,八四九	一,四八八,三三三	三六二,〇七一
全羅南道	一九,一八九	一九,六六六	一五,五七七	九五	五,〇一一	二二,〇七九	二四,九四,六七七	一,九四四,〇五六	四七四,八八三
慶尙北道	一九,四九五	一七,五五五	一三,四六五	七六	七〇	三八,六二六	二七,三六,八四四	二,一六三,六八三	五三九,四〇〇
慶尙南道	一一,九六七	一五,四七七	一〇,四六八	三八	八,六七五	三六,六五三	二二,七三,六四三	一,九九九,七七六	四〇五,八九四
黃海道	三六,八八四	一三六,〇九五	二一,三六三	八〇	七,八五六	五五,三〇〇	四三,〇〇,一七〇	一,三六八,一〇三	三六九,三九四

道名	段					合計	地 價	地 税	納税人員
	田(畑)	畚(田)	宅(宅地)	池沼	雜種地				
平安南道	三三、二四六	五、七七一	七、九四〇	一〇三	五、六六八	四〇、八七六	三、七、〇九六	二九一	
平安北道	三三、九三五	六、五五四	七、三〇〇	〇	五、一四三	三九、七三三	三、七、〇九六	二九一	
江原道	三六、五三三	七、四九三	八、〇〇〇	一、一六	三、三六	四〇、八七六	三、七、〇九六	二九一	
成鏡道	四〇、八八五	三、九三六	六、六六九	五	二、四〇二	四〇、八七六	三、七、〇九六	二九一	
成鏡北道	一、九三三	六、八六七	二、六六八	五	九	八、三九七	一、四、七〇〇	八、六九九	
合計	一七、七、七七〇	一、四、七、八三三	一三三、〇〇〇	一、三六	一、四、八	一、三、七、三三三	一、四、八、〇〇〇	一、四、八、〇〇〇	

備考 一、地價は法定地價、地説は同地價に稅率を乗じ算出せり  
 二、段別は町位未滿、地價及地稅は同位未滿を切捨てたるに付總計に於て符合せず  
 三、〇は單位未滿のものとする

**口市街地稅** 市街地稅は大正三年制令第二號市街地稅令(大正七年制令第一〇號)に據り左記二十六市街地に在る田(畑)、畚(田)、堡(宅地)、池沼、雜種地又は有料借地の社寺地に之を課し土地臺帳に登録したる土地の所有者、質權者、質の性質を有する典當權者(質權者に當る)又は地上權者より之を徵收し第一期を四月一日より同月三

十日限、第二期を十月一日より同月三十一日限とし土地の時價を標準として決定したる地價を課稅標準となし其の千分の九・五を課す地價は十年毎に一般に之を改正することゝなれり  
 大正十二年度收入豫算額四十八萬九千五百圓なり

市街地稅施行市街地

道	市	街	地
京 畿 道	京城府、仁川府、水原郡水原面、開城郡松都面		
忠 清 北 道	清州郡清州面		
忠 清 南 道	公州郡公州面、大田郡大田面、論山郡江景面		
全 羅 北 道	群山府、全州郡全州面、		
全 羅 南 道	木浦府、羅州郡羅州面、光州郡光州面		
慶 尙 北 道	大邱府、金泉郡金泉面		
慶 尙 南 道	釜山府、馬山府、晉州郡晉州面		
黃 海 道	海州郡海州面		

道	市	街	地
平安南道	平壤府、鎭南浦府		
平安北道	新義州府、義州郡、義州面		
咸鏡南道	元山府、咸興郡、咸興面		
咸鏡北道	清津府		

今道別に課税地段別、地價及市街地稅額を表示すれば左の如し

道名	段				別	合計	地價	市街地稅	納稅人員
	田(畑)	奇(田)	空(地)	池沼					
京畿道	八六〇	九〇〇	一、八五〇	〇	元	三、〇八〇	二八、九〇〇	二八、〇〇〇	三、〇〇〇人
忠清北道	二二〇	一〇〇	三〇〇	〇	元	四、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四、〇〇〇人
忠清南道	八〇	一〇〇	一四〇	〇	元	三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三、〇〇〇人
全羅北道	〇	二〇	一〇〇	〇	元	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇人
全羅南道	〇	二〇	一〇〇	〇	元	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇人

道別課税地段別地價及市街地稅額

大正十二年一月一日現在

慶尚北道	三六八	三二〇	一八九	〇	元	三、〇八三	三〇、三九〇	三〇、三九〇	三、〇〇〇人
慶尚南道	八七一	五八五	三三三	一	元	一、〇八八	八、〇七八	七、七五〇	八、〇〇〇人
黃海道	一五三	一〇	八四	一	元	一、〇八八	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇人
平安南道	一八一	四	三九	一	元	三、〇八六	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三、〇〇〇人
平安北道	一〇五	一	八	〇	元	三、〇九〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三、〇〇〇人
江原道	一	一	一	〇	元	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇人
咸鏡南道	三三三	三	一〇〇	〇	元	一、七九九	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一、〇〇〇人
咸鏡北道	三三三	一	四	〇	元	三、〇八二	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三、〇〇〇人
合計	三、〇六一	一、三六一	三、〇三三	二	元	八、〇六三	七五、一六六	七五、一〇〇	六七、〇〇〇人

備考 一、市街地稅は道別地價の合計額に依りて算出せり  
 二、段別は町位未滿の地價及市街地稅は町位未滿を切捨てたるに付總計に於て符合せず  
 三、〇印は單位未滿のものとする

ハ所得稅 所得稅は大正九年制令第十六號朝鮮所得稅令(大正十年制令第七號改正)に據り(一)朝鮮に本店又は主たる事務所を有する法人(二)所得稅法施行地、臺灣、關東州又は樺太以外に本店又は主たる事務所を有する法人にして朝鮮内に資産又は



營業を有するときは其の資産又は營業より生ずる所得に付其の法人に之を賦課し其の課税標準、税率、課税方法等は概ね内地に於ける法人所得税と異ならず大正十二年度に於ける本税の收入豫算額は九十一萬七千三圓なり

二取引所税 取引所税は取引所に課する取引所税と仲買人に課する取引税とを總稱したるものにして大正十年制令第六號朝鮮取引所税令に據りて之を賦課し取引所税は賣買手数料收入金額の百分の十、取引税は取引所に於ける定期取引に依る賣買各約定金高(轉賣、買戻に係る分を除く)の萬分の五を賦課せり大正十二年度に於ける本税(取引税を含む)の收入豫算額は七十一萬四千六百五十圓なり

ホ鑛税 鑛産税及鑛區税の二者を總稱したるものにして鑛税は大正四年制令第八號朝鮮鑛業令(大正十年制令第六號改正)に據り鑛業權者に之を賦課し鑛産税は鑛産物の價格百分の一の割合を以て之を課し(金鑛、銀鑛、鉛鑛、鐵鑛、砂金及砂鑛に限り鑛産税を課せざるものとす)鑛區税は鑛區千坪又は河床延長一町毎に一年六十錢を課す(千坪又は一町未滿の端數は之を千坪又は一町として計算す)但し鑛區の割合に因る場合を除く外鑛業權設定の登録ありたる月より起算して三年間は上記の半額

とす大正十二年度に於ける本税の收入豫算額は五十四萬八千二百二十四圓なり  
ヘ登録税 登録税は明治四十五年制令第十六號朝鮮登録税令(數回の改正あり)に據りて之を賦課し不動産に關する登記を受くる者に對しては左記の區別に従ひ之を賦課するものとす

- 一 相續に因る所有權の取得は不動産價格の千分の七
- 二 贈與、遺贈其の他無償名義に因る所有權の取得は不動産價格の千分の五十
- 三 賣買其の他有償名義に因る所有權の取得は不動産價格の千分の三十五
- 四 所有權保存は不動産價格の千分の五
- 五 共有物の分割は分割に因りて受くる不動産價格の千分の五
- 六 永代地上權の取得は不動産價格の千分の二十五
- 七 地上權、永小作權の取得は存續期間十年未滿は不動産價格の千分の二、二十年未滿は千分の三、三十年未滿は千分の四、三十年以上は千分の五、存續期間の定なきものは千分の五
- 八 賃借權の取得は存續期間十年未滿は不動産價格の千分の一、十年以上は千分の

- 二、存續期間の定なきものは千分の一
- 九 地役權の取得は要役地價格の千分の一
- 十 先取特權の保存又は取得は債權金額又は不動産工事費用豫算金額の千分の六
- 十一 質權、抵當權の取得は債權金額の千分の六
- 十二 競賣、強制管理の申立は債權金額の千分の六
- 十三 假差押、假處分は債權金額の千分の四
- 十四 抵當ある債權の差押は債權金額の千分の六
- 十五 相續財産の分離は所有權に付ては不動産價格の千分の六、所有權以外の權利に付ては不動産價格の千分の一
- 十六 請求又は申立に因り抹消せらるる登記の回復は不動産每一箇二十錢
- 十七 假登記は不動産每一箇二十錢
- 十八 附記登記は不動産每一箇十錢
- 十九 登記の更正、變更又は抹消は不動産每一箇十錢
- ト印紙稅 印紙稅は大正八年制令第六號印紙稅令(大正十二年制令第十一號改正)に

據りて證書、帳簿を作成する者に之を賦課し印紙稅法第四條乃至第五條の證書、帳簿と類似の效用を有するものに對しては其の名稱に拘らず同條の規定に據るものとす

チ酒稅 酒稅は大正五年制令第二號酒稅令(大正八年制令第五號大正九年制令第二十三號大正十一年制令第六號改正)に據り之を賦課す、大正十二年度收入豫算額七百六十四萬五千五百七十三圓なり

本稅令に於て酒類と稱するは酒精及酒精を含有する飲料を謂ひ之を左の三類に分つ

- 一 醸造酒 清酒、濁酒、藥酒、麥酒の類にして醱其の他の醱酵液より製成したるもの

- 二 蒸餾酒 燒酎、高粱酒、酒精の類にして醱其の他の醱酵液、酒類、酒粕其の他の物より蒸餾して製成したるもの

- 三 再製酒 白酒、味淋、松露酒、甘紅露、梨薑酒の類にして醸造酒又は蒸餾酒の一種と他の酒類又は其の他の物とを混和して製成したるもの

酒類を製造せむとする者は製造場一箇所毎に製造場の所在を管轄する府尹郡守島司

の免許を受くるものとす

酒類を製造する者又は酒類を保稅地域より引取し者に對しては其の造石數又は引取石數に應し左の割合に依り酒稅を課す

一 釀造酒

朝鮮酒たる濁酒

一石に付

二圓五十錢

朝鮮酒たる藥酒

一石に付

七圓

麥酒

一石に付

十圓

前記以外の釀造酒

一石に付

二十三圓

二 酒精以外の蒸餾酒

原容量百分中純酒精の容量二十以下のもの

一石に付

五圓

原容量百分中純酒精の容量三十五以下のもの

一石に付

十一圓

原容量百分中純酒精の容量四十五以下のもの

一石に付

二十三圓

原容量百分中純酒精の容量四十五を超ゆるもの

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

一石に付

八十五錢

三 酒

四 再製酒

濁酒

藥酒

燒酎

自家用朝鮮酒二種以上を製造するときは各種を通して二石以下（此の場合に於て釀

酌の製造は一石を超ゆることを得ず）と限り免許す稅率は藥酒の例に依る

以下、燒酎に付ては一石以下と限り免許し左の割合に依り酒稅を課す

自家用の爲朝鮮酒を製造せむとする者には一酒造年度、濁酒又は藥酒に付ては二石

以下、燒酎に付ては一石以下と限り免許し左の割合に依り酒稅を課す

濁酒 三圓五十錢

藥酒 十圓

燒酎 三圓五十錢

第七章 財政及經濟

大正十酒造年度 自大正十年九月 至大正十一年八月 酒類の種別石數及稅額表

種別	内製		輸入		計
	石數	稅額	石數	稅額	
清酒	一、一八七	一、二五、二六四	一〇、四九	四八、八七〇	一、一、三三四、〇九四
朝鮮酒に非ざる濁酒	一、九六	五、九九七	—	—	五、九九七
麥酒	—	—	一、七、五七六	一、四八、七九三	一、四八、七九三
葡萄酒其他果實酒	—	—	一、三、五	一、三、五	一、三、五
其他	一、九六	四、一〇九	一〇	一〇〇	四、二一八
小計	三、一五三	二一、三六六	一、八、一〇一	一、四九、〇〇〇	二、三、七六六、九〇〇
朝鮮酒たる濁酒	—	—	—	—	—
藥酒	—	—	—	—	—
小計	—	—	—	—	—
合計	三、一五三	二一、三六六	一、八、一〇一	一、四九、〇〇〇	二、三、七六六、九〇〇

種別	内製		輸入		計
	石數	稅額	石數	稅額	
合計	一、一八七	一、二五、二六四	一〇、四九	四八、八七〇	一、一、三三四、〇九四
高梁酒	—	—	—	—	—
ウキ酒	—	—	—	—	—
ブランデー	—	—	—	—	—
葡萄酒其他	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—
小計	—	—	—	—	—
朝鮮酒たる濁酒	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—
白葡萄酒	—	—	—	—	—
味葡萄酒	—	—	—	—	—
甘味葡萄酒	—	—	—	—	—
リキュール	—	—	—	—	—

種別	鮮内製造		輸移入		計
	石数	税額	石数	税額	
酒					
ウキスキ	六三	四〇	一	一	一、三九三
其他	一七五	一、四〇五	四〇	一、〇八一	二、四〇六
其の他	九三	四、三三七	一、〇三〇	四、〇〇四	八、三七一
合計	三三〇	五、一四二	四一	一、〇三一	六、一七四
總計	八、七二〇	一、四〇六、四三三	四、五三七	七〇六、四九四	一、三、三三三、九二七

備考 一、本表の外家用酒製造免許者二八六、四〇二人此税額六〇九、六〇九圓あり  
 二、一人にて二種以上の酒類を製造する者の場数は遺石数の多き一方に掲げ他は×印を附し外書せり  
 三、石数及税額は單位未満を切捨てたるに付計又は總計に於て符合せず

**リ煙草耕作税** 煙草耕作税は大正十年制令第五號朝鮮煙草專賣令（大正十年制令第十一號改正）に據りて自家用煙草耕作者に之を賦課し自家用煙草を耕作せむとする者は耕作地の所在を管轄する府尹、郡守、島司の許可を受くるものとす本税は自家

用煙草耕作の許可を受けたる者より毎年八十錢を徴收す

大正十一年十月一日現在自家用煙草耕作許可人員は約五十五萬人なり  
**又砂糖消費税** 砂糖消費税は大正八年制令第四號砂糖消費税令（大正十一年制令第三號改正）に據りて之を賦課す大正十二年度收入豫算額百七十五萬八千九百三十九圓なり  
 砂糖、糖蜜又は糖水を製造せむとする者は製造場一箇所毎に製造場の所在を管轄する府尹、郡守、島司の免許を受くるものとす  
 本税は砂糖、糖蜜又は糖水を製造場又は保税地域より引取るとき其の引取人より之を徴收し税率は甜菜を原料として砂糖を製造するときに生ずる糖蜜の外は概ね内地砂糖消費税法に定むる所に同じ

大正十一年度砂糖消費税額表

區別	鮮内製造		輸移入		計
	数量	税額	数量	税額	
甲	一ヶ	一円	四、五七五	四、五七五	四、五七五
乙					
計					四、五七五

區別	区内製糖		輸移入糖		計		
	數量	稅額	數量	稅額	數量	稅額	
砂糖	第一種	—	—	—	—	—	
	第一種 乙	—	—	—	—	—	
	第一種 丙	—	—	—	—	—	
	第二種	—	—	—	—	—	
	第三種	—	—	—	—	—	
	第四種	—	—	—	—	—	
	第五種	—	—	—	—	—	
	第六種	—	—	—	—	—	
	合計	—	—	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—	—	—
糖蜜	第一種	—	—	—	—	—	
	第二種	—	—	—	—	—	
	合計	—	—	—	—	—	
	合計	—	—	—	—	—	

總計	第一種		第二種		合計	
	數量	稅額	數量	稅額	數量	稅額
第一種 甲	—	—	—	—	—	—
第一種 乙	—	—	—	—	—	—
第一種 合計	—	—	—	—	—	—
第二種 甲	—	—	—	—	—	—
第二種 乙	—	—	—	—	—	—
第二種 合計	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

備考 一、數量は斤位未満、稅額は圓位未満を切捨てたるを以て計又は合計に於て符合せざるものあり  
 二、砂糖第四種に於て數量に對する稅額の符合せざるは過徵額及前年度中に於ける調定額を本年度に於て追徵せるものありたるに因る

**朝鮮銀行券發行稅** 朝鮮銀行券發行稅は明治四十四年法律第四十八號朝鮮銀行法に據り朝鮮銀行が正貨準備發行高及五千萬圓を限度とする保證準備發行高の外更に市場の景況に據り朝鮮總督の認可を受け國債證券其の他確實なる證券又は商業手形を保證として銀行券を發行するときは其の發行高に對し一年百分の五を下らざる割合(割合は其の時々之を定む)を以て賦課す  
 大正十二年度に於ける朝鮮銀行券發行稅の豫算額は三十五萬圓なり

ヲ徵收 國稅の徵收は國稅徵收令の規定する所に據る徵稅機關は内地の如く特別機關を設けざるも府面(法人)をして徵收せしめ又は府尹、郡守、島司をして直接徵收せしむる等其の方法は略ほ内地に同じ而して府面(法人)をして徵收せしむる稅目は國稅徵收令施行規則の規定に據り地稅、市街地稅、酒稅(朝鮮酒以外の酒稅を除く)及煙草耕作稅となし其の他の國稅は總て府尹、郡守又は島司に於て納稅義務者より直接徵收す但し府面(法人)をして徵收せしむる國稅に於ても納稅義務者より直接納付せしむるを便利なりと認むるときは直接府郡島に於て徵收し得るものとす

## 關稅

イ輸入稅 朝鮮の關稅制度は併合の際通商各國に對して聲明せる十年關稅據置之宣言に基き舊韓國政府と通商各國との協定に成れる關稅を襲踏し來りたるものなりしも大正九年八月二十八日右期間の満了と共に統一關稅主義に據りて帝國共通の關稅制度を布かれ關稅法、關稅定率法、保稅倉庫法、假置場法等凡て朝鮮に於て其の施行を見るに至りしを以て貨物を朝鮮に輸入し又は朝鮮より輸出する場合に内地と同様の稅關手續を要し關稅を要するものは内地と同様の關稅を賦課せら

れ内地又は朝鮮の一方に於て輸出入手續を行ふものは再び朝鮮又は内地に移入する場合に於て輸出入手續(移出入手續を要する物品あるも)を要せざるのみならず内地を經由して朝鮮に於て若は朝鮮を經由して内地に於て輸入手續を行ひ又は朝鮮に於て輸出手續を行ひ内地を經由して若は内地に於て輸出手續を行ひ朝鮮を經由して輸出せむとする場合に於ては關稅上運送の手續に依り之を行ふを得ることとなりたり

以上は内鮮共通の原則なるも朝鮮に於ては其の産業民度其の他の事情に依り關稅上幾多の特例を設けたるものあり其の主なるものを列記すれば左の如し

- 一 馬、緬羊、鹽、礦油(主として石油)、コークス、木材に對しては一般の關稅率よりは特に輕稅又は無稅とす
- 二 従來朝鮮に於てのみ關稅免除の特典を附與したるものゝ中尙存續の必要あるものは之を存置す
- 三 朝鮮特殊の制度たる國境關稅に對し特例を設く

大正十一年度中に於ける輸入稅收入額は七百一十一萬四千四百九十九圓なり

口移入税 移入税は統一關稅制度採用と共に内鮮間相互に之を撤廢し且船舶貨物の自由交通を認むることを根本の方策とし内地に於ては新制度の施行と共に移入税の撤廢を斷行したるも朝鮮に於ては大正九年度の財政計畫に當り庶政の釐革、文化的施設の擴張充實の爲政費の膨脹を來し朝鮮歲入中の主要資源たる移入税を撤廢すること能はざる事情に會したる爲内地側と同時に之を實行すること能はざりしのみならず其後も屢々延期の已むを得ざるものありしも大正十二年度より酒精、酒精含有飲料及織物を除く一切の物品に對し移入税の撤廢を斷行するに至れり

移入税一部撤廢の結果として内鮮間に入出する船舶貨物に對する取締上の拘束は可成之を移入税全部撤廢の場合と同様自由ならしむるが爲其の取締を寛大にし船舶に對しては從來其の出入を開港に制限したるを全然自由にして開港不開港を問はず其の出入を許し單に船長より入出港届移出積荷目録を提出せしむるに止め貨物に對しては移入税、消費税、出港税等に關係なき貨物は沿岸何れの地を問はず出入するを得しめ移入税等に關係ある貨物に對しても從來の開港の外南鮮地方

を主として内地と直接交通の衝に當る港二十箇所を指定し之に稅關出張所を設置して貨物通關の事務に當らしめ以て鮮内重要諸港の自由交通に支障を來さしめざることとし其の他の沿岸不開港に於ては警察官署に於て入出港届、積荷目録の受理及出入貨物の取締を行ふこととせり

大正十一年度中に於ける移入税收入額は八百六十五萬千五百五十三圓なるも十二年度は移入税一部撤廢の結果多大の減少を來す見込にして同年度歳入豫算額は二百六十九萬二千八百二十四圓とせらる

### 噸税

噸税は外國貿易の爲外國に往來する船舶の開港に入港したる場合に之を課し從來關稅と同様併合當時の宣言に基き外國又は内地、臺灣、樺太より朝鮮開港に入港する船舶に對し舊率に據り課税せるも大正九年八月二十九日以後は凡て内地に於ける噸税法の例に據ると同時に朝鮮と内地、臺灣又は樺太との間に通航する船舶に對しては之を廢止せり大正十一年度中に於ける噸税收入額は二萬六千五百二十圓なり

### 出港税



出港税は内地に於ける對朝鮮移入税の撤廢に伴ひ帝國内の他の地方に於て内國税を課する物品及朝鮮に於て輸入税の特例を設けたる物品に對し朝鮮と帝國内の他の地方との間に於ける内國税及關稅の相違を調節する爲大正九年八月二十九日以後新に之を設定せるものにして當該貨物を内地、臺灣又は樺太に移出する場合に之を賦課せり其の課稅物件及稅率は左の如し

- 一 移出先に於て内國税を課する物品但砂糖、糖水、骨牌、賣藥及賣藥類似品並移出先に輸入する場合に内國税を課せざる物品にして朝鮮に輸入したるものを除く移出先に於ける内國税の稅率と同一の稅率
- 二 朝鮮に於て移出先に於ける輸入税の稅率より低き稅率に依り輸入税を課し又は朝鮮に於てのみ輸入税を免除し若は無税と爲したる物品  
輸入税を免除し又は無税と爲したる物品に在りては移出先に於ける輸入税の稅率と同一の稅率、其の他の物品に在りては移出先に於ける輸入税の稅率と朝鮮に於ける輸入税の稅率との差に相當する稅率
- 三 帝國内に於て製造したる左記織物製品

衣服、帽子、帶、足袋、蚊厨、浴布、手巾、テーブルクロス、窓掛、蒲團寢具及其の他の原料として使用したる織物の價格の百分の十

大正十一年度中に於ける出港移收入額は六萬八千四百十五圓なり

#### 四 驛屯賭收入

驛屯賭收入とは驛屯土の貸付料及使用料の謂にして驛屯土とは驛土及屯土の總稱なり驛土は李朝以前に於て公文書の遞傳と公務を以て旅行する官吏との爲に各道に驛站を設け之に驛卒馬匹を配置し其の給養に充つる爲給付せられたる田畝(畑田)にして屯土は往昔警備の爲戍卒を置き其の耕食に充てたる土地を謂ふ是等の制度は明治二十七年に至りて廢止せられ爾來其の土地は或は國に於て或は宮中に於て處理したるも現今之を國有地として處理し其の貸付及其の附屬の淤の使用に關する事項並貸付料及使用料の收納は府尹、郡守、島司に於て之を處理せり貸付料は大正九年七月前に在りては定額金納制にして大體に於て民間小作料に比し一割を低減せるものを標準と爲したるも民間小作料の如く物納に非ざるを以て年の豊凶と穀價の變動とに因り地主たる國と小作人の間常に利害相反し且民間小作料

との間に於ても權衡を得ざる場合多きを以て大正九年八月堡以外の土地は主作物を本位とせる現品の一定量を貸付料算出の基礎とし其の年の穀價に依りて之を金額に換算し京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、黃海道及江原道は毎年十一月中に其の他の各道は毎年十二月中に收納することに改めたり而して收穫高に對する現品定量の割合は民間に於ける小作慣例を參酌して三割五分以下の範圍に止めたるが故に急激なる負擔の増加を避け得たるのみならず民間小作料に比し尙一割以上低廉と爲せり

從來驛屯土の小作期間は普通五年とし特別の事由あるものゝ外は満期に至るも小作人を更改することなく貸付契約の更新に依りて可成永年に亘り小作に従事せしむることとし以て土地愛護の念を養成するに努力せしも大正九年府令第百十號を以て之を現在小作人に賣拂ふことゝ爲し賣拂代金は十年間に分割前納せしむるを以て賣拂契約締結の土地に對しては小作期間を十年に改むると同時に第二年度以降に於ける貸付料は其の十分の一宛を遞減することゝ爲せり大正十二年度驛屯賭収入の收入豫算額は二百十六萬七千九百六圓なり

### 第二節 通貨

明治三十八年貨幣の根本的整理に着手し先づ幣制を改正し新貨幣を發行して其の品位量目を帝國貨幣と同一となし舊白銅貨及葉錢の回収に努めたる結果舊白銅貨は明治四十二年十二月限り全く其の通用を禁止し葉錢の流通額亦大に減少するに至れり尋で併合以來帝國貨幣統一の方針を以て舊韓國貨幣は一切之が鑄造を停止し大正七年四月貨幣法を施行すると同時に舊韓國貨幣の處分に關する法律を公布し舊韓國貨幣條例に依り發行し又は通用を認めたる貨幣は大正九年十二月末日限り通用を停止し其の後五年間は政府に於て之を引換へ葉錢のみ尙當分其の通用を認めたり

#### 通貨流通見込高

年	別	金貨	補助貨及 小額紙幣	舊韓國新貨幣	日本銀行券	朝鮮銀行券	合 計
大正八年末		千円 1	千円 10,600	千円 1,950	千円 1,230	千円 1,345	千円 2,575
同 九年末		千円 1	千円 10,373	千円 1,950	千円 1,230	千円 1,345	千円 2,578

年 別	金 貨	補助貨及 小額紙幣	舊韓國新貨幣	日本銀行券	朝鮮銀行券	合 計
同 十年末	千円 1	千円 八、八六	千円 1	千円 三	千円 101、三六	千円 110、一四
同 十一年末	千円 1	千円 九、八三	千円 1	千円 三、七四	千円 七、一五	千円 八、四七
同 十二年九月末	千円 1	千円 10、0三	千円 1	千円 三、四二	千円 五、一五	千円 六、四八

備考 内容の合計に符合せざるは千圓未満切捨の關係に因る  
朝鮮銀行券中朝鮮以外に流通せるものは之を含まず

朝鮮銀行券は朝鮮銀行法に依り發行する兌換券にして朝鮮に於ける主要の通貨として經濟の發達に伴ひ漸次發行高を増加し大正六年十二月以降は關東州及南滿洲鐵道附屬地に於ても亦無制限通用を認められ同時に從來橫濱正金銀行の發行し來れる金券の引繼を受けたるを以て發行高の増加一層大となれり又其の保證準備發行制限額は從來三千萬圓なりしも大正七年四月朝鮮銀行法の改正に依り五千萬圓に擴張せられたり

### 第三節 金 融

#### 一 金融機關

朝鮮に於ける金融機關は明治十一年第一銀行釜山支店設置に濫觴し次て十八、百三十銀行等各地に支店を設け之と前後して大韓、天一(朝鮮商業)、漢城の諸銀行亦朝鮮人の設立する所となり超へて同三十九年農工銀行、同四十年より地方金融組合(金融組合)同四十一年東洋拓殖會社の設立を見同四十二年中央銀行として韓國銀行設立せられ後朝鮮銀行と改稱したり爾來東洋拓殖會社は同大正六年十月本店を内地に移したるも依然朝鮮に於ける主要の金融機關として活動し又大正七年十月一日には朝鮮殖産銀行の設立ありて從來の六農工銀行を統一合併せり現今朝鮮に於ける金融機關は中央金融機關として朝鮮銀行あり不動産金融機關として朝鮮殖産銀行及東洋拓殖會社あり商業金融機關として普通銀行の朝鮮に本店を有するもの十八内地に本店を有するもの四、滿洲に本店を有するもの一の外朝鮮銀行及朝鮮殖産銀行亦各其の特殊銀行業務の傍ら普通銀行を兼營し其の他地方民の小金融機關として各地に金融組合を有せり

#### 各種銀行一覽

大正十二年九月末日

銀行	支店及出張所		開業年月日	銀行	支店及出張所		開業年月日
	支店	出張所			支店	出張所	
朝鮮銀行	10	10	明治四十二年十一月二十四日	三南銀行	1	1	大正九年三月十八日
朝鮮殖産銀行	5	5	大正七年十月一日	湖南銀行	1	1	大正九年九月二十二日
第一銀行支店	2	2	明治十一年五月四日	大邱銀行	1	1	同 九年七月七日
十八銀行支店	9	9	同 二十二年一月一日	鮮南銀行	1	1	同 元年九月二十一日
百三十銀行支店	4	4	同 二十五年七月二十七日	慶一銀行	1	1	同 九年五月二十二日
山口銀行支店	1	1	同 十一年十一月十一日	慶尚共立銀行	1	1	同 九年八月二日
滿洲銀行支店	1	1	同 十二年八月一日	釜山商業銀行	1	1	同 二年四月二十一日
滿一銀行	8	8	同 三十六年二月七日	慶南銀行	1	1	同 元年九月二十二日
朝鮮商業銀行	10	10	同 三十九年八月八日	東萊銀行	1	1	同 七年九月十四日
朝鮮實業銀行	5	5	同 三十二年三月七日	密陽銀行	1	1	同 明治四十年三月一日
海東銀行	1	1	大正九年七月十五日	大同銀行	1	1	大正九年四月一日
湖西銀行	1	1	同 九年七月十七日	北鮮商業銀行	1	1	同 七年十一月九日
計	4	4	同 二年七月四日	計	13	13	

本表中※印を附したるは内地に本店を有する銀行の支店元金なり  
 本表の外朝鮮銀行の朝鮮外支店、出張所一十五及滿城銀行東京支店大阪支店の二有り

新義州銀行は十二年六月二十五日滿洲商業銀行に元山商業銀行十二年六月三十日朝鮮商業銀行に何れも合併せり

各種銀行及東拓預金並貸出金表

大正十二年九月末日

名稱	預金		貸出	
	公金	民間	公金	民間
朝鮮銀行	6,750	3,300	4,100	7,500
殖産銀行	8,761	3,000	3,800	10,666
普通銀行	1,171	4,000	17	80,678
東拓會社	1	1	4,100	3,000
計	16,683	10,301	12,007	24,644
大正八年末	4,553	9,131	1,197	3,653
大正九年末	5,333	9,360	1,603	3,033
大正十年末	9,577	11,268	3,982	3,687
大正十一年末	16,842	11,079	4,946	3,477

備考 内容の合計に符合せざるは千圓未満切捨の關係に因る

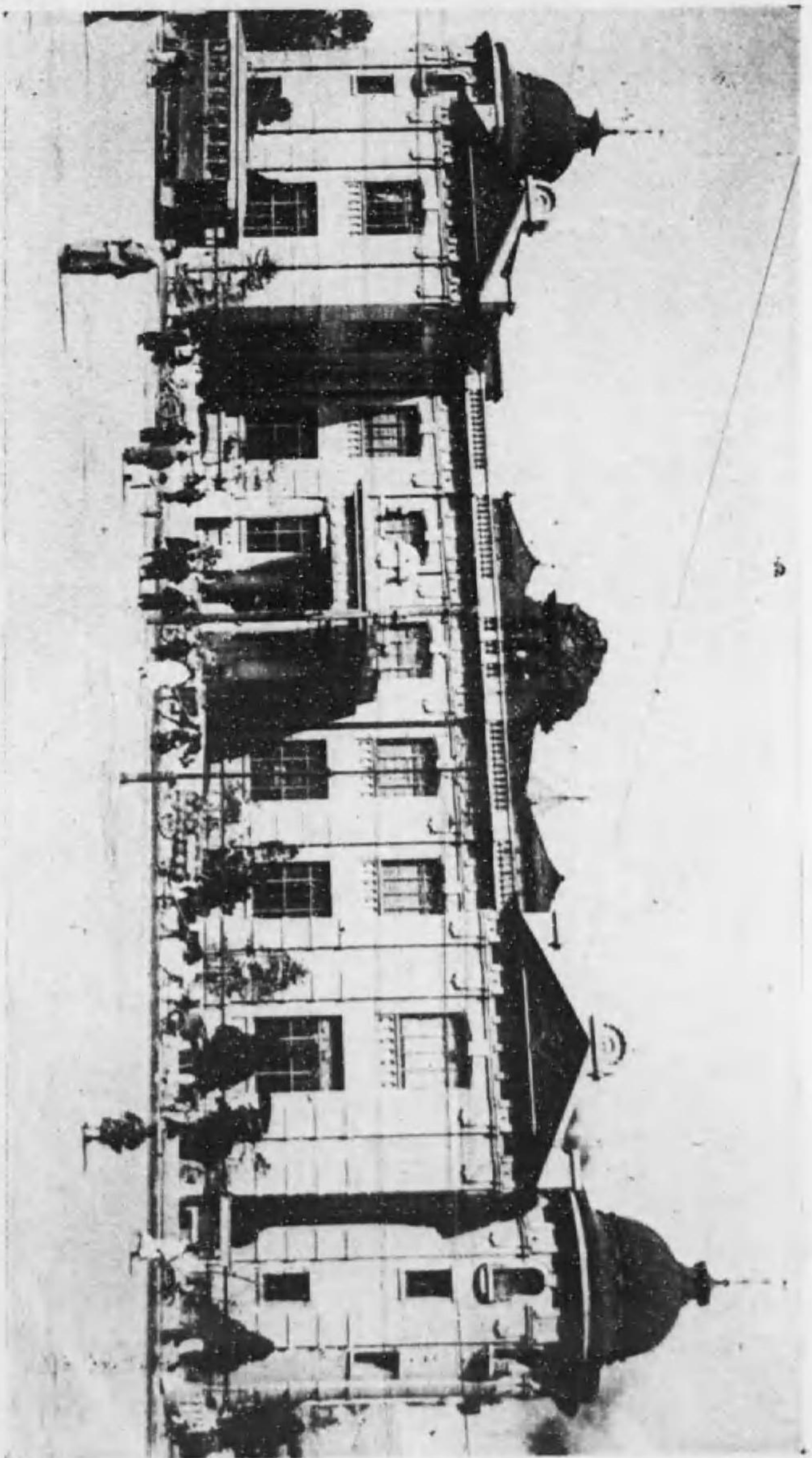
二 金 利

從來朝鮮に於ける金利は非常に高率に失し爲に産業の發達上尠からざる障害ありしを以て農工銀行及金融組合を各地に設置して之が低下に力めたる結果漸次低落を示し來りたるも尙一般金利に制限を附するの必要を認め明治四十四年十一月利息制限令を發布せり其の利率左の如し

- 一 元 金 百 圓 未 滿 年 三 割 以 下
  - 一 元 金 百 圓 以 上 千 圓 未 滿 年 二 割 五 分 以 下
  - 一 元 金 千 圓 以 上 年 一 割 以 下
- 但し質屋營業者の貸借元金五十圓未滿及市場に於ける貸借元金三十圓未滿の利息には適用せず

三 朝 鮮 銀 行

朝鮮に於ける國庫金の出納、銀行券の發行其他中央銀行の業務は明治三十八年七月以來株式會社第一銀行韓國總支店をして之を取扱はしめたるが財政の膨脹經濟の發展に伴ひ別に金融の中樞たる中央銀行設立の必要を認め明治四十二年十月韓國銀行を設



(城 京) 行 銀 鮮 朝

立して第一銀行より中央銀行としての業務を繼承し同年十一月より業務を開き其の後四十四年三月併合と同時に朝鮮銀行法發布せられ朝鮮銀行と改稱せり  
現在資本金は八千萬圓にして中央銀行として國庫金の出納、國債事務取扱並銀行券を發行する外左の業務を營む

(一)爲替手形其他商業手形の割引、(二)平常取引する諸會社銀行又は商人の爲替手形代金の取立、(三)爲替及荷爲替、(四)確實なる擔保ある貸付、(五)諸預り金及當座貸越勘定、(六)金銀貨、貴金屬及諸證券の擔保預り、(七)地金銀の賣買及貨幣の交換、(八)信託の業務、(九)尙政府の認可を受くるときは公共團體に對し無擔保貸付を爲すことを得營業の都合に由りては國債證券、地方債證券其他確實なる有價證券を買入るゝことを得るものとす

同銀行は支店を京城に置き朝鮮内樞要地に支店出張所を設け尙爲替の調節及貿易助長の爲東京、大阪、神戸、下關、安東縣、大連、奉天、長春、哈爾濱、四平街、開原、營口、吉林、龍井村、遼陽、鐵嶺、旅順、鄭家屯、青島、上海、天津、濟南及露領浦鹽、樺太亞港、米國紐育に支店又は出張所を設置せり滿洲に於ては金本位制の補助貨

缺乏の爲商取引に困難を感ずるを以て大正五年六月十二日以來五拾錢、貳拾錢、拾錢の小額支拂手形を發行し大正十二年九月末に於ては發行高五十八萬圓なり

朝鮮銀行總況

年	資本金		積立金	貸下金		借入金	預金	貸出金	銀行高券
	公稱	拂込		政府	府				
大正八年末	40,000千円	3,000千円	4,800千円	1,300千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	100,000千円	1,000,000千円
同 九年末	40,000	3,000	4,800	1,300	3,000	3,000	3,000	100,000	1,000,000
同 十年末	40,000	3,000	4,800	1,300	3,000	3,000	3,000	100,000	1,000,000
同 十一年末	40,000	3,000	4,800	1,300	3,000	3,000	3,000	100,000	1,000,000
同十二年九月末	40,000	3,000	4,800	1,300	3,000	3,000	3,000	100,000	1,000,000

本表中X印を附したるは滿洲にのみ流通する小額支拂手形にして外幣とす  
本表預金及貸出金には朝鮮外交店の分を包含せず

朝鮮銀行利率

大正十二年九月

預金	利率			貸出金	利率
	普通	優	最高		
定期預金	年利	一箇年以上	六分五厘	當座貸越	日歩
特別當座預金	日歩	一錢三厘	貸付	日歩	三錢四厘乃至二錢八厘
當座預金	日歩	最高	七厘	割引手形	日歩
		普通	六厘		
		最低	七厘		
		普通	七厘		

四 朝鮮殖産銀行

舊韓國財政整理の當時地方金融の梗塞を緩和し併せて殖産興業の振作に資せんが爲明治三十九年三月農工銀行條例を發布し政府は其の株式を引受け或は無利子貸下金を爲す等農工銀行の設立發展を助長したる結果大正六年末に於て本店六支店四十一の農工

銀行を有するに至り地方産業の開発に貢献したる所尠からざりしも其の資本金は六行を合せ僅に二百六十萬圓に過ぎずして到底時代の要求に應ずること能はざるを以て組織に革新を加へ分立の制を改め之を統一して一大銀行となし以て朝鮮將來の經濟に貢献せしむべき目的を以て大正七年六月朝鮮殖産銀行令を發布し十月一日其の設立を見たり同銀行は資本金三千萬圓にして本店を京城に置き朝鮮内樞要の地に支店五十二派出所五を置き左の業務を営めり

- 一 三十年以内の年賦償還又は五年以内の定期償還の方法に依り不動産又は不動産上の權利を擔保とする貸付
- 二 五年以内の定期償還の方法に依り漁業權を擔保とする貸付
- 三 法令の規定に依り設定したる財團を擔保とする第一號の方法に依る貸付
- 四 農業者又は工業者二十人以上連帶して債務を負ふ者に對する五年以内の定期償還の方法に依る無擔保貸付
- 五 公共團體に對する第一號の方法に依る無擔保貸付
- 六 金融組合漁業組合其他營利を目的とせざる産業に關する法人に對し第一號の

方法に依る無擔保貸付

- 七 朝鮮の產物又は朝鮮の産業上必要なる貨物を質とする貸付
  - 八 國債證券又は朝鮮總督の認可したる有價證券を質とする貸付
  - 九 爲替及荷爲替
  - 十 公共團體の債券又は朝鮮に於て殖産事業を營むことを目的とする會社の社債券の應募又は引受
  - 十一 信託の業務
  - 十二 預り金又は地金銀、有價證券の保護預りを爲し朝鮮總督の認可を受け他の銀行又は東洋拓殖會社の業務を代理し公共團體の爲に其の金錢出納の取扱を爲すのみならず朝鮮總督の指定に基き普通銀行の業務に屬する貸付及當座貸越並諸手形割引の業務を營み大正八年九月以降は更に貯蓄預金の業務を開始せり
- 朝鮮殖産銀行は其の營業資金を得る爲拂込資本金額の十倍を限り債券を發行することを得

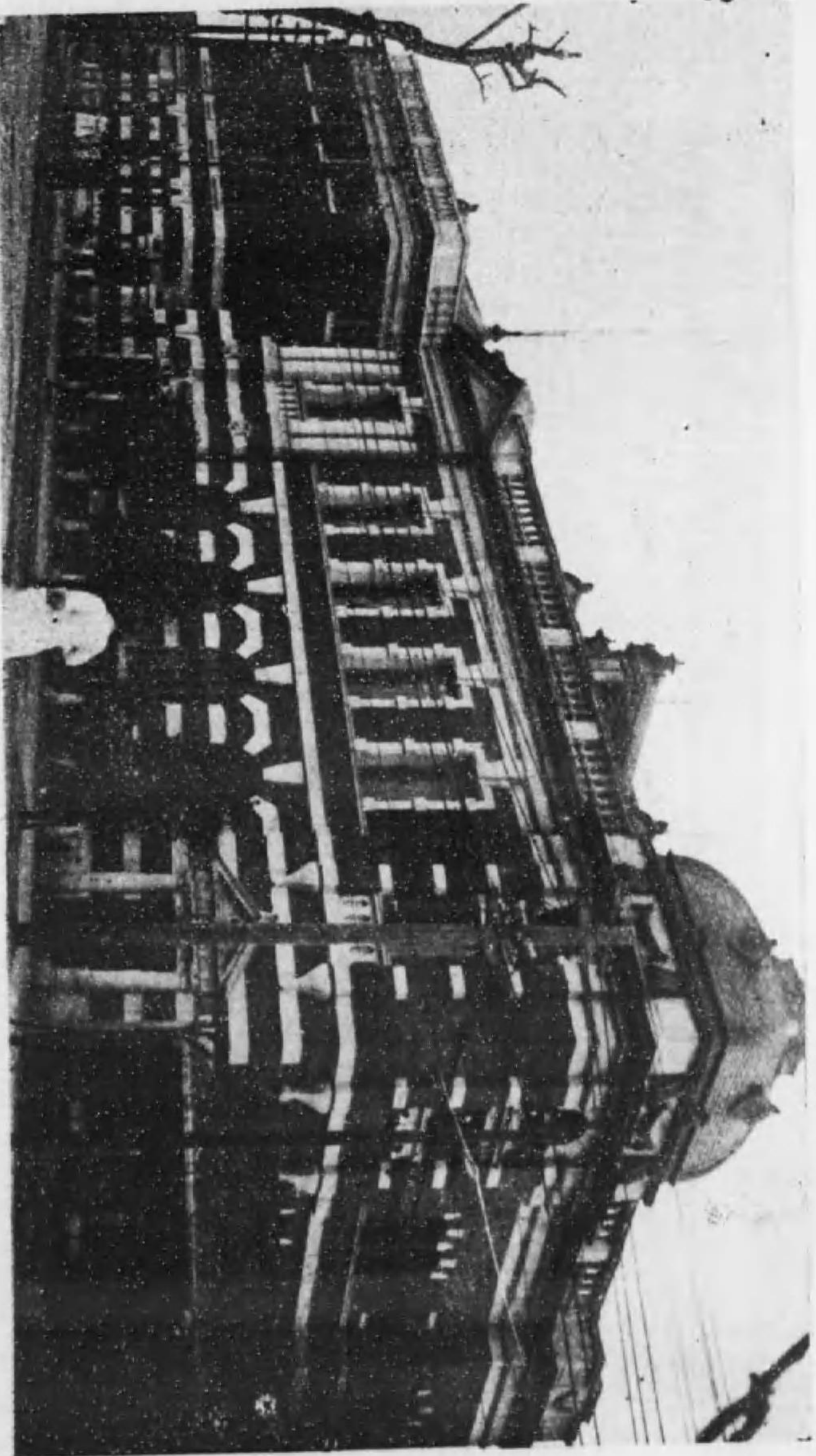


朝鮮殖産銀行一覽

年	公本 金稱	資辦 本金込	積立 金	債行 高券	預 金	貯蓄 預金	貸出 金	貸政 下金
大正七年末	10,000 千円	4,120 千円	606 千円	3,000 千円	15,320 千円	11 千円	5,600 千円	1,450 千円
同八年末	10,000	8,000	635	14,500	20,883	295	2,000	1,000
同九年末	10,000	15,000	550	3,400	27,278	35	8,500	1,000
同十年末	10,000	15,000	1,108	4,500	27,278	1,562	13,180	1,000
同十一年末	10,000	15,000	1,403	8,500	28,122	3,003	15,266	1,000
同十二年九月末	10,000	15,000	2,000	6,000	28,691	4,536	16,589	1,000

五 普通銀行

朝鮮に於ける普通銀行は第一銀行の釜山に支店を設置したるを始とし爾來經濟の發達に伴ひ漸次其の設立を増加せるのみならず内鮮人間經濟關係の密接となるに隨ひ内鮮人の合同經營に係るものあるに至りしを以て適用法規の統一を計る爲大正元年十月銀行令を發布せり現今普通銀行は朝鮮に本店を有するもの十八其の支店出張所五十九、



(漢 城) 行 銀 城 漢

内地に本店を有する銀行の支店出張所十六、満洲に本店を有する銀行の支店一なり

普通銀行一覽

大正十二年九月末日

銀行	公稱資本金	拂込資本金	積立金	政府貸下金	預金	貸出金
第一銀行支店	千円	×	千円	千円	千円	千円
十八銀行支店	千円	×	千円	千円	千円	千円
百三十銀行支店	千円	×	千円	千円	千円	千円
山口銀行支店	千円		千円	千円	千円	千円
漢城銀行	六、〇〇〇		〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇	一六、〇〇〇
韓一銀行	二、〇〇〇		五、〇〇〇		四、三〇〇	六、六九〇
朝鮮商業銀行	二、一三三		六、六〇〇	一、九七	一〇、四九	一三、五〇七
朝鮮實業銀行	五、〇〇〇		六、六〇〇		五、三三七	六、六六七
漢京銀行	二、〇〇〇		一〇〇		二、九六	七、一七四
湖南銀行	二、〇〇〇		一〇〇		三、三〇	一、四四一
三南銀行	一、〇〇〇		三〇		八七	四三六
湖南銀行	一、〇〇〇		三〇		九二	一、三九四



手形交換所手形交換高

種 別	大正八年中		同九年中		同十年中		同十一年中		同十二年自一月至九月	
	枚數	交換金額 千円	枚數	交換金額 千円	枚數	交換金額 千円	枚數	交換金額 千円	枚數	交換金額 千円
京城手形交換所	八六三、五七九	五七三、三〇〇	九三〇、七三九	四四七、七五九	一、二一九、七〇〇	五三三、三〇〇	一、三九八、七〇〇	五七一、八七九	九〇五、八五九	三〇六、九〇〇
釜山手形交換所	二七九、九三〇	二六、五六一	二五五、九六〇	一五、九二六	三六六、九七六	一一三、九三九	一、〇四〇、三三三	一、〇三三、三三三	一、〇三三、三三三	一〇一、〇三三
仁川手形交換所	七九、四三八	一〇八、〇一九	八五、四〇三	八、三三三	一、七、一〇六	一〇三、三三三	三、三三三	三、三三三	七、七三三	七、三三三
平壤手形交換所	一〇〇、一四〇	六五、五九九	一四一、三〇〇	六、三三三	一、一五、一五〇	五七、三三三	一九六、九七六	五七、〇五七	一一七、五七六	一八、三三三
元山手形交換所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大邱手形交換所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	一、三四三、一四五	九三三、四〇六	一、四〇一、一七九	四四九、三九六	一、七〇六、六三六	八三三、〇〇〇	二、〇〇五、七二二	二、〇〇五、七二二	一、四六三、七三五	六六、八五九
小切手	九三六、八三〇	六六四、五九九	九五五、八九〇	五三七、七三六	一、三九八、九六一	五五八、三三六	一、四八四、三三三	六〇〇、五七〇	一、〇三三、七三三	三九四、七三三
送金爲替手形	五七、七二八	七四、三三三	六三、三三三	七、三三三	七九、三三三	六五、七三三	八八、六三三	七〇、四三三	七〇、四三三	五八、六三三
約束手形	四六、九二一	六四、五三三	六二、四六六	七、三三三	六三、六三三	三三、六三三	七四、〇三三	四七、一三三	四八、七三三	三三、三三三
出給命令及 出給命令合 郵便爲替證書	三九、四三三	三六、七三三	四三、五三三	五、〇三三	四四、六三三	五三、八三三	六五、九三三	五五、三三三	四八、四三三	三三、八三三
總計	一、三四三、一四五	九三三、四〇六	一、四〇一、一七九	四四九、三九六	一、七〇六、六三六	八三三、〇〇〇	二、〇〇五、七二二	二、〇〇五、七二二	一、四六三、七三五	六六、八五九

別	公債債券同利札	雜 票	總 計
枚數	一、八四〇	一、五七五	一、三四〇
交換金額 千円	一、三三六	五八、三三三	一、九一五
枚數	一、六一九	三六、三九八	一、〇二七
交換金額 千円	一、一四四	九〇、三三三	一、二八八
枚數	一、八四四	一、〇七三	二、九一七
交換金額 千円	一、九八五	〇、六三三	二、六一八
枚數	一、五六一	四、八七三	六、四三四
交換金額 千円	一、五六一	一、〇三三	二、五四四
枚數	一、五六一	一、〇三三	二、五四四
交換金額 千円	一、五六一	一、〇三三	二、五四四
枚數	一、五六一	一、〇三三	二、五四四
交換金額 千円	一、五六一	一、〇三三	二、五四四

内容の總計に符合せざるは千圓未満切捨の關係に因る

七 金融組合

金融組合は下層農民の金融を緩和し其の經濟の發達向上を圖らむが爲明治四十年地方金融組合規則を發布し爾來毎年各地に數十の組合を設立し農村の經濟を緩和し産業を助長せること鮮からざりしが時勢の進運に従ひ之を改正して大正三年五月地方金融組合令を制定し組合員の權利義務を明にし業務の範圍を擴張し次て大正七年六月又一部の改正を加へ地方金融組合令を金融組合令と改め從來農民に限りたる組合員の資格を擴張して商工業者其他一般の者にも及ぼし村落組合の外別途新に市街地に於て専ら小商工業者を主とする都市組合の設立をも認めたるを以て都鄙を通し組合の機能を發揮し着實穩健なる發達を遂げつゝあり今組合經營の要項を摘記すれば左の如し



道名	組合數	組合員數	拂込資金	下付金	積立金	預り金	借入金	貸出金	代理及媒介貸付金	預現金及
全羅北道	三	一七、二〇四	二七、九八五	三、四九〇	三、七〇〇	一、六二四、三六	一、七五五、四六	三、三六八、四二〇	五、〇〇四	五八〇、〇〇〇
全羅南道	四	三〇、〇七七	三〇、〇七四	三、〇七〇	三、三三三	一、八八九、五五	二、五七五、三三	四、四〇六、九三	一、〇五七、九七〇	八三三、五三〇
慶尙北道	四	三三、三六四	四、七三〇	三、三〇〇	三、四三三	二、七五三、六六	二、七三六、八三	五、二九〇、八九	一、一〇九、四六	一、三三三、三三〇
慶尙南道	四	三三、三六四	五、三三三	三、三〇〇	三、四三三	三、六六六、九〇	三、三九九、九三	五、四三三、七七一	一、一六三、七九	一、五〇六、三〇〇
黃海道	三	三三、六七三	三、六七三	三、三〇〇	三、三三三	一、九〇六、一〇	二、七四〇、三〇	四、五八六、二七	一、六七六、八三	一、五〇六、三〇〇
平安南道	三	三三、六七三	三、六七三	三、三〇〇	三、三三三	一、九〇六、一〇	二、七四〇、三〇	四、五八六、二七	一、六七六、八三	一、五〇六、三〇〇
平安北道	三	三三、六七三	三、六七三	三、三〇〇	三、三三三	一、九〇六、一〇	二、七四〇、三〇	四、五八六、二七	一、六七六、八三	一、五〇六、三〇〇
江原道	三	三三、六七三	三、六七三	三、三〇〇	三、三三三	一、九〇六、一〇	二、七四〇、三〇	四、五八六、二七	一、六七六、八三	一、五〇六、三〇〇
咸鏡南道	三	三三、六七三	三、六七三	三、三〇〇	三、三三三	一、九〇六、一〇	二、七四〇、三〇	四、五八六、二七	一、六七六、八三	一、五〇六、三〇〇
咸鏡北道	三	三三、六七三	三、六七三	三、三〇〇	三、三三三	一、九〇六、一〇	二、七四〇、三〇	四、五八六、二七	一、六七六、八三	一、五〇六、三〇〇
總計	四六	三、〇九一	三、〇九一	三、〇九一	三、〇九一	三、〇九一	三、〇九一	三、〇九一	三、〇九一	三、〇九一

備考 一、預り金には職員身元保證金を、借入金には補助貸流通普及資金を含みます  
 二、政府下附金には倉庫建設補助金を含む

### 八 金融組合聯合會

金融組合は創立以來下層金融機關として極めて重要な地位を占め事業亦年を逐つて發展せしも組合相互間に於ける資金の過不足を調節すべき機關を缺き且つ其監督指導を擧げて官廳のみに委するは組合の積極的活動を促進する上に遺憾尠からざるものありしを以て大正七年六月金融組合令の改正に當り組合の資金調節並其の業務指導に任する金融組合聯合會の設立を認めたる結果同年十一月各道に之が設立を見たり其の組織を摘要すれば次の如し

イ聯合會は一道を區域とし其の區域内の金融組合を以て組織す但し區域内の産業に關する法人にして朝鮮總督の指定したるものに限りに加入せしむることを得

ロ會員には出資一口以上(一口五百圓)を負擔せしめ之に對して年七分の割合迄の利益配當を行ふ會員の責任は其の出資額を限度とす

ハ聯合會には理事長一人理事一人監事二人以上を置く理事長及理事は朝鮮總督之を任

免し監事は會員たる組合及法人の役員中より選任す而して理事長は聯合會を代表して其の業務を執行し理事は理事長を補佐し理事長事故あるときは其の職務を代理す

二 聯合會の資金は出資金、預り金、政府貸下金、借入金及各種積立金より成り左に掲ぐる事業を營む

一 會員に對し必要なる資金を貸付すること

二 會員より預り金を爲すこと

三 會員に對し業務上の指導を爲すこと

四 會員相互の聯絡及業務上の便宜を圖ること

金融組合聯合會事業概況

大正十二年九月末日

聯合會名	會員數	拂込済出資金	積立金	預り金	貸下金	借入金	貸出金	現金及預金
京畿道金融組合聯合會	四八	三九、三六〇	一六、一三七	七〇、〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三、五〇六、一五八	一、七四三、七六八	三、四八三、六八八
忠清北道金融組合聯合會	三三	一〇、五〇〇	一六、〇五〇	三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一、一五七、三〇〇	一、〇三一、〇一〇	三、〇七五、五五五

忠清南道金融組合聯合會	三三	一六、六六六	一一、〇〇〇	五二、六六六	一〇〇,〇〇〇	一、〇八八、五五五	一、八四三、四三三	七、七五〇
全羅北道金融組合聯合會	三三	一五、七七七	一一、一〇〇	四三、五〇〇	一〇〇,〇〇〇	一、一六八、〇〇〇	一、七四三、七六八	一〇、〇〇〇
全羅南道金融組合聯合會	四七	四〇,〇〇〇	八、七八八	五八、七二二	一〇〇,〇〇〇	一、七六六、〇〇〇	二、五七八、六六一	一〇、〇〇〇
慶尙北道金融組合聯合會	四七	二一、五二四	三三,〇〇〇	九三,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一、四三二、八〇〇	二、七三三、七三七	三、〇〇〇、〇一〇
慶尙南道金融組合聯合會	四七	一〇,〇〇〇	四、〇〇〇	二六、〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一、二〇,〇〇〇	二、三六六、三六六	一〇、〇〇〇
黃海道金融組合聯合會	三七	一七、三五六	一六,〇〇〇	五九,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一、二九七、一〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇
平安南道金融組合聯合會	三三	一五、〇〇〇	一六,〇〇〇	五五、〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一、一七七、八六八	二、〇〇〇、〇〇〇	三六六、八六八
平安北道金融組合聯合會	三三	一六、〇〇〇	一六,〇〇〇	五五、〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一、一七七、八六八	二、〇〇〇、〇〇〇	三六六、八六八
江原道金融組合聯合會	三三	一五、一〇〇	一八,〇〇〇	七四、〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一、三〇八、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	三六六、八六八
咸鏡南道金融組合聯合會	三三	一三、五〇〇	八、八〇五	四三、九九五	一〇〇,〇〇〇	一、〇七九、七六八	一、五八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇
咸鏡北道金融組合聯合會	三三	一〇、五三三	八、五〇〇	三三、一六八	一〇〇,〇〇〇	一、〇七九、七六八	一、五八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇
總計	四六三	二五、七九三	二五、六九〇	七、六三〇、〇七四	二、〇〇〇、〇〇〇	二、一三三、八三三	三、八六三、六三四	一、八三三、三三三
大正十一年度末	四六三	二〇、〇五六	一四九、八六六	六、三三三、八五〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、一三三、八三三	三、八六三、六三四	二、〇〇〇、〇〇〇
同十年度末	四四〇	一五、八三〇	五八、五二二	四、三三三、五九一	一、九〇〇、〇〇〇	一、六九六、八五九	三、三三三、五五六	一、〇八六、五五六
同九年度末	四〇一	一一、〇六九	三九、一六六	一、五三三、六〇六	一、六三三、〇〇〇	一、五三三、六〇六	一、八三三、七六八	三、〇七五、五五五
同八年度末	三三三	六、七八〇	一	八九一、三五六	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、三三三、三三三	三、〇七五、五五五

備考 一、預り金には職員身元保證金を含まず

□高山分布□

南部朝鮮	中部朝鮮	北部朝鮮	米以上 二五〇〇	三	米以上 二〇〇〇	六一	米以上 一五〇〇	一五	六
------	------	------	-------------	---	-------------	----	-------------	----	---

第八章 專賣

第一節 煙草

煙草は朝鮮に於て從來重要なる財源たりしも課税の形式に據るときは其の負擔の公平並收入の確實を期するを得ざるを以て大正十年七月以來從來の消費税を廢止して專賣制度を實施し且民情其の他に鑑みて當分の内荒刻煙草の民營を認めたる外自家用煙草の耕作を認許し又急激なる嗜好の變化を避くる爲特に全葉喫用として葉煙草の拂下を爲せり又耕作上の改善に關しては支局及出張所に技術員を配置して指導に任せしめ煙草耕作組合に對しては一定の標準の下に政府より交付金を下付して組合に指導員を置かしめ政府の施設と相俟て其の指導獎勵等に當らしめつゝあり

煙草耕作人員、面積葉煙草數量及賠償價格 大正十一年度



道名	耕作人員	耕作面積	葉煙草數量	一段歩當數量	賠償價格	賠償價格
京畿道	五、六二八	七、六二〇	六、四九一	八・一	七、三三三	一、二〇九
忠清北道	八、六九三	一、八九七	四、三六六	三・四	七、四二二	一、六五九
忠清南道	八、八	六、七二	一、〇四	一・四	一、三〇三	一、一〇四
全羅北道	一〇、一四四	七、四九二	一〇、五七四	一四・二	一、三〇六・〇九	一、一〇四
全羅南道	一、六四一	一、五三〇	二、九八六	二・六	六、八八三	一、一〇〇
慶尙北道	六、一三三	九、〇五二	一〇、九五六	三・二	三、〇七・一四	一、七九七
慶尙南道	五、六七九	六、九一三	一、一〇〇	四・七	三、一〇・八二	一、八九〇
黃海道	七、二四	五、五一一	一、八八九	三・八	一、九、七三・二九	一、三四四
平安南道	四、六九八	四、〇三四	一〇、五六六	三・〇	一、三、三六・一一	一、三〇三
江原道	四、三九〇	一、五三三	三、六、五九六	一・一	三、七、〇七・八六	一、〇五九
咸鏡南道	八〇二	五、九一六	一〇、七三九	一・三	一〇、一三・五六	九、四五
計	五九、三六八	七、三、〇〇〇	一、四、一、七、六三	一九、四〇七	二、一、四、九、七六・〇二	一、四九二

更に之を煙草の種類別に區分すれば左の如し

種類別煙草耕作人員面積、葉煙草數量及賠償價格 大正十一年度

種類	耕作人員	耕作面積	葉煙草數量	一段歩當	賠償價格	賠償價格
朝鮮種	五、〇三二	四、九〇・四	八、四、二七六	二六、六二七	九、五、〇九六・九	一、二四四
内地種	二、八六八	一、三〇・〇	三、三、五三三	三、三六二	六、五、五六六・五	一、九〇九
黄色種	一、八七	九、五・一	三、三、九〇〇	三、九、五〇五	五、四、〇八一・五	一、九七九
土耳其種	三二	九・三	九、七	一〇、四八四	二、三、三三・三	三、三八九
計	五九、三六八	七、三、〇〇〇	一、四、一、七、六三	一九、四〇七	二、一、四、九、七六・〇二	一、四九二

製造 專賣局に於ける煙草の製造は大正十年七月一日煙草專賣令實施と同時に民間煙草製造業者の製造工場、器具機械、原料及材料、民間印刷業者の印刷工場器具機械を徵收又は買収し且工場所屬職工の大部分をも採用し製品は口付紙卷煙草四種兩切紙卷煙草五種刻煙草三種計十二種とし同年七月二日より作業を開始せり

工場 煙草製造工場は京城所在東亞煙草株式會社工場、東西商會工場、朝鮮煙草株式會社工場、全州、大邱、及平壤所在東亞煙草株式會社分工場を徵收して之を專賣支局工場に充當したるものにして民間工場中其の設備の最も完全なるものなりしも而も尙ほ狹隘にして且不備の點多く衛生及管理上遺憾の點尠なからざりしを以



に對する向上心を誘致し併て所得増加に資せり  
 如斯職工の待遇に關しては常に深甚の注意を拂ひ適切の施設を爲せるも更に進て地  
 位向上の途を開き保護救済の施設を爲すの要あるを以て或は優秀なる職工を抜擢し  
 て工師に昇進せしめ又大正十一年三月よりは相互救済を目的とする現業員共済組合  
 を組織して之に政府より職工給料工賃總額の千分の二十を補給し組合員より毎月日  
 給又は工賃の一日分を掛金せしめ事由に應じ殉職金、傷痍金、療養金、産婦金、疾  
 病金、特症金、死亡金、脱退金、勤續金を組合員に給付せり尙本組合の外各支局に  
 於て日常必需品の共同購買、貯金の奨励、職工家族の診療等を行はしめつゝあり  
 今工場別に位置坪數及職工數を示せば左の如し

工場名	位 置	坪 數		備 考
		十年九月末 現在	十二年三月 現在	
大和町印刷工場	京畿道京城府大和町	四八三	四八七	
京城支局	京畿道京城府仁義洞	三、三六五	三、五五五	
京城支局	京畿道京城府義洞	九一七	一、三九九	
京城支局	京畿道京城府義州洞		一、二八八	
京城支局	京畿道京城府義州洞		一、四〇七	
計		四、七〇二	五、〇三六	

新工場竣工の曉  
 は一、三九〇坪  
 に増加の見込

工場名	位 置	坪 數		備 考
		十年九月末 現在	十二年三月 現在	
京城支局	京畿道京城府太平通	五五八	五五八	
太平通工場	京畿道京城府太平通	五五二	六二二	
全州支局工場	全羅北道全州面全州郡高砂町	一	三六	
同 工場分工場	全羅北道全州面全州郡相生町	六三〇	六三〇	
大邱支局工場	慶尙北道大邱府東雲町	五九六	六四六	
平壤支局工場	平安南道平壤府慶上里	六、〇一九	六、九九五	
計		一、七三六	二、〇七六	

備 考 坪數には作業場の外休憩室、醫務室、物置場、便所、廊下等を含む

四 製品 製品は當初口付紙巻煙草數島、朝日、松風、白露、兩切紙巻煙草「カイ  
 ダ」「ビジョン」「ピオニー」「メロン」「メーブル」刻煙草さつき、あやめ、はぎ合  
 計十二種とせるも其の後一般の嗜好及經濟界の變動等の事情を參酌し兩切紙巻煙草  
 「GGC」「マコー」「フィニックス」荒刻煙草長壽煙、蘭煙計五種を増加せり長壽  
 煙、蘭煙は價格廉なると一般の嗜好に投せる爲め賣行最旺盛にして製造に忙殺さる  
 ゝの状況に在り

煙草專賣制度實施の結果政府に於て販賣する製造煙草の小賣定價を掲ぐれば左の如し

種類及名稱	包		小賣定價
	數	量	
口付	白松朝敷	二〇本入	十五錢
兩切	カ	一〇本入	四十錢
	ジ	一〇本入	十五錢
	イ	一〇本入	十五錢
	オ	一〇本入	十五錢
	ジ	一〇本入	十五錢
	イ	一〇本入	十五錢
	ニ	一〇本入	十五錢
	コ	一〇本入	十五錢
	ロ	一〇本入	十五錢
	ニ	一〇本入	十五錢
ヨ	一〇本入	十五錢	
メ	一〇本入	十五錢	
マ	一〇本入	十五錢	
フ	一〇本入	十五錢	
メ	一〇本入	十五錢	
ノ	一〇本入	十五錢	
サ	一〇本入	十五錢	
あ	一〇本入	十五錢	
さ	一〇本入	十五錢	
島	二〇本入	十五錢	
日	二〇本入	十二錢	
風	二〇本入	九錢	
露	二〇本入	八錢	
ダ	一〇本入	四十錢	
ン	一〇本入	十五錢	
ン	一〇本入	十五錢	
ス	一〇本入	十五錢	
ル	一〇本入	十五錢	
キ	一〇本入	十五錢	
め	一〇本入	十五錢	
は	一〇本入	十五錢	
長	一〇本入	十五錢	
割	一〇本入	十五錢	

刻	四〇本入	四十五錢
は	二五本入	十五錢
長	一五本入	十錢
割	二五本入	十五錢
煙	一〇本入	十五錢
煙	一〇本入	十五錢
ぎ	一〇本入	十五錢

刻煙草の上級品は内地より移入して内地同様の小賣定價にて供給し葉卷煙草及兩切煙草の上級品は夫々原産地より輸入して供給することとし總て專賣局の製造煙草は販賣官署に依り煙草元賣捌人、煙草小賣人等の機關を設けて販賣することとせり

一 煙草販賣官署 煙草販賣官署は煙草元賣捌人に對し煙草の賣渡を爲す官署にして左の如し

- 京城專賣支局、春川派出所、原州派出所、鐵原派出所
- 開城出張所
- 仁川出張所、海州派出所
- 清州出張所
- 忠州出張所、
- 元山出張所、北青派出所、惠山鎮派出所、城津派出所

清津出張所、會寧派出所  
全州專賣支局、裨里派出所、井邑派出所  
大田出張所、禮山出張所  
光州出張所  
木浦出張所  
大邱專賣支局、浦項派出所  
安東出張所  
密陽出張所  
金泉出張所  
釜山出張所  
統營出張所、麗水派出所  
平壤專賣支局、沙里院派出所、南川派出所、新安州派出所、定州派出所、江界派出  
所、中江鎮派出所  
成川出張所

鎮南浦出張所、長淵派出所  
新義州派出所、私倉浦派出所、楚山派出所  
即ち支局四、出張所十七、派出所二十二とす各支局は管内出張所及支局直轄派出所の  
指揮監督を爲すと共に支局直轄の區域にある元賣捌人に對し出張所及派出所と同様現  
品の賣渡を爲すものとす  
二 煙草元賣捌人 煙草元賣捌人は政府の指定に屬し其の所在地を管轄する煙草販  
賣官署より煙草を買受け之を煙草小賣人に賣渡すものにして會社組織のもの十五、  
組合組織のもの三十三、個人六、計五十四其の營業所總數三百六十九個所とす  
三 煙草小賣人 煙草小賣人は元賣捌人と同じく政府の指定に屬し煙草元賣捌人よ  
り煙草を買受け之を需要者に賣渡すものとす專賣令實施の當時舊煙草稅令に依り煙  
草販賣者たりし者は總て新令に依りて小賣人と見做され其の概數五萬を算したるも  
實際に於ては廢業者休業者、所在不明者あり又其の配置は概ね不完全にして市街地  
の如き薄資の小賣人軒を接するものあるに反し地方に依りては必要の場所に小賣店  
の皆無なるものあり分布狀況甚だ不平均なりしを以て新規定に當りては最も此點を

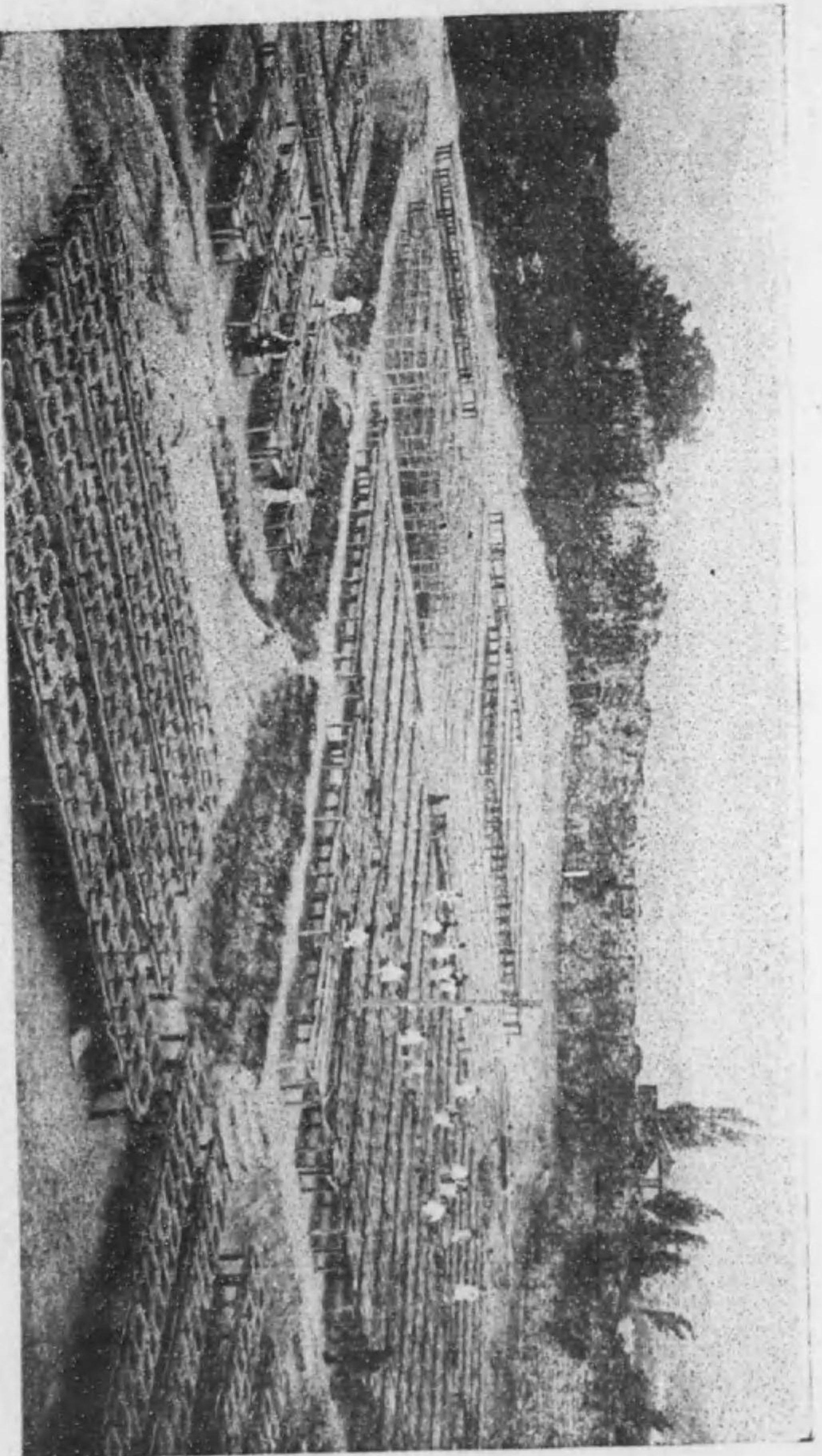
攻究して一面廢業休業等に對しては成規の廢業届を爲さしめ漸を追て整理を行ひつゝありしも是亦姑息の手段にして到底根本的に整理の實を擧ぐる能はざるを認め十一月に於ては全鮮に互りて小賣人の根本調査を行ひ將來に於ける整理の方針を決定すると共に必要と認むる場合には小賣人の配置を行ふ計畫を樹て年度の初既より全鮮一齊に調査を開始し其の大部分は之を終了せり各販賣官署管下に於ける小賣人の員數左の如し

官署名	小賣人員	官署名	小賣人員
京城專賣支局直轄	四、八六六	大邱專賣支局直轄	一、三三七
春川	四、八六六	浦項	五、五七
原州	三、〇〇〇	安東	八、六六
鐵原	九、六六	密陽	八、六六
開城	五、八六	金泉	一、九〇〇
仁川	七、三三	釜山	一、一三〇

官署名	小賣人員	官署名	小賣人員
海州	六、二	統營	一、七五
忠州	八、六	水原	九、三三八
元州	五、九〇	平壤	二、〇〇〇
北山	一、八六三	沙里院	一、〇〇〇
北山	三、五八	南川	七、八
城津	一、五	新安州	七、八
清津	三、三三	定州	七、八
會津	八、三三	江界	一、三
計	三、〇八	中江	一、三
全州	三、三三六	成川	一、三
全里	八、九〇	鎭南	一、三
井里	一、〇八二	長湍	一、三
大田	五、九	新義州	一、三
禮山	一、九六	私山	一、三
光州	一、〇〇	楚山	一、三
木浦	一、二二	合計	四〇、〇四〇
計	二、三三六		
	八、八〇九		

四 ●●●●●●●●●●  
 製造煙草販賣高 大正十一年四月より大正十二年三月に至る一箇年間の鮮内製  
 造煙草販賣高を示せば左の如し

口 付	區 別	數 量	金 額	區 別		
				切	刻	計合總
歌島	歌島	三〇、二九五	一、三四四、四六八	ツフ	九〇、六四八	三三四、六三三
朝日	朝日	七四、八六九	三、七三三、六五五	クイ	八七九、六二一	三、四七五、〇三三
松風	松風	五三、〇八六	三、一九九、四八八	ニ	三、一六九、九四三	九、三三三、五四四
白霧	白霧	三、七八〇	一一、八一一	計	一三、九八四	三三、三三三
計	計	一、四七六、九〇〇	七、〇〇七、三三三	さつき	九、九七一	二五、八九六
ジージー	ジージー	一〇二	六、六四二	あやめ	一九三	三、〇八三
カイダ	カイダ	二九、三五三	三、七四四、四九一	はぎ	八五、三六〇	二九三、八七七
ピジョン	ピジョン	三三、四八六	一、九七〇、六〇〇	計	一〇八、四七二	六五三、〇七七
ピオニー	ピオニー	九四	六、三三六	煙		
ノロン	ノロン	一四、三一九	六、〇、九六八			
マコ	マコ	九三、三三〇	三、五〇〇、五九六			
						一七、〇六七、二九四



煙乾參人の所張出城開局支賣專城京

尙本表の外に輸入煙草各種十萬一千九十五圓、移入刻煙草九萬六千九百二十四圓、葉煙草五十三萬三十一圓の販賣あり

## 第二節 人 蔘

人蔘は朝鮮到る所多少産せざるなきも古來高麗人蔘と稱し世に珍重せらるゝは主として京畿道開城附近に産するものに限り故に同地方は古來人蔘の栽培盛に行はれ従て耕作法も亦大に進歩せり人蔘栽培の最も盛なりしは明治三十五年の頃にして官私蔘を合せて十萬斤以上の收穫を得しことありしも十數年前より赤病と稱する病毒蔓延し漸く蔘葉衰頹の徴を顯はせしより明治四十一年蔘政事務を度支部所管に移し尋て紅蔘專買法を施行して以來蔘政の改善を圖ると與に極力蔘病の防遏に努め一面諸種の獎勵、資金融通の途を講ずる等蔘業の興復を圖りし結果近來其の發達復大に見るべきものあるに至れり大正十一年度に於ける掘採坪數、收納水蔘斤數、及紅蔘製造高は左の如し

人 蔘 收 穫



年	採 採 採 採	採 採 採 採	採 採 採 採
大正十一年度	四七、三九〇	一三、〇〇〇	四、五七二

政府の專賣に係る紅蔘原料産地以外に於ても相當の人蔘産額あり大正十一年に於ける蔘圃坪數二二九、八七九坪收穫水蔘二八、四一一斤に達せり  
 人蔘は一般作物と異り播種後五、六年を経るに非ざれば收穫すること能はず其の製法に依り紅蔘、白蔘の二種となれり紅蔘は水蔘(生蔘)を蒸して日光及火熱に依り乾燥せしめ白蔘は水蔘を單に日光に乾かして製す前者は價貴く後者は廉にして兩者共形體の大なるを尙ふ紅蔘は専ら支那に輸出するものにして同國に於ては古來上下共に人蔘を愛用し萬能の靈藥として愛用せられ富豪大官の間に贈答せられ之を激賞すること内地、米國産等の産物の遙に及ぶ所にあらず試に支那に於て消費する各國産人蔘の數量價格の概要を擧ぐれば左の如し

産 地	通 稱	數	量	平均一斤小賣價格
日 本	花旗蔘	一〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇斤	二〇円
日 本	東洋蔘	一〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇斤	八円
日 本	東洋蔘	一〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇斤	八円
日 本	東洋蔘	一〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇斤	八円

### 第三節 鹽

鹽は專賣にあらざるも朝鮮に於ける天日製鹽は原則として專賣局に於て經營するを以て便宜之を本章に掲載せり

古來朝鮮に於て消費する鹽は専ら朝鮮沿海各地にて製造する煎熬鹽を以て之に充當し來たりたるも其の製造方法甚だ幼稚にして燃料勞力を要すること夥しく隨て生産費の高價なるを免れざるを以て明治三十五年より漸次安價なる支那天日鹽の輸入を誘致し逐年其の數量を増加するに至り政府は明治四十年慶尙南道龍湖に於て在來鹽の改善を考究すると同時に京畿道朱安に於て天日製鹽の試験を行ひたるに其の結果良好にして品質亦内地鹽の一、二等品に匹敵し支那輸入鹽及在來煎熬鹽等に比し遙に優良にして生産費等に於ても優に對抗し得るを認め朝鮮に於ける正貨の流出を防止し政府の財

源に資すると同時に國民生活の必須品たる鹽の自作自給を圖る目的を以て第一期事業として平安南道廣梁灣に七百七十四町歩、京畿道朱安に八十八町歩の天日製鹽を築造し明治四十二年に起工して大正元年竣工し更に大正六年第二期事業計畫を樹て朱安に百二十四町歩、平安南道徳洞に二百二十三町歩を築造し尙前記鹽田の良好なる實績に鑑みて第三期事業計畫とし大正九年以降九箇年繼續を以て二千六百町歩の鹽田擴張に着手し既に京畿道南村に三百町歩、平安南道龍岡に百四十九町歩を竣成し京畿道南村及平安北道南市に於ても亦目下擴張中なるを以て第三期計畫完成の曉は既成鹽田と合して四千町歩となり其の生産額は在來煎熬鹽と併せ略朝鮮内食料鹽の需要を充すを得べし最近三箇年の鹽輸入高、官鹽生産高及大正十一年八月下旬に仁川に於ける鹽價は左の如し

年 別	内地鹽	關東州鹽	青島鹽	支那鹽	其他鹽	合 計
大正九年	八六、八三〇斤	三、〇八六、〇五五斤	三〇、〇四九、六三五斤	八六、八〇〇、八八九斤	一四、八七五、三三九斤	一、三四、六五二斤
大正十年	八、〇二六斤	三三、〇四七斤	三、四八、一八五斤	七五、〇〇三斤	一、三四、六五二斤	一、三四、六五二斤
大正十一年	一、七三六斤	一七、八五、六一斤	六、五九八、四三一斤	九九、六五、九六六斤	一、三四、六五二斤	一、三四、六五二斤
大正十一年	一、七三六斤	一七、八五、六一斤	六、五九八、四三一斤	九九、六五、九六六斤	一、三四、六五二斤	一、三四、六五二斤

年 度	廣 梁 灣	朱 安	計
大正九年	八六、八三〇斤	三〇、〇四九、六三五斤	一四、八七五、三三九斤
大正十年	八、〇二六斤	三、四八、一八五斤	一、三四、六五二斤
大正十一年	一、七三六斤	六、五九八、四三一斤	一、三四、六五二斤

官鹽生産高

年 度	廣 梁 灣	朱 安	計
大正九年	八六、八三〇斤	三〇、〇四九、六三五斤	一四、八七五、三三九斤
大正十年	八、〇二六斤	三、四八、一八五斤	一、三四、六五二斤
大正十一年	一、七三六斤	六、五九八、四三一斤	一、三四、六五二斤

種 別 仁川に於ける鹽價 (百斤當)  
官鹽 一二等鹽 價 格 一、三〇〇

支那鹽	一、四〇〇
在來煎熬鹽	二、三〇〇
再製鹽	二、五〇〇

支那鹽	一、四〇〇
在來煎熬鹽	二、三〇〇
再製鹽	二、五〇〇

## 第九章 農業

### 第一節 土地

朝鮮は各地農業に適せざるはなく殊に南部地方は氣候溫暖にして農作物の發育最も佳良なり冬季は寒氣稍強きも麥類の如き冬作物の枯死するに至らず四月以降は氣温上騰して其の生育に好適し且空氣乾燥せるを以て收穫物の品質良好なり但だ夏作物中水稻の如きは氣候の關係上生育良好なるべきに拘らず從來用水の完備せざるを以て屢早害を被ることなきにあらず然ども近來灌漑の設備年々發達して漸次其の度を減じつゝあるのみならず産米増殖の目的を以て大正九年度より約十五箇年に亘り土地改良事業施行の計畫を立てしを以て其の完成の曉には地目變換に依り十二萬町歩開墾干拓に依り九萬町歩の良畜を得之と同時に天水番二十二萬町歩に對し充分の灌漑水を供給し得べく朝鮮農業の前途は是より益々多望ならんとす最近統計に依る耕地面積を掲ぐれば左の如し

耕地面積

大正十二年十二月

道名	畝			田	計	土地臺帳未登録の耕地		
	一毛作	二毛作	計			畝	田	火田
京畿道	一、四〇、五五〇・四	一、六四、〇〇〇・六	一、六六、三〇九・〇	一、八四、〇九四・五	三、八〇、三〇三・九	一、七六〇・四	〇、五五九・四	七、六三・三
忠清北道	五、三三・四	一、三三、七八八	六、九、五一〇・二	八、八、二九七・七	一、五七、七三〇・九	八三・五	四、五三・八	七、五・六
忠清南道	三、七、〇〇六・九	三、四、〇〇四・二	七、一、〇一〇・一	九、九、〇〇〇・〇	一、四〇、三七八・三	三、五三・三	三、五三・一	三〇、二・六
全羅北道	一、四、二、〇六・一	三、三、一〇一・八	四、七、三〇七・九	六、〇、六〇九・七	一〇、三、九一七・六	三、九一・七	三、八八・六	一、九四・三
全羅南道	一、五三、四四一・五	四、九、八七三・二	六、五、三一四・七	七、〇、一八八・〇	一三、五、四九二・七	六、七六・九	九、七五・〇	七、八六・五
慶尙北道	一、〇、一、四一〇・〇	七、七、四〇〇・六	八、七、五一〇・六	一〇、〇、〇二〇・二	一八、七、五三〇・八	三、七三・三	三、七三・三	三、九・一
慶尙南道	一〇一、一、二二二・七	一、〇、一、〇三三・〇	一〇二、一、二五五・七	一〇三、一、二八八・七	二〇三、一、五四三・七	一、八六・五	一、九三・三	三、九・五
黃海道	一、三、一、四八六・二	一、〇、三、〇一五・五	二、三、五〇一・七	三、三、八〇〇・三	五、七、三〇二・〇	六、九〇・四	四、三三・二	五、六四四・三

道名	自			作			小			作		
	合	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
平安南道	六、四、四三二・六	一	六、四、四三二・六	六、四、四三二・六	一	六、四、四三二・六	六、四、四三二・六	一	六、四、四三二・六	一	六、四、四三二・六	一
平安北道	七、七、七三三・二	一	七、七、七三三・二	七、七、七三三・二	一	七、七、七三三・二	七、七、七三三・二	一	七、七、七三三・二	一	七、七、七三三・二	一
江原道	七、七、七三三・二	一	七、七、七三三・二	七、七、七三三・二	一	七、七、七三三・二	七、七、七三三・二	一	七、七、七三三・二	一	七、七、七三三・二	一
咸鏡南道	四、三、六四九・九	一	四、三、六四九・九	四、三、六四九・九	一	四、三、六四九・九	四、三、六四九・九	一	四、三、六四九・九	一	四、三、六四九・九	一
咸鏡北道	八、一、一〇七・七	一	八、一、一〇七・七	八、一、一〇七・七	一	八、一、一〇七・七	八、一、一〇七・七	一	八、一、一〇七・七	一	八、一、一〇七・七	一
合計	一、三、三、七七一・三	一	一、三、三、七七一・三	一、三、三、七七一・三	一	一、三、三、七七一・三	一、三、三、七七一・三	一	一、三、三、七七一・三	一	一、三、三、七七一・三	一

備考 本表中X印は休閑又は當該年度に於て耕作せざるもの内書なり

道名	自			作			小			作		
	畝	田	計	畝	田	計	畝	田	計	畝	田	計
京畿道	五、三、三三三・四	六、四、一八五・八	一、一、七四九・二	一、四、〇六六・六	一、九、九〇八・七	三、四、〇七五・三	一、九、九〇八・七	一、九、九〇八・七	三、四、〇七五・三	一、九、九〇八・七	一、九、九〇八・七	三、四、〇七五・三
忠清北道	三、三、七三三・九	三、八、〇〇〇・五	七、一、七三四・四	四、七、七三三・九	五、三、七三三・九	一〇、一、四六七・八	四、七、七三三・九	五、三、七三三・九	一〇、一、四六七・八	四、七、七三三・九	五、三、七三三・九	一〇、一、四六七・八
忠清南道	四、六、〇四四・七	三、八、〇〇〇・五	八、四、〇四四・二	四、六、〇四四・七	三、八、〇〇〇・五	八、四、〇四四・二	四、六、〇四四・七	三、八、〇〇〇・五	八、四、〇四四・二	四、六、〇四四・七	三、八、〇〇〇・五	八、四、〇四四・二

道名	自作		小作	
	田	作	田	作
全羅北道	三三,三三〇町	三九,一六三町	一三,一八四町	三八,一六四町
全羅南道	八四,二八〇町	一三六,七八三町	一八,〇〇〇町	八〇,六八三町
慶尙北道	八四,一六四町	一〇三,七四九町	一〇四,四一四町	九六,八三三町
慶尙南道	五八,七五五町	五九,四四四町	一〇四,〇八一町	五九,七八〇町
黃海道	三九,一三三町	一三九,一三三町	三九,一三三町	三九,一三三町
平安南道	四一,四九六町	一四一,〇八〇町	四一,〇八〇町	一四一,〇八〇町
平安北道	三〇,五五五町	一六六,八八一町	三〇,五五五町	一六六,八八一町
江原道	四一,四九六町	一四一,〇八〇町	四一,〇八〇町	一四一,〇八〇町
咸鏡南道	四一,四九六町	一四一,〇八〇町	四一,〇八〇町	一四一,〇八〇町
咸鏡北道	四一,四九六町	一四一,〇八〇町	四一,〇八〇町	一四一,〇八〇町
總計	五五〇,八三三町	一,五七六,〇一〇町	五五〇,八三三町	一,五七六,〇一〇町
大正九年	五五〇,八三三町	一,五七六,〇一〇町	五五〇,八三三町	一,五七六,〇一〇町
大正十年	五五〇,八三三町	一,五七六,〇一〇町	五五〇,八三三町	一,五七六,〇一〇町

備考 土地臺帳未登録の耕地は自作、小作の區分を缺く

第二節 國有未墾地

未墾地は産業發の開と共に其の利用の有利なるを知る者多く田畝の開墾漸次増加しつゝあり

道名	未墾地面積		道名	
	國有	民有	國有	民有
京畿道	三,九一〇町	一,三〇〇町	五,三三〇町	三,〇〇〇町
忠清北道	四〇四町	四〇六町	八一〇町	二,八九七町
忠清南道	三,七三三町	二,四七七町	六,二一〇町	三,〇〇〇町
全羅北道	一,一五〇町	三,四七七町	四,六二七町	一,六三七町
全羅南道	二,〇二八町	三,三三六町	五,三六四町	九,八八九町
慶尙北道	一,七三六町	一,五三〇町	三,二六六町	三,二六六町
慶尙南道	三,一四六町	二,五〇〇町	五,六四六町	三,五九四町
總計	一四,六四八町	一四,六四八町	二九,二九六町	二九,二九六町

本表には山林原野の内山麓緩傾斜地の大部分及干潟地を包含せず

其の他山麓緩傾斜地の大部分並干潟は全く未墾に屬し其の面積の如き一箇所にして數百町歩に互れるものあり此等未墾地の中干潟の利用に對しては築堤水門等の設備に多少の費用を要すと雖田、畚は成功後地味概ね肥沃にして收益亦尠少なからざるが故に之が利用を出願する者漸次増加し著實なる事業家の投資を爲す者多きを加ふるに至れり左に國有未墾地の貸付したるもの並事業成功に由り付與(拂下をも含む)したるものを掲ぐ

國有未墾地貸付許可地種別

(大正十一年十二月末日現在) 本府及道合計

道名	原野		荒地		草地		沼澤地		干潟		計
	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	
京畿道	19	1,031.00	177	3,326.70	121	3,696.52	128	9,667.66	46	4,303.50	511
忠清北道	11	1,014.00	11	222.00	27	1,814.18	1	—	1	—	50
忠清南道	3	30.00	6	83.50	13	612.00	6	6,194.95	3	27.00	35
全羅北道	6	111.14	9	1,181.20	8	612.91	3	6,976.63	5	10,503.51	27
全羅南道	1	14.00	1	14.00	2	50.00	2	6,119.20	3	1,147.00	9
總計	40	1,200.14	207	5,487.40	171	6,171.41	140	22,965.44	68	15,970.01	526

道名	原野		荒地		草地		沼澤地		干潟		計
	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	
慶尙北道	5	336.90	17	966.91	10	1,911.15	1	—	1	—	33
慶尙南道	3	111.30	1	26.00	4	1,000.00	1	—	1	—	9
黃海道	1	11.20	1	1,300.00	8	4,000.00	4	4,000.00	8	3,600.00	22
平安北道	1	1,031.20	6	6,600.00	3	3,800.00	3	3,800.00	9	9,000.00	22
平安南道	1	1,031.20	6	6,600.00	3	3,800.00	3	3,800.00	9	9,000.00	22
江原道	3	30.00	6	83.50	13	612.00	6	6,194.95	3	27.00	35
咸鏡南道	3	30.00	6	83.50	13	612.00	6	6,194.95	3	27.00	35
咸鏡北道	3	30.00	6	83.50	13	612.00	6	6,194.95	3	27.00	35
總計	21	1,500.10	50	15,000.00	50	15,000.00	50	15,000.00	50	15,000.00	210

國有未墾地貸付許可地種別

(年別道及本府合計)

年度別	原野		荒地		草地		沼澤地		干潟		計
	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	件數	面積	
大正四年度	4	84.00	15	796.00	10	1,911.15	1	—	1	—	30
同五年度	10	900.00	10	900.00	10	1,000.00	1	—	1	—	31
同六年度	13	996.00	10	900.00	13	612.00	6	6,194.95	9	9,000.00	41
同七年度	10	1,200.14	72	14,301.40	58	6,171.41	140	22,965.44	68	15,970.01	248

道名	原野		荒蕪地		草生地		沼澤地		干潟		計
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	
同八年度	二二六	一、三三〇	五五六	三、〇〇〇	一、六二五	一、八七五	七〇〇	一、八七五	六〇〇	六、〇〇〇	五、二七五
同九年度	二九七	一、三七〇	九九四	三、八〇四	三、九三三	三、九三三	一、三三三	一、八七五	三、三三三	六、〇〇〇	一〇、八七五
同十年度	四九三	一、五三四	九四三	三、〇九〇	四、九一六	三、六〇〇	一、七二	三、三三三	一〇、八六六	九、〇〇〇	一五、〇〇〇
同十一年度											

國有未墾地付與又は拂下

(大正十年十二月末日現在) 本府及道合計

道名	畝		田		植樹		其他		計
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	
京畿道	五二八	一、五三四	三三七	九、六三八	二二	三、九〇〇	八八	六、三三八	九〇〇
忠清北道	一三六	六、九三三	一三三	三、九〇〇	三	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
忠清南道	一六三	二、四三三	八九	一、九六六	三	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
全羅北道	一七八	四、〇三三	一〇〇	一、九六六	八	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
全羅南道	一一一	五、四三三	八六	一、九六六	一一	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇

慶尙北道	八七	六、九三三	一〇三	三、九〇〇	三	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
慶尙南道	八五	五、七三三	六二	三、九〇〇	二	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
黃海道	一八七	五、〇〇〇	三三	三、九〇〇	七	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
平安南道	三六	四、〇三三	三三	三、九〇〇	一	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
平安北道	二四六	五、九三三	三三	三、九〇〇	一	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
江原道	四〇	三、一三三	三〇	三、九〇〇	七	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
咸鏡南道	三二	三、一三三	三〇	三、九〇〇	二	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
咸鏡北道	五	一、六六六	三六	三、九〇〇	一	三、九〇〇	三	一、一六六	二、八〇〇
總計	一、七二四	五、二九六	一、三九六	三、三六六	一、五三	七、六三三	三三	四、六三三	一〇、一〇一

國有未墾地貸付與又は拂下

(年別道及本府合計)

年度別	畝		田		植樹		其他		計
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	
大正四年度	一四〇	一、三三三	一三三	三、九〇〇	九	三、九〇〇	四	一、一六六	三、三三三
同五年度	三六	一、三〇八	三三	三、九〇〇	一五	三、九〇〇	四	一、一六六	三、三三三
同六年度	三六	一、三三三	三三	三、九〇〇	一五	三、九〇〇	四	一、一六六	三、三三三

年度別	畓		田		植樹		其の他		計
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	
同 七年度	五〇四	二、三三〇	四三九	一、〇九〇	三六	四〇四	二〇	一、〇四九	四、八〇三
同 八年度	六〇六	二、八二〇	五〇〇	一、一三三	四九	四四四	一五	一、三七四	六、一五九
同 九年度	八三三	三、三二〇	七二四	二、三九六	七二	九九五	二九	一、七五八	六、九〇三
同 十年度	一、一五六	四、〇四九	九二二	二、六八〇	一四	五九八	二〇	二、一〇〇	七、五五九
同 十一年度									
同 十二年度									

國有未墾地利用法は未墾地の利用を奨励する趣旨を以て制定せられたるものにして（明治四十年發布大正三年一部改正）未墾地の貸付を受けむとする者は面積十町歩を越ゆるものにおいて願書を直接朝鮮總督に提出し同時に其の副本を管轄地方長官に提出して許可を受くべく十町歩を超えざるものにおいて願書を直接管轄地方長官に提出して許可を受くべし貸付期間は最長十箇年にして公共の利益となるべき事業に供するもの又は農民若は漁民の宅地に供するものは事業成功後付與せらるべく開墾、牧畜植樹等の事業に供するものは特別の事由ある場合を除くの外は付與せられ其の他の

（漁場、鹽田の類）利用に付ては拂下を受くるものとする其の貸付料は一町歩年額五十錢とし特別の事由ある場合は之を減免す

國庫補助を受くる未墾地開墾事業  
未墾地利用法に依り開墾の目的を以て貸付を受けたるものにして大正九年府令第一九七號土地改良補助規則に依る國庫補助を受け工事施行中のもの三十八件未墾地面積二萬八千二百二十四町歩豫定實耕面積一萬七千五百六十四町歩既往支出濟工事費概算七百六十四萬八千二百八圓國庫補助額百四十六萬七千三百五圓にして其の重なるもの、概況を示せば左の如し

品分	所在 地	事業の種類	未墾地面積	豫定實耕面積	企業者	
					株式會社	興業社
	平安北道龍川郡	干潟、干拓、草生	五、〇〇〇	四、〇〇〇	株式會社	興業社
	黃海道寬津郡	干潟、干拓	四、〇〇〇	四、〇〇〇	株式會社	興業社
	黃海道海州郡	干潟、干拓	六、〇〇〇	六、〇〇〇	株式會社	興業社
	全羅北道沃溝郡	干潟、干拓	一、八〇〇	一、八〇〇	株式會社	興業社
	全羅南道靈光郡	干潟、干拓	三、〇〇〇	三、〇〇〇	株式會社	興業社



品分	企業者	
	株式會社	株式會社
起工年	大正三年	大正九年
竣工年	大正十七年	大正十七年
總工事費	一、八七、四六六円	一、三三、八四七円
支出工事費	一、三九、四四四円	八四、四三三円
國庫補助交付額	四、三三三円	三、八、三五五円
工事概況	三千二百町歩の開墾完成、防湖堤、中區城防湖堤、施工	防湖堤、開門貯水池、開墾、防湖堤、約九分通完
	大正十五年	大正十七年
	九、四九、五三三円	一、三三、八四七円
	三、三、三、三三三円	八、四、四、三三三円
	八、八、三、三三三円	三、八、七、三五五円
	大正十一年	大正十三年
	四、九、八、八八八円	四、九、八、八八八円
	三、三、三、三三三円	三、三、三、三三三円
	防湖堤、開門貯水池、開墾、防湖堤、約九分通完	防湖堤、開門貯水池、開墾、防湖堤、約九分通完
	大正十一年	大正十三年
	四、九、八、八八八円	四、九、八、八八八円
	三、三、三、三三三円	三、三、三、三三三円
	防湖堤、開門貯水池、開墾、防湖堤、約九分通完	防湖堤、開門貯水池、開墾、防湖堤、約九分通完

第三節 農業者

朝鮮に於ける耕地は大地主の所有に係るもの多く此等の大地主は多く都會に住居し土地所在地に代理人を置いて小作地を管理し小作料を徴収するを普通となす小作料徴収の方法は概ね(一)秋收期検見を行ひ生産額の二分の一乃至三分の一を標準として小作料を定むるもの(二)收穫に際し其の收穫物を折半し其の一を小作料と爲すもの(三)年

の豊凶に拘らず一定の小作料を定め置くもの、三種とす而して地主小作人間は年限小作料其の他に關して概ね成文の契約なく口約を以て之を定む

地方別農業者表

大正十一年十二月

道名	内地		朝鮮		支那	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
京畿道	一、六、七、七戸	六、六、四、〇人	一、〇、〇、三、七戸	一、七、一、三、三	三、五、五戸	九、四、八人
忠清北道	一、五、一、一戸	五、三、六、九	一、三、三、六九	六、三、三、六	一、三、一、一	三、一、一
忠清南道	八、八、六戸	三、一、三、三	一、八、三、八三	一、九、五、一三	一、一、一、一	一、一、一
全羅北道	一、四、三、八戸	五、五、二、四	一、〇、三、七五	一、〇、三、七五	一、一、一、一	一、一、一
全羅南道	一、六、九、一戸	六、八、〇、四	一、三、六、八二	一、三、六、八二	一、一、一、一	一、一、一
慶尙北道	一、一、五、三戸	四、八、一、六	一、三、八、六八	一、三、八、六八	一、一、一、一	一、一、一
慶尙南道	二、一、〇、九戸	八、八、三、四	一、七、五、三三	一、七、五、三三	一、一、一、一	一、一、一
黃海道	五、七、七戸	三、三、八、一	一、七、五、三三	一、七、五、三三	一、一、一、一	一、一、一
平安南道	二、七、八戸	一、〇、〇、〇	一、三、八、六八	一、三、八、六八	一、一、一、一	一、一、一
平安北道	三、三、三戸	一、三、三、三	一、三、八、六八	一、三、八、六八	一、一、一、一	一、一、一

道名	内地人		朝鮮人		支那人	
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
江原道	1,049,533戸	1,049,533人	1,049,533戸	1,049,533人	1,049,533戸	1,049,533人
咸鏡南道	1,014,290戸	1,014,290人	1,014,290戸	1,014,290人	1,014,290戸	1,014,290人
咸鏡北道	1,014,290戸	1,014,290人	1,014,290戸	1,014,290人	1,014,290戸	1,014,290人
總計	10,101戸	10,101人	10,101戸	10,101人	10,101戸	10,101人

道名	其の他の外國人		合計	
	戸数	人口	戸数	人口
京畿道	1戸	1人	1戸	1人
忠清南道	1戸	1人	1戸	1人
忠清北道	1戸	1人	1戸	1人
全羅南道	1戸	1人	1戸	1人
全羅北道	1戸	1人	1戸	1人
慶尚南道	1戸	1人	1戸	1人
慶尚北道	1戸	1人	1戸	1人
總計	6戸	6人	6戸	6人

道名	専業農家戸数	兼業農家戸数	總計
黃海道	1,139,355	1,139,355	2,278,710
平安南道	1,009,810	1,009,810	2,019,620
平安北道	1,039,499	1,039,499	2,078,998
江原道	1,629,931	1,629,931	3,259,862
咸鏡南道	66,656	66,656	133,312
咸鏡北道	1,271,745	1,271,745	2,543,490
總計	6,167,006	6,167,006	12,334,012

農業者業態表

大正十一年十二月

道名	専業農家戸数		兼業農家戸数		總計
	戸数	人口	戸数	人口	
京畿道	102,633戸	102,633人	102,633戸	102,633人	205,266
忠清南道	111,963	111,963人	111,963戸	111,963人	223,926
忠清北道	149,851	149,851人	149,851戸	149,851人	299,702
全羅南道	129,002	129,002人	129,002戸	129,002人	258,004
全羅北道	149,851	149,851人	149,851戸	149,851人	299,702
總計	514,300戸	514,300人	514,300戸	514,300人	1,028,600

道名	専業兼業別農家戸數			
	専業	兼業	別業	計
忠清南道	四、五九六	一、六一八	九七、八五九	一〇三、四七三
全羅北道	二、四九五	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
全羅南道	一、九七三	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
慶尙北道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
慶尙南道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
黃海道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
平安南道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
平安北道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
江原道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
咸鏡南道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
咸鏡北道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
總計	二、三四五、三五五	九、一一五	四、七、二一〇	三、七、〇八〇

道名	地主、自作、小作、自作兼小作別農家戸數			
	地主(甲)	地主(乙)	自作	計
忠清北道	三、九七三	三、六六八	一、四、九九五	一三、〇、〇九六
京畿道	三、九七三	三、六六八	一、四、九九五	一三、〇、〇九六
總計	三、九七三	三、六六八	一、四、九九五	一三、〇、〇九六

道名	地主、自作、小作、自作兼小作別農家戸數			
	地主(甲)	地主(乙)	自作	計
忠清南道	四、五九六	一、六一八	九七、八五九	一〇三、四七三
全羅北道	二、四九五	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
全羅南道	一、九七三	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
慶尙北道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
慶尙南道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
黃海道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
平安南道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
平安北道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
江原道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
咸鏡南道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
咸鏡北道	一、三九四	一、〇〇〇	一三、六四一	一六、一三六
總計	二、三四五、三五五	九、一一五	四、七、二一〇	三、七、〇八〇

備考 地主甲とは其の所有する耕地を悉く小作せしめ自ら耕作せざる者地主乙とは所有耕地の大部分を他に小作せしめ一部分を自ら耕作する者を謂ふ

第四節 農産物

イ米 米は朝鮮の農業生産總額約十億八千萬圓中三億六千萬圓の巨額に達し各種農作物中最も主要なるものに屬せり  
然るに始政當時に於ては畝の荒廢甚だしくして反當の收量少く且品質劣等なりしを以て改良増殖を圖りし結果今日に於ては收量品質共に面目を一新し大正十一年に於ては一千五百一萬四千二百九十二石を産し其の輸出高三百二十一萬三千九百九十九石價額九千五百八十萬五千二百九十三圓に達し全部殆ど内地に移出せらる  
大豆 朝鮮大豆は品質收量共に優良にして各道到る處に栽培せられ殊に西北鮮の産品中には優良品を産し内地及滿洲種に比較すれば蛋白質に富めるを以て豆腐、味噌、醬油等の原料として貴ばる大正十一年中に於ける輸出額は百四十五萬三千六百六十八石其の價額二千二百二萬二千九百六十五圓に達し米と共に重要輸移出品に屬せり

ハ麥 麥は其の栽培面積畑作物中最も多く大麥小麥を主とし裸麥の栽培は僅に其の一部に止れり南鮮地方は氣候溫和なるを以て秋蒔に適し北部は冬季氣溫低きを以て春蒔となす小麥は近年生活程度の向上に因り鮮内消費額益増加するも猶ほ米、大豆に次ぐ重要輸移出品たり  
ニ粟 粟は西北鮮地方に於ける主要畑作物にして重要なる該地方の常食にして其の栽培も亦古來より盛に行はれ作付面積及收穫高亦麥類に次ぐも未だ鮮内の需要を充すに足らず大正十一年度に於ては七十一萬六千二百二十石其の價額八百八十二萬六千八百六十圓の輸移入を見たり

主要農作物作付段別及收穫高

大正十一年十二月

道名	作付		計	收穫		計	一反步收穫高	
	水	陸		水	陸		水	陸
京畿道	100,000,000	2,500,000	102,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	
忠清北道	69,000,000	500,000	69,500,000	680,000	400,000	1,080,000	1,080,000	
忠清南道	10,000,000	1,000,000	11,000,000	1,000,000	800,000	1,800,000	1,800,000	
全羅北道	16,000,000	1,000,000	17,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	2,000,000	
全羅南道	101,000,000	4,000,000	105,000,000	1,800,000	1,800,000	2,600,000	2,600,000	
慶尙北道	18,000,000	4,000,000	22,000,000	2,000,000	1,800,000	3,800,000	3,800,000	

道名	作付反別			收穫			一段步收穫高		
	水	陸	計	水	陸	計	水	陸	計
慶尚南道	一六三、七〇七	三、四七九	一六五、一八六	一、八三三、三六四	一九、四〇〇	一、八五二、七六四	一、一三三	〇、八〇七	〇、九四〇
黃海道	一三六、二八一	三、〇〇〇	一三九、二八一	七五九、四七七	二、〇五五	七六一、四八二	〇、〇六二	〇、五七一	〇、五七二
平安南道	空、三九一	四、九三九	六八、一四七	四九七、〇七一	三、〇一〇	五三三、〇八一	〇、七五五	〇、六五〇	〇、六五〇
平安北道	七四、六〇七	五七、六三二	一三二、二四〇	六七一、四五一	三、九〇三	六七五、四一四	〇、九三八	〇、六八八	〇、六八八
江原道	七八、六四四	三〇、六	七八、六五〇	七三〇、三三九	一、三三九	七三〇、四七四	〇、九三三	〇、四三一	〇、四三一
咸鏡南道	四三、九六九	三〇、七	四三、九七六	三七四、七五九	一九一	三七四、九五〇	〇、八八三	〇、六三三	〇、六三三
咸鏡北道	八、七九三	〇、二	八、七九三	七九、七三二	一	七九、七三三	〇、八八三	〇、六三三	〇、六三三
合計	一、五九九、五七二	一八、四〇七	一、五五五、九八〇	一四、八九四、八八五	一、五九七	一五、〇一四、五八二	〇、九七三	〇、六四四	〇、六四四
大正十年	一、五三三、一七三	一八、三六八	一、五五二、五四一	一四、〇〇六、三三三	一、八〇八	一四、三三四、五三三	〇、九三九	〇、六四三	〇、六四三
大正九年	一、五七、六六一	一七、七九七	一、五五五、四〇五	一四、七六五、五五二	一、二七九	一四、八三三、三三三	〇、九六〇	〇、六八九	〇、六八九

道名	作付反別			收穫			一段步收穫高		
	水	陸	計	水	陸	計	水	陸	計
忠清北道	六二、七三二	一、七〇八	六四、四四〇	四六五、一九七	九、〇三九	四七四、二三六	〇、七五三	〇、五〇〇	〇、五〇〇
忠清南道	五七、七六四	一四、八三三	七二、五九七	四八八、九六八	八、五三三	四九七、五〇一	〇、七六四	〇、五〇九	〇、五〇九
全羅北道	三三、六三二	一、九六三	三五、五九五	三三一、五〇九	七、九〇八	三三九、四一七	〇、八八一	〇、六〇九	〇、六〇九
全羅南道	一三三、〇九八	三三、〇〇四	一六六、一〇二	一、四〇七、七三九	一〇、〇七九	一、四一七、八一八	〇、九〇四	〇、五九六	〇、五九六
慶尚北道	二四、三七八	四八、五六五	七二、九四三	一、四八一、八九九	三、八三三	一、四八五、七三二	〇、八七七	〇、五九六	〇、五九六
慶尚南道	一三〇、二九一	二一、七九〇	一五二、〇八一	一、四〇一、八五四	一四、六〇九	一、四一六、四五三	〇、九〇四	〇、五九六	〇、五九六
黃海道	一五、三三七	一六、八六五	三二、二四二	一、五〇七、八五四	七、〇九七	一、五一四、九四一	〇、七三四	〇、五八八	〇、五八八
平安南道	一八、三八二	三、一四一	二一、五二三	一、四〇七、一〇〇	五、一九九	一、四一二、三〇〇	〇、六七五	〇、四一一	〇、四一一
平安北道	一、〇九三	一、六二九	二、七二二	七四、九三三	一、五九二	七六、五二五	〇、六七五	〇、四一一	〇、四一一
江原道	三三、四四五	三、六三三	三七、〇七八	三三三、八四二	〇、三三三	三三四、一七五	〇、五三九	〇、四二二	〇、四二二
咸鏡南道	三六、八六一	七、二六二	四四、〇七三	三三三、五九七	三、七九〇	三三七、三八七	〇、五三九	〇、四二二	〇、四二二
咸鏡北道	四三、五三〇	四七、一八九	九〇、七二九	三三九、四三七	〇、一八八	三四〇、六一五	〇、五三九	〇、四二二	〇、四二二
合計	八二六、一〇一	三六、一七五	八六二、二七六	六、八一九、七三三	三、五七四	七、四七四、三〇七	〇、五七四	〇、四二二	〇、四二二
大正十年	八〇七、四四九	三三、七九〇	八四一、二三九	六、六一五、五〇〇	三、一七〇、五五五	六、七八〇、六九五	〇、五七三	〇、四二二	〇、四二二
大正九年	八四、〇九〇	三三、五八九	一一七、六七九	七、三六六、〇〇〇	二、四〇五、六四四	七、七七一、六四四	〇、八四四	〇、四二二	〇、四二二

道名	作付反別			收穫高			一段步收穫高		
	大豆	小豆	粟	大豆	小豆	粟	大豆	小豆	粟
京畿道	八三,〇二八・一町	一四,四九六・六町	三三,三三三・三町	四八六,四四四石	六四,〇五九石	一七四,六四四石	〇,五五五石	〇,四四九石	〇,五九九石
忠清北道	三五,〇九三・九	八,三三七・七	一五,九四四・六	三二〇,五六三	三九,五〇五	九四,四二五	〇,六〇〇	〇,四七二	〇,五九三
忠清南道	四六,六八四・五	八,〇七六・四	一五,六四〇・〇	三三三,〇四九	三八,七一九	一〇,七四九	〇,六〇六	〇,四七九	〇,六八七
全羅北道	三三,八八〇・九	六,六九八・八	一,七三三・五	一五二,三三七	一八,一三八	一〇,六九五	〇,四〇〇	〇,一七一	〇,六四三
全羅南道	三六,七四八・一	五,七九七・四	三六,五五三・六	二四四,五四六	一四,五五七	三六,〇八三	〇,五九〇	〇,四一八	一,〇〇〇
慶尙北道	一〇六,九四一・一	四,五六六・六	四一,九二四・〇	七二四,四四九	三三,四三〇	二六,四三三	〇,六六八	〇,四四〇	〇,七五五
慶尙南道	五九,六七九・八	五,六六三・三	三,七五六・九	三八九,七七五	二六,三三三	二六,一〇六	三,六三三	〇,四六五	〇,九四九
黃海道	九〇,一四八・四	七,一〇四・一	一八三,八五四・九	四四四,一四五	二五,三三〇	一,一六三,八六一	〇,四八九	〇,三三三	〇,六三六
平安南道	五三,一三六・七	五,一八九・四	一三八,一八六・五	二七三,四三六	一六,三三七	一,三〇三,五五〇	〇,五三三	〇,三三三	〇,八〇六
平安北道	六七,八七六・五	三九,四三三・二	一一一,〇五七・八	三六五,〇六六	二七,八二三	六四九,〇四九	〇,五九九	〇,三九八	〇,五八四
江原道	六四,一一一・〇	三三,九八七・七	七八,九四一・〇	三三三,八三五	六九,五五二	四四,七三六	〇,五〇〇	〇,三九一	〇,五三五
咸鏡南道	六五,六〇八・八	一八,三〇三・三	八五,六六八・四	三三九,四九六	五四,六〇〇	四八,七六三	〇,五〇二	〇,三九九	〇,五三四
咸鏡北道	五五,四三三・九	二,六四九・六	六七,五五一・四	三三四,〇五〇	一一,四六六	三九七,〇二五	〇,六〇四	〇,四六六	〇,五八八
合計	七九六,一〇四・七	三三〇,九二七・二	七八五,九八五・八	四,五二五,八三六	九〇三,三四七	五,二八,一〇二	〇,五六七	〇,三四六	〇,六三四

輸移出穀物三年對照

品名	大正九年	大正十年	大正十一年
大豆	七六六,〇二四・二	三三三,六三三・〇	七七八,〇三七・八
小豆	七二,〇五三・〇	三三,三三三・〇	四,六七九,三三八
粟	三三,三三三・〇	四,六七九,三三八	一,〇七四,四一八
合計	七九八,〇七七・二	三六六,九六六・〇	一,一八二,七五四・六

品名	輸移出穀物三年對照		
	大正九年	大正十年	大正十一年
米	三,五五六・三石	三,五五六・三石	三,一〇〇,〇〇〇石
大豆	九三,八二二・九石	九三,八二二・九石	九三,八二二・九石
小豆	一,九一九・〇石	一,九一九・〇石	一,一八三・五石
大麥	三三九,三三三石	三三九,三三三石	六九,六五〇石
小麥	四六,四九九石	四六,四九九石	三〇,八五五石
合計	四九三,〇八八・四石	四九三,〇八八・四石	四九三,〇八八・四石

品名	大正九年			大正十年			大正十一年		
	数量	金額	平均	数量	金額	平均	数量	金額	平均
小豆	10,350石	19,550円	1.90	6,750石	9,950円	1.48	19,500石	39,600円	2.03
菜豆	3,200石	3,400円	1.06	3,600石	3,600円	1.00	3,600石	3,600円	1.00
其他の豆	3,000石	3,000円	1.00	3,000石	3,000円	1.00	3,000石	3,000円	1.00
玉蜀黍	3,000石	3,000円	1.00	3,000石	3,000円	1.00	3,000石	3,000円	1.00
其他の穀物	1,000石	1,000円	1.00	1,000石	1,000円	1.00	1,000石	1,000円	1.00
合計	20,550石	40,950円	1.99	17,350石	20,550円	1.18	30,100石	60,200円	2.00

備考 大正九年度に於て米其他輸移出額の減少せるは大正八年に於て早魃の被害あり其の影響を受けたるに由る

輸移入穀物三年對照

品名	大正九年			大正十年			大正十一年		
	数量	金額	平均	数量	金額	平均	数量	金額	平均
米	5,900石	11,800円	2.00	18,800石	37,600円	2.00	17,900石	35,800円	2.00
粟	2,000石	4,000円	2.00	2,000石	4,000円	2.00	2,000石	4,000円	2.00
落花生	3,000石	6,000円	2.00	3,000石	6,000円	2.00	3,000石	6,000円	2.00
小豆	5,000石	10,000円	2.00	5,000石	10,000円	2.00	5,000石	10,000円	2.00
其他の豆	2,000石	4,000円	2.00	2,000石	4,000円	2.00	2,000石	4,000円	2.00
其他の穀物及種子	1,000石	2,000円	2.00	1,000石	2,000円	2.00	1,000石	2,000円	2.00
合計	19,900石	39,800円	2.00	32,800石	65,600円	2.00	31,900石	63,800円	2.00

**ホ甘藷** 朝鮮地方に多く栽培せられ農家の補食用として嗜好せらる  
**へ馬鈴薯** 朝鮮地方に多く生産し品質優良なるものあり其の栽培年々増加し甘藷と  
 共に農家各種の補給に充てられつつあり

**ト果實** 朝鮮の風土は極めて果樹の生育に適するを以て近時京城、仁川、素砂、大  
 邱、大田、三浪津、金海、黃州、鎮南浦、平壤、咸興、德源、羅南を始め其の他各  
 地に於て其の栽培に従事する者年々増加するに至れり

**一栗** 古來各道に栗を産せざるはなきも就中平安南道の咸從に産するものは澁皮  
 の剝離容易にして甘味に富めり京畿道、平安南道には栗林の殖栽尠からず

**二柿** 概ね澁柿にして湯にて澁を抜き又は吟に投じて熟柿とし又は剥皮して乾柿  
 と爲す忠清南道、全羅北道、慶尙北道等産出多し

**三桃** 毛桃は水蜜桃に類し味稍佳なれども毛無桃は從來の内地桃に類し品質劣れ  
 り近來京城、開城、三浪津等に於て改良種の良果を産出す

**四苹果** 在來種は産額少く小形にして品質劣等なり近來優良種の苹果各地に栽培  
 せられ品質良好にして遂に内地産品を凌駕し内地、滿洲及西伯利に於ける需用多

く好評を博しつつあり

**五梨** 在來梨は咸興梨の如き稍良品なきにあらざるも一般に味佳良ならず之に反  
 して内地種は能く良果を結びて味亦好良に其の栽培年に増加せり又洋種の結實は  
 内地に比して著しく優れり

**六葡萄** 風土能く洋種葡萄に適し内地に於て栽培困難なる良種も容易に結實し甘  
 味多く品質良好なり

**チ蔬菜** 從來白菜、蘿蔔、甜瓜、南瓜、水芹、蒜等の栽培多く行はれ開城白菜の如  
 き其の尤なるものなり近來内地人の移住増加に伴ひ種々なる蔬菜類の栽培行はれ結  
 球白菜、胡瓜、茄、牛蒡、胡蘿蔔、菠薐草、野蜀葵、菜豆、茼蒿、葱、甘藍、西洋

甜瓜等の類漸次増加するに至れり

**リ棉花** 棉は江原道咸鏡南道の一部及咸鏡北道を除くの外各地殆ど之を栽培せざる  
 なく就中全羅南道、慶尙北道及平安南道は其の主産地にして全羅北道、忠清南道  
 及黃海道之に亞ぐ棉質纖維長くして彈力に富み各種の用途に適す從來朝鮮人は衣料  
 に供すべき綿布を製するに自ら紡績し自ら製織して需用に供する慣習なりしも内地



より精練なる紡績絲の移入するに及びて棉花の紡績漸く減少せり又一方に於て朝鮮産棉花を内地に移出するの途開け販路擴張し漸次好況を示すに至りしも在來種は其の品質優良ならざるを以て明治三十九年以來政府保護の下に收量繰綿歩合共に多く纖維の細長にして紡績原料に好適せる米國種陸地棉の栽培を奨励せしに成績良好にして年々其の栽培反別を増加し明治四十三年に於ては陸地棉作付反別千二百六十八町步其の栽培戸數僅に二萬九百餘戸なりしに大正十一年には作付反別十萬四千二十五町步其の栽培戸數五十七萬四百七十戸の多きに達し尙大正八年より京畿、黄海、平安南北の四道及忠清北道、慶尙北道の一部に於て陸地棉に不適なる地方は在來棉を奨励栽培せしめ大正十一年に於ては棉作付總面積四萬七千五百六十八町步其の栽培戸數二十四萬一千五百餘戸に及びり

棉作付段別收穫高及輸移出額

年	作付段別		收穫		輸移出額
	在來棉	陸地棉	在來棉	陸地棉	
計					
計					

大正八年	三六、三〇〇・九町	一〇九、一三六・三町	一四九、四七〇・一町	一一、三三四、三三五斤	八六、〇三四、六〇五斤	九七、三三八、九七斤	八、一四七、七〇四圓
同九年	三九、七〇九・〇町	一〇六、六九七・四町	一四六、四〇六・四町	三六、三五六、二二斤	八八、四六一、三九六斤	一一四、七二七、六〇七斤	六、〇〇〇、三〇三圓
同十年	四三、七九六・八町	一〇四、六〇〇・七町	一四七、七三三・五町	三七、六八、五五斤	六七、八七五、七〇斤	一〇九、四六六、一三三斤	三、五九〇、三三三圓
同十一年	四七、〇五六・八町	一〇四、〇三三・五町	一五一、〇八三・三町	三九、九九、三三斤	八八、七六六、六三三斤	一一八、七〇八、一三三斤	三、五九〇、一四九圓

又甜菜 甜菜は明治三十九年來勸業模範場並道種苗場に於て試験の結果西鮮地方の風土に適するを認められ大正八年には大日本製糖會社の平壤に製糖工場を設置して同九年より製糖作業を開始せるあり大正十一年には平南、黄海兩道に亘り大約千八百町步に原料甜菜を栽培せり

蠶繭及生絲業 蠶繭は特殊農産物中最重要なるものに屬し今や全道到る處其の生産を見ざるはなく就中慶北、平南、忠南、平北、江原の五道を其の主産地とす從來の蠶種は雜駁劣等なる三眠蠶にして桑樹は畦畔宅地等に散植し培養を加ふることなく葉質概ね粗惡なりしも明治三十九年以來特に品種の改良に努めたる結果市平、魯桑の如き優良桑樹の栽培普及し蠶種も亦又昔、白龍の如き優良蠶種の飼育年と共に普及し産繭の品質は育蠶技術の進歩と相俟て顯著なる向上を見るに至り更に大正六年

新奨励品種として純粹種朝歐一號、朝歐二號の二種一代交雜「ジャロヘルージャ」と支那二十號特大との交雜、愛歐一號と支那二十號特大との交雜、赤熟と支那二十號特大との交雜「ブラン、ビュール」と支那七號との交雜の四種合計六種を追加し大正八年には朝鮮蠶業令及其の關係法規を發布して以來蠶種の製造、蠶種桑苗の移入桑苗の生産販賣、蠶病の豫防等に關する取締を行ひ大正十年には國蠶日一號と國蠶支四號との交雜、國蠶支四號と國蠶歐三號との交雜、國蠶支七號と國蠶歐七號との交雜蠶種三種を新奨励品種に追加せり斯して一般蠶業の發達に伴ひ近時工場組織に依る輸出向生絲の製造者起り其の釜數一千七百四十、生絲生産額三萬一千八十六貫を算するに至れり

道名	桑田段別	養蠶戸數	立蠶枚數	蠶産額			製絲戸數	製絲額
				春蠶	夏蠶	秋蠶		
京畿道	三三,二四・九	三七,三六五	四三,六〇七	一〇,一六六	七五	一,二二五	一,一四八	四〇,〇〇〇
忠清北道	三,一八九・七	三,七九六	三六,四三三	七,四四四	三三	七三三	八,四五六	一〇〇
忠清南道	五,三三六・八	三三,三一九	四九,三三三	一〇,〇〇〇	一一五	一,八五六	一,九〇〇	四〇〇
全羅北道	一,三三六・五	一五,八四〇	三三,三三三	五,六九九	五	一,二〇〇	七,〇〇〇	一,七七一
全羅南道	一,九八・四	三三,〇〇〇	四三,三三三	九,七八二	二五	二,七五四	一,六五一	八七
慶尙北道	三,〇一〇・一	五九,八六六	七六,八〇〇	一〇,八三三	一三	二,四〇六	三,〇〇〇	三,八三六
慶尙南道	一,一九九・二	七,四七七	一九,一三五	三,五五六	一	一,八二四	五,四〇五	八六
黃海道	三,〇四・五	一四,四〇五	二一,六四九	五,一三七	三	一,四〇〇	五,八四四	七五
平安南道	三,三六九・三	二六,六三三	五五,三〇四	一〇,一〇五	一	七四七	三,一〇一	三,〇〇六
平安北道	三,〇三九・六	三〇,〇四六	四七,九六一	一〇,九〇一	一	一,二九	一,〇〇一	一〇,一〇一
江原道	三,〇〇七・三	三七,六五四	四八,四四四	一〇,九六一	一	一,三三六	一,一四〇	四,八六六
咸鏡南道	三,三三三・四	二九,〇一一	三五,一五三	七,六八六	一	七三三	九,三三三	三,〇〇〇
咸鏡北道	六,三六・一	五,三九〇	四,四三三	七,六八六	一	四八六	一,三三八	一〇五
總計	三二,四九八・八	三二,七六六	四九,八三三	二八,六六六	六九	一七,〇五五	一四,三六九	四三,三三三

家

蠶

大正十一年十二月

ヲ家畜

一牛 農耕、運搬用及食用として需用多く到る處の農家に飼養せらる體格大に體質強健にして而も性質溫順なるを以て幼童と雖も能く使用し得べく又其生産豐饒

價格廉なるを以て内地、露領沿海州及支那等に移輸出せらるるもの多し大正十一年に於ける生牛の移輸出額四萬五千餘頭價額三百十五萬餘圓を算し牛皮、牛骨、牛脂牛蠟の輸移出額亦二百四十三萬八千餘圓に上り財界の高潮時代に比し其の價稍下落せしも成牛一頭牡百二三十圓、牝九十圓内外に達す乳用牛にはホルスタイン種エーアシャー種を主とし大正十年には八百餘頭其の搾乳高四千餘石に上れり

二馬 朝鮮馬は體軀矮小にして耕耘に使用せられざるも比較的力強く險路峻坂を行くに巧にして専ら乗駄兩用に供せられ性質亦順良にして御し易し普通一頭の價格約八九十圓なり近時内地産の馬を移入する者著しく増加し勸業模範場蘭谷牧馬支場に於ては新馬種の生産試験を行ひ咸鏡北道に於ては雄基に種馬所を設けて内地産馬の種付を奨励せり其の他李王職に於ては京畿道水原郡に華山牧場を設け民間に於ては忠清南道天安郡成歡に成驢牧場あり共に外國種の蕃殖普及を圖りつつあり

三驢、騾 乗駄兩用に供せらるるも其の數少なく驢は一頭の價約六七十圓騾は八九十圓内外なり

四綿羊 大正八年より咸鏡南北道、平安北道、黃海道、全羅南道の五道に蒙古種羊を民間に配付して試験的飼育を行はしめ洗浦牧羊支場に於ては目下蒙古種とメリノ一種及シロツプシア種との雜種蕃殖及純粹蕃殖の試験中なり

五豚 普く農家に飼養せられ其の數牛に次ぐ在來種は體軀矮小晩熟にして肥大性を欠き品質劣等なれども其の生産頗る多く一頭の價十二圓内外なり近年改良種としてパークシア種の飼養漸次増加し大正十一年末には約十八萬頭に及び總頭數に對する改良種の歩合十六パーセントに達せり

六家禽 鶏最多數を占め鶯、鶯及七面鳥等は其の數甚だ少し鶏は殆ど農家に於て飼養せざるはなく在來種は内地の地鶏に酷似し稍小形にして性質頗る敏捷に産卵少く卵形亦小にして一箇年の産卵約七十顆に過ぎず一羽の價一圓内外なり近年改良種として白色レグホン、ブリマスロツク名古屋コーチン種の飼養漸次増加し大正十一年末には總羽數に對する改良種の歩合十四パーセントに達せり

七養蜂 朝鮮人は古來蜂蜜を食用及藥用に供するを以て蜜蜂を飼養する者尠からず江原道平安北道咸鏡南道最盛にして大正十一年の生産額は蜂蜜、蜜燭約九十萬

